診療年報

第５号
(2015年)

北九州市立八幡病院

救命救急センター
EMERGENCY AND CRITICAL CARE MEDICAL CENTER
北九州市立八幡病院
KITAKYUSHU CITY YAHATA HOSPITAL
小児救急センター

北九州市立八幡病院

院長あいさつ

2015年 市立八幡病院年報 発刊に寄せて

病院長　市川 光太郎

晩秋というより、初冬を思わせる朝の冷え込みを感じる日々となり、また慌ただしい年末年始が近くなったと想う日々です。救命救急センターとして年末年始は普段どおりの稼働ですが、休診する診療所等で、普段より忙しくなるのは仕方ないことでしょう。ある意味で、患者さんが増える良いチャンスと捉える職員の意識も必要かもしれません。少ない人員で効率よい医療提供を行うためには個々の最適化を行い、パフォーマンス能力を高めることにより、組織としての最適化となり、組織としてのパフォーマンスが高まることにより、地域の最適化につながるでしょう。このような意識を持ち続け、「ヒトの命を助ける誇りを忘れずに患者さんの側に立って医療者としての社会的責任を全うする」ことができれば、きっと地域社会・住民に対して病院医療は還元されるでしょう。すなわち、病院が住民の健康を守り、住民・地域社会が病院活動を守るという、正の循環が生じると考えられ、できるだけ「見える化」のある病院活動・医療を行う必要があります。そのためにも、病院の実情や情報を提供して病院の現状を知っていただくという、「ディスクローズ」活動も行うべきと思います。

いずれにせよ、自治体病院の使命として、地域住民の健康を守ること、地域の医療提供体制を守ることが挙げられ、この実践が求められています。このような意識を職員一同が持つことが必要であり、そのうえでの院内外への病院活動の発信が重要と考えます。

病院年報は病院活動の成果であり、その年のアウトカムであります。病院全体・各部署の活動の記録です。院内外での活動記録ですが、その原点には患者さんあっての活動でなければなりません。いかに患者さんのケアを行って得られたアウトカムかが求められています。そういう意味では単に活動記録が多ければ良いと言うものではなく、患者さんに寄り添った医療提供を行った結果の活動記録にしていきたいものだと常々考えています。手にされた方もそういう視点で見て読んで頂きたいし、その魂が入ってなければ厳しく評価・批評していただきたいと願っています。より良いアウトカムを出して住民のための病院活動にもっともっと近づけるように職員みんなで努力していきたいと考えています。

平成28年11月吉日

目次

CONTENTS

院長あいさつ

1. 病院概要

基本理念・基本方針…… 1

組織図…… 2

職員名簿…… 3

2. 医療分析

全体的統計…… 9

3. クローズアップ

新しい北九州市医師会医療救護計画及び災害医療作戦指令センター(DMOC)について …13

DPC導入準備に向けて ……14

集中ケア認定看護師の活動について……15

救急看護認定看護師としての活動……16

小児救急看護認定看護師の活動について……17

地域医療従事者研修……18

4. 診療科部門紹介

内科……19

循環器内科……20

小児科……24

外科・呼吸器外科……25

整形外科……27

脳神経外科……28

形成外科……30

救急科……32

精神科……33

眼科……34

泌尿器科……35

放射線科……36

産婦人科……37
薬剤課……38
放射線技術課……39
臨床検査技術課……40
リハビリテーション技術課……42
臨床工学課……43
栄養管理課……44
看護部……45
事務局……46
医療連携室……47

5. 業績集

内科……49
循環器内科……50
小児科……58
外科・呼吸器外科……75
整形外科……89
脳神経外科……89
形成外科……89
麻酔科……91
救急科……92
精神科……94
眼科……95
泌尿器科……95
薬剤課……95
放射線技術課……97
臨床検査技術課……97
リハビリテーション技術課……98
栄養管理課……98
看護部……98
院内研究会…… 105

CONTENTS

6. 委員会報告

災害対策チーム委員会…… 111
ＩＣＴ委員会・感染制御室…… 112
臨床検査部門委員会…… 114
輸血療法委員会…… 116
広報委員会…… 118
リスクマネジメント部会…… 120
医療連携室運営委員会…… 121
リハビリテーション部門委員会…… 122
クリニカルパス委員会…… 124
褥瘡対策委員会…… 126
臨床研修管理委員会…… 127
センター連絡会議…… 128
電子カルテ委員会…… 130
内視鏡委員会…… 131
がん化学療法委員会…… 132
ソフト・アップ委員会…… 134
栄養管理委員会…… 135
コミュニティアクション・ヘルスサポート委員会…… 136
病床運営委員会…… 137

7. 各種学会指導医・専門医・認定医一覧 ……139

8. 編集後記 ……143

1

病院概要

基本理念・基本方針

基本理念

私たちは、24時間質の高い医療を提供し、
皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

基本方針

1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。

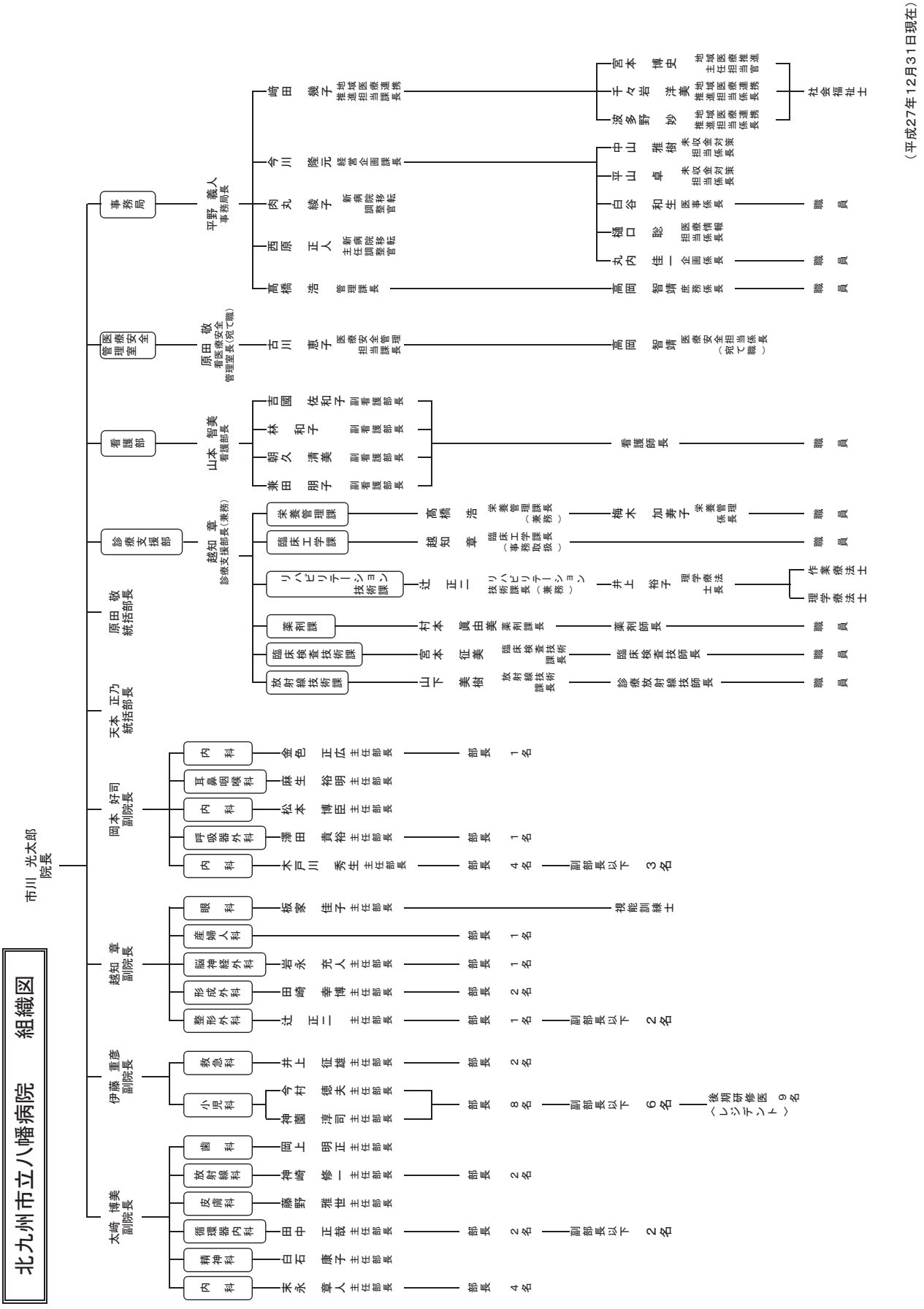
2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行います。

3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。

4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。

5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

組織図



（平成27年12月31日現在）

職員名簿

職名	氏名
院長	市川光太郎
副院長	太﨑博美
副院長	伊藤重彦
副院長	越智章
副院長	岡本好司
統括部長	天本正乃
統括部長	原田敬
●内科	
主任部長	末永章人
部長	下野淳哉
部長	川口浩太郎
部長	中村寛
部長	川波敏則
●循環器内科	
主任部長	田中正哉
部長	小住清志
部長	佐貫仁宣
副部長	中園和利
	眞田賢哉
●整形外科	
主任部長	辻正二
副部長	杉山健太郎
副部長	上戸康平
副部長	杉原祐介
●外科	
主任部長	木戸川秀生
部長	山吉隆友
部長	野口純也
部長	新山新
部長	上原智仁
副部長	沖本隆司
	榊原優香
	野々村遼
●呼吸器外科	
主任部長	澤田貴裕
部長（兼務）	井上征雄

職名	氏名
●救急科	
主任部長	井上征雄
部長（兼務）	岩永充人
部長	田口健蔵
●小児科	
主任部長	神薗淳司
主任部長	今村徳夫
部長	石橋紳作
部長	山根浩昌
部長	松島卓哉
部長	富田芳江
部長	富田一郎
部長	八坂龍広
部長	小野友輔
部長	小野佳代
副部長	岡畠祥憲
副部長	福田信也
副部長	長嶺伸治
	増井美苗
	沖剛
レジデント	小林加奈
レジデント	村上珠菜
レジデント	中野慎也
レジデント	松石登志哉
レジデント	松永遼
レジデント	青砥悠哉
レジデント	小林優
レジデント	平田衣乃
レジデント	森吉研輔
●形成外科	
主任部長	田崎幸博
部長	今村禎伸
部長	諸岡真
●脳神経外科	
主任部長	岩永充人
部長	福田修志

職名	氏名
●皮膚科	
主任部長	藤野雅世
●泌尿器科	
主任部長	松本博臣
●産婦人科	
部長	今福雅子
●眼科	
主任部長	板家佳子
●耳鼻咽喉科	
主任部長	麻生裕明
●放射線科	
主任部長	神崎修一
部長	今福義博
部長	今村紹美
●麻酔科	
主任部長	金色正広
部長	石田昌一
●歯科	
主任部長	岡上明正
●精神科	
主任部長	白石康子
主任	大西祥子
●診療支援部	
部長（兼務）	越知章
○薬剤課	
課長	村本眞由美
薬剤師長	坂本佳子
薬剤師長	末吉宏成
薬剤師長	原田桂作
主査	田﨑奈緒子
主査	山本朗子
主査	米倉紀子
主任	福永竜一
主任	中村祥子
主任	姫野英二
主任	宮野佳子

平成 27 年 12 月 31 日現在

職員名簿

職名	氏名
薬剤師	宗吉　泉
主任	毛利由佳
薬剤師	久保地倫子
薬剤師	横松恵里佳
○臨床検査技術課	
課長	宮本征美
臨床検査技師長	中村尚子
臨床検査技師長	荒木　猛
臨床検査技師長	久野淳二
主査	松山郁子
主査	渡邉和枝
主査	三浦明美
主査	島　浩司
主査	松本誠也
主任	恵良美由紀
主任	吉田裕見子
主任	三嶋里恵
主任	新山のぞみ
主任	實藤清美
主任	栗田恵利
臨床検査技師	近藤嗣通
臨床検査技師	津留崎　舞
臨床検査技師	鈴木佑理
臨床検査技師	光末后希
○放射線技術課	
課長	山下三樹
診療放射線技師長	高森泰行
診療放射線技師長	島田章弘
診療放射線技師長	清水艶鳴
診療放射線技師長	谷口和博
主査	大隅政治
主査	辰本直久
主査	中山敏文
主査	樽林　斉
主査	荻野和寿
主査	滿園裕樹

職名	氏名
主任	入江佳世
主任	佐竹美智子
主任	亀井良子
主任	九町章博
主任	大庭正章
診療放射線技師	宗吉佑樹
診療放射線技師	入部勝博
診療放射線技師	永友　徹
診療放射線技師	中村　航
○リハビリテーション技術課	
理学療法士長	井上裕子
主査	須﨑省二
主任	砂山明生
主任	高橋倍美
主任	武田優子
理学療法士	武田良太
○臨床工学課	
主任	伊香元裕
臨床工学技士	倉田　匠
○栄養管理課	
栄養管理係長	梅木加寿子
管理栄養士	石田綾子
●看護部	
看護部長	山本智美
副看護部長	兼田朋子
副看護部長	朝久清美
副看護部長	林　和子
副看護部長	吉國佐和子
看護管理担当課長（兼務）	﨑田幾子
看護管理担当課長（兼務）	古川恵子
感染管理担当係長	中川祐子
看護師長（兼務）	千々岩洋美
看護師長（兼務）	波多野　妙
○外来	
看護師長	原田かをる
看護師長	梶原多恵

職名	氏名
主査	磨田かおる
主査	木崎早苗
主査	久家憲子
看護師	三好博子
看護師	松永直美
看護師	川原恵美子
看護師	佐々木知子
看護師	小椋裕美
看護師	田中美子
看護師	吉田　愛
看護師	藤井あい
看護師	足立奈緒子
看護師	伊東知佐子
看護師	松本由紀
○救急部	
看護師長	木村律子
看護師長	植田啓子
看護師長	小林和枝
看護師長	髙田久子
看護師長	西田ゆかり
看護師長	稲葉ますみ
看護師長	勝元美佳
看護師長	塩田美樹
看護師長	佐藤奈々絵
看護師長	橋本真美
看護師長	新屋敏江
看護師長	山下奈緒
主査	吉武知美
主査	井筒隆博
看護師	岩下律子
看護師	寺地亜希
看護師	土岐美穂
看護師	安部　環
看護師	井上里美
看護師	渡辺恭子
看護師	小西久代

平成 27 年 12 月 31 日現在

職名	氏名
看護師	飯森　美由紀
看護師	小野　早央里
看護師	古賀　隆太
看護師	片平　力
看護師	本山　由佳
看護師	山田　友行
○手術室	
看護師長	永井　文恵
看護師	小玉　久美
看護師	江﨑　亜以
看護師	鞭馬　友美
看護師	郷田　ありさ
看護師	越智　千佳
看護師	仲下　佳菜
看護師	田中　愛実
看護師	吉竹　重乃
看護師	石橋　夕起子
看護師	今野　聡子
看護師	川原　奈津美
看護師	堀　智恵美
○中央材料室	
中央材料室担当係長	吉竹　洋子
○西３階病棟	
看護師長	立石　美枝子
主査	伊村　ときえ
主査	小舟　美穂
主査	松田　ユリ
主査	福永　聡
看護師	尾垣　美江
看護師	江藤　扶紀
看護師	塩田　輝美
看護師	宗　育子
看護師	浦野　妙子
看護師	島村　美紀
看護師	戸簾　妙子
看護師	野村　美映子

職名	氏名
看護師	吉田　梨紗
看護師	萩原　明佳
看護師	三澤　真希
看護師	山下　絵里
○集中治療室（ＩＣＵ）	
看護師長	川﨑　久美子
主査	高森　雅子
主査	三渕　浩子
主査	山下　亮
看護師	森永　久美
看護師	木下　美和
看護師	佐名木　里英
看護師	石本　晶
看護師	上野　真由美
看護師	三井　あゆみ
看護師	深田　智美
看護師	入江　弓子
看護師	渡邊　紘子
看護師	内田　宏美
看護師	木原　朋香
看護師	深田　華子
看護師	木下　章子
看護師	阿部　麻奈美
看護師	山本　優子
看護師	園田　法子
看護師	川本　江美
看護師	馬場　美帆子
看護師	山岡　麻里子
看護師	大原　頼子
看護師	古谷　瑞希
○西４階病棟	
看護師長	杉田　奈都子
主査	池田　由美子
主査	野上　久美子
主査	田端　明子
主査	光吉　久美子

職名	氏名
看護師	友松　むつみ
看護師	島崎　智江
看護師	岡村　志保
看護師	金屋　美千代
看護師	山﨑　悦子
看護師	稲垣　久仁子
看護師	坂本　順子
看護師	山下　美代
看護師	古田　恵美
看護師	柿谷　由香理
看護師	吉田　智絵
看護師	松原　由起
看護師	石川　紗愛
看護師	山田　友美
看護師	森重　優真
看護師	今城　美雪
看護師	松本　真佳
看護師	福島　美咲希
看護師	松﨑　望美
看護師	阿部　千紗
○東４階病棟	
看護師長	井生　恭子
主査	森永　加代子
主査	藤波　志生子
主査	松本　敏江
主査	橋本　優子
看護師	田中　智子
看護師	梶原　小百合
看護師	長田　弘子
看護師	原田　知代美
看護師	武谷　貴代美
看護師	志賀　玲花
看護師	須藤　乃子
看護師	秋吉　美紀
看護師	安永　まゆみ
看護師	川原　千恵美

平成 27 年 12 月 31 日現在

職員名簿

職名	氏名
看護師	藤嶋寛子
看護師	荊尾景子
看護師	魚住久美子
看護師	本汐莉
看護師	金森美樹
看護師	永島裕美
看護師	井田加代
看護師	杉久保富子
看護師	後藤未有
看護師	齋藤明子
看護師	村上美奈
看護師	岸野宏美
○西５階病棟	
看護師長	大塚由美子
主査	花見待子
主査	池田みはる
主査	北村都子
主査	山田洋子
看護師	船原美津子
看護師	谷石香津代
看護師	白石玉枝
看護師	栗田寿美代
看護師	村井澄江
看護師	矢野美佑紀
看護師	中川正男
看護師	上岡由美
看護師	青木悦子
看護師	大内賀央里
看護師	沢田光一
○東５階病棟	
看護師長	津田昭代
主査	川南幸子
主査	山口敦子
主査	北村安妙
主査	原京子
主査	加藤由華

職名	氏名
主査	金瑛華
看護師	福永晶子
看護師	原田佳那
看護師	髙田幸恵
看護師	木下麻衣
看護師	柳順也
看護師	大山元子
看護師	尾上沙也香
看護師	花田有実
看護師	行實香代子
看護師	新宅紗季
看護師	佐々木和子
看護師	盛みずえ
看護師	中岡優希
○西６階病棟	
看護師長	高澤浩美
主査	藤川唯智子
主査	林久恵
主査	桑野雅恵
主査	岡村生久乃
看護師	太田美代子
看護師	永松真由美
看護師	内山睦美
看護師	上村亜希子
看護師	藤田佳奈
看護師	岡本美沙
看護師	中村一貴
看護師	荒牧昌子
看護師	篠原吉宏
看護師	髙尾公子
看護師	上柿萌
看護師	川南衣里
看護師	広瀬倫子
看護師	北川彩美
○東６階病棟	
看護師長	米澤美穂子

職名	氏名
主査	井上裕美
主査	半田和枝
主査	中川路敬子
主査	織田真由美
看護師	山下仁美
看護師	河本久美子
看護師	奥本美由紀
看護師	田島かおり
看護師	小谷玲子
看護師	林内久美子
看護師	吉田晶子
看護師	中村久美子
看護師	伊澤奈緒
看護師	久保﨑沙和
看護師	角田直也
看護師	三島照枝
看護師	松岡フミ
看護師	前田恵
看護師	古川美穂
看護師	藤本瑞希
看護師	村上環
看護師	杉野善彦
看護師	城野道子
看護師	木村由美
看護師	白石裕佳
看護師	田中歩
●医療安全管理室	
医療安全管理室長（充て職）	原田敬
医療安全管理担当課長	古川恵子
医療安全管理担当係長（充て職）	高岡智靖
●事務局	
事務局長	平野義人
○管理課	
管理課長	髙橋浩
庶務係長	高岡智靖
庶務係主任	友岡大雄

平成 27 年 12 月 31 日現在

職名	氏　名
庶務係主任	黒　田　泰　志
庶務係主任	堀　池　寿　彦
庶務係員	山　辺　洸　希
庶務係員	秋　月　健一郎
新病院移転主任調整官	西　原　正　人
新病院移転調整官	肉　丸　綾　子
○経営企画課	
経営企画課長	今　川　隆　元
地域医療連携推進担当課長	崎　田　幾　子
地域医療連携推進担当係長	千々岩　洋　美
地域医療連携推進担当係長	波多野　妙
企画係長	丸　内　佳　一
医療情報担当係長	樋　口　聡
企画係主査	高　橋　直　也
企画係主任	安　部　てるみ
企画係員	増　谷　倫　典
企画係員	佐　藤　裕　美
医事係長	白　谷　和　生
未収金対策担当係長	平　山　卓
未収金対策担当係長	中　山　雅　樹
医事係員	岩　下　健一郎
医事係員	和　田　義　浩

職名	氏　名

職名	氏　名

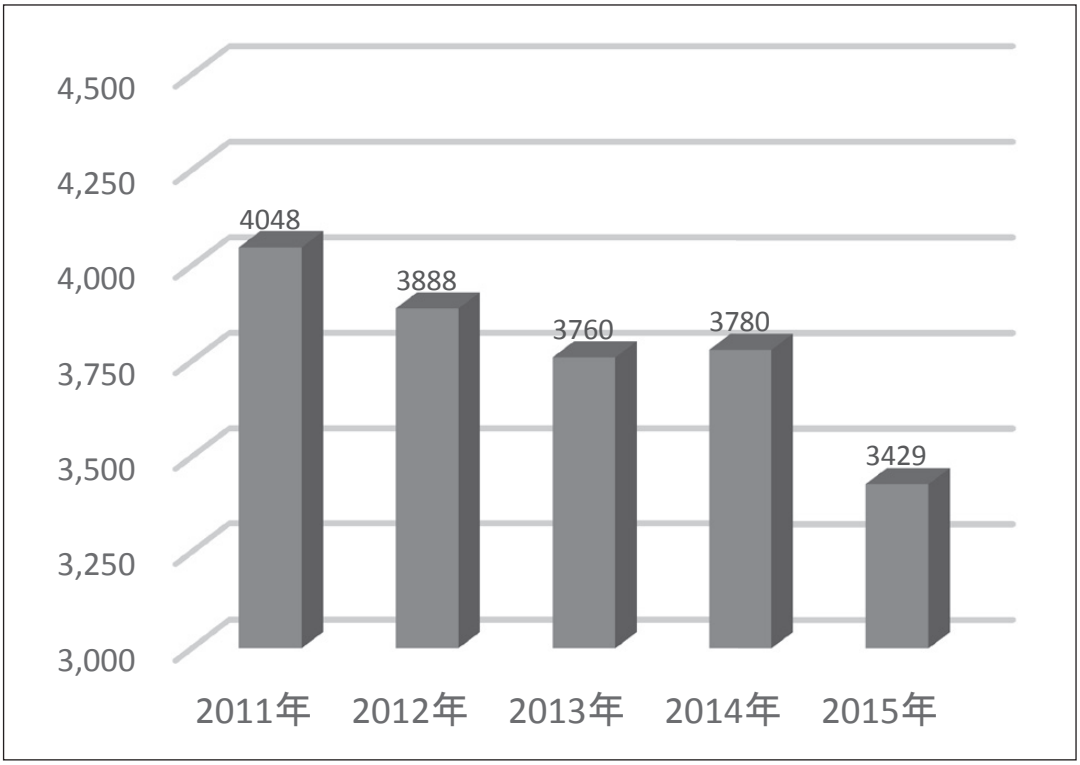
平成 27 年 12 月 31 日現在

2

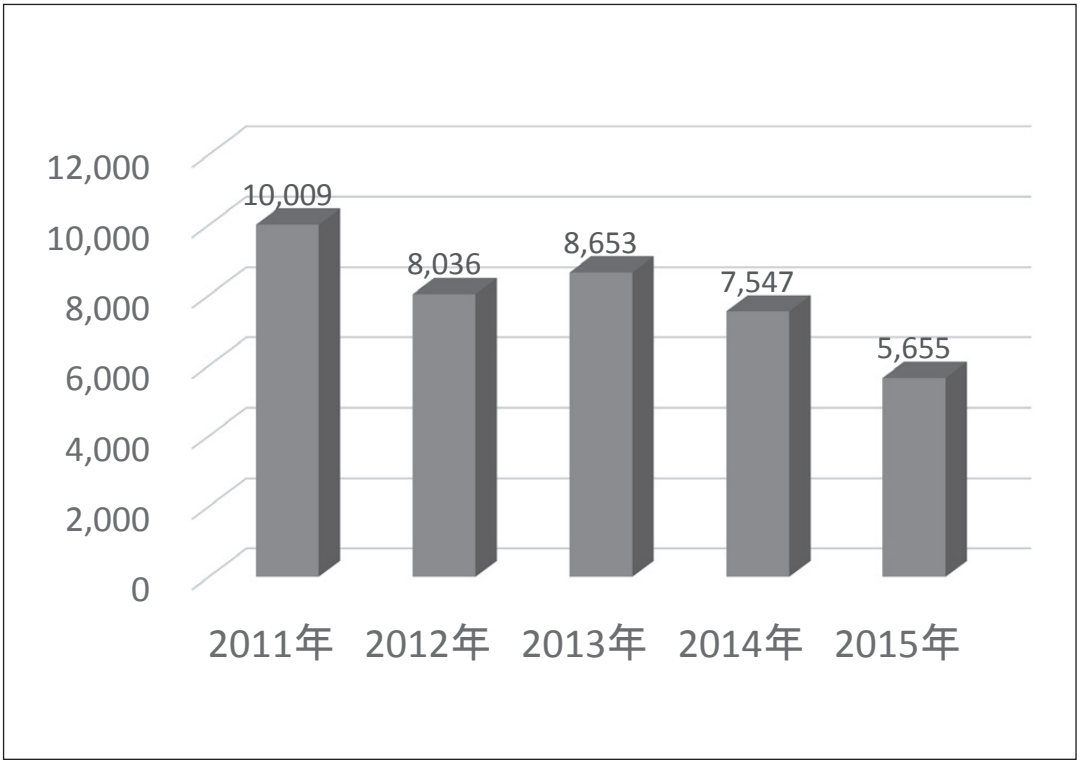
医療分析

全体的統計

●救急車搬入数

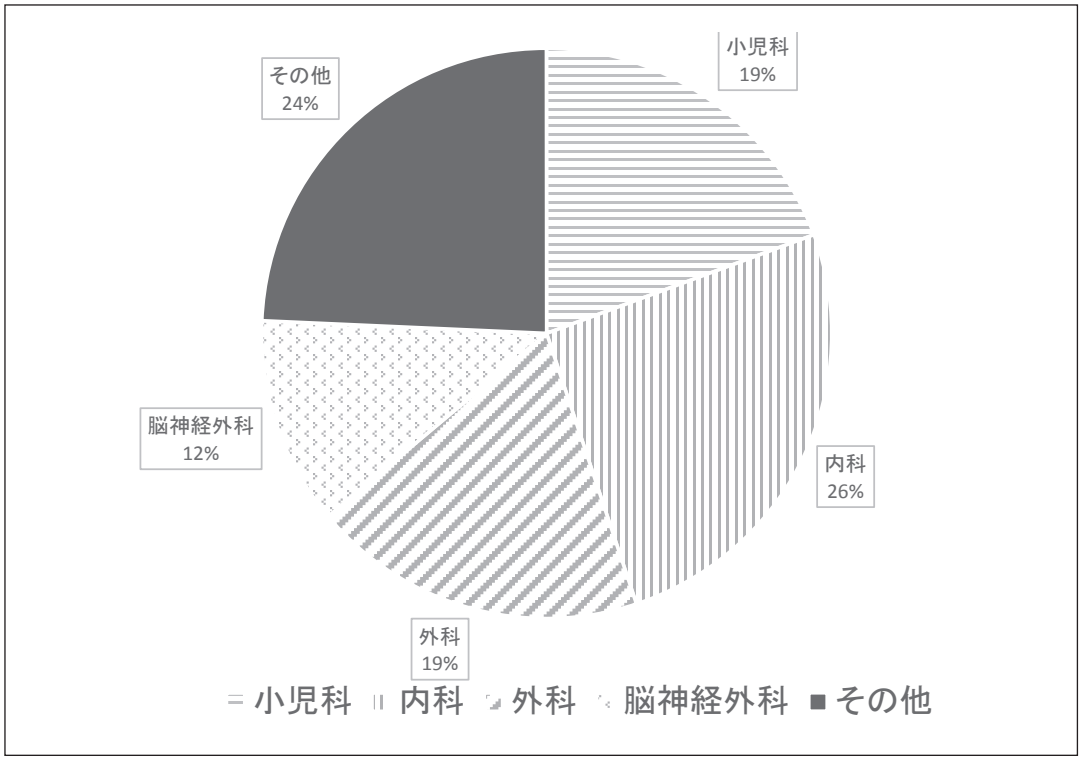


●過去5年間の救命救急センター患者数

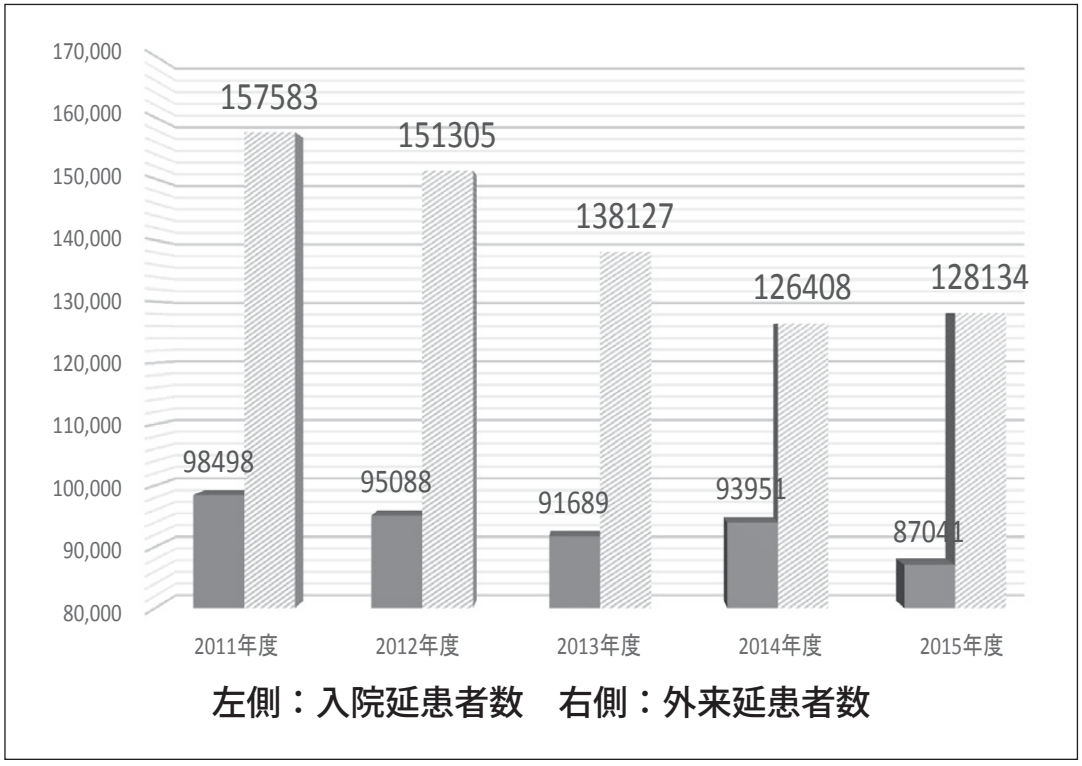


全体的統計

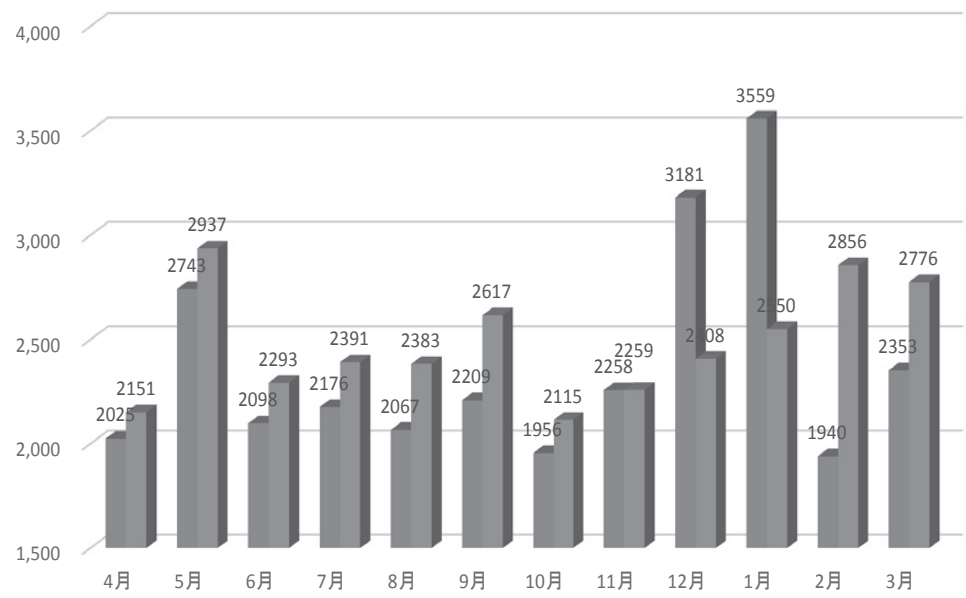
●2015年救命救急センター患者受診科内訳



●過去5年間の延患者数

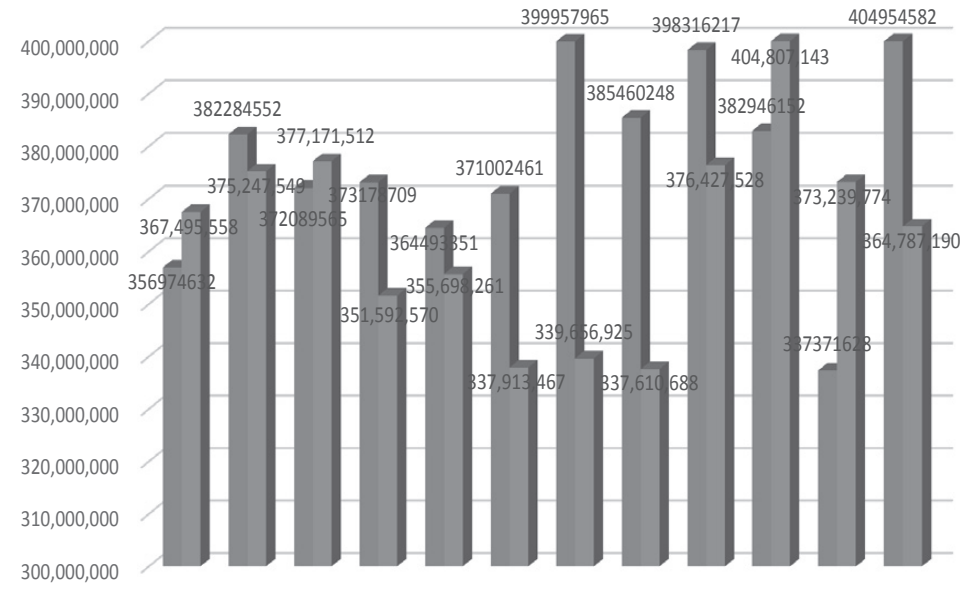


●小児救急センター受診患者数



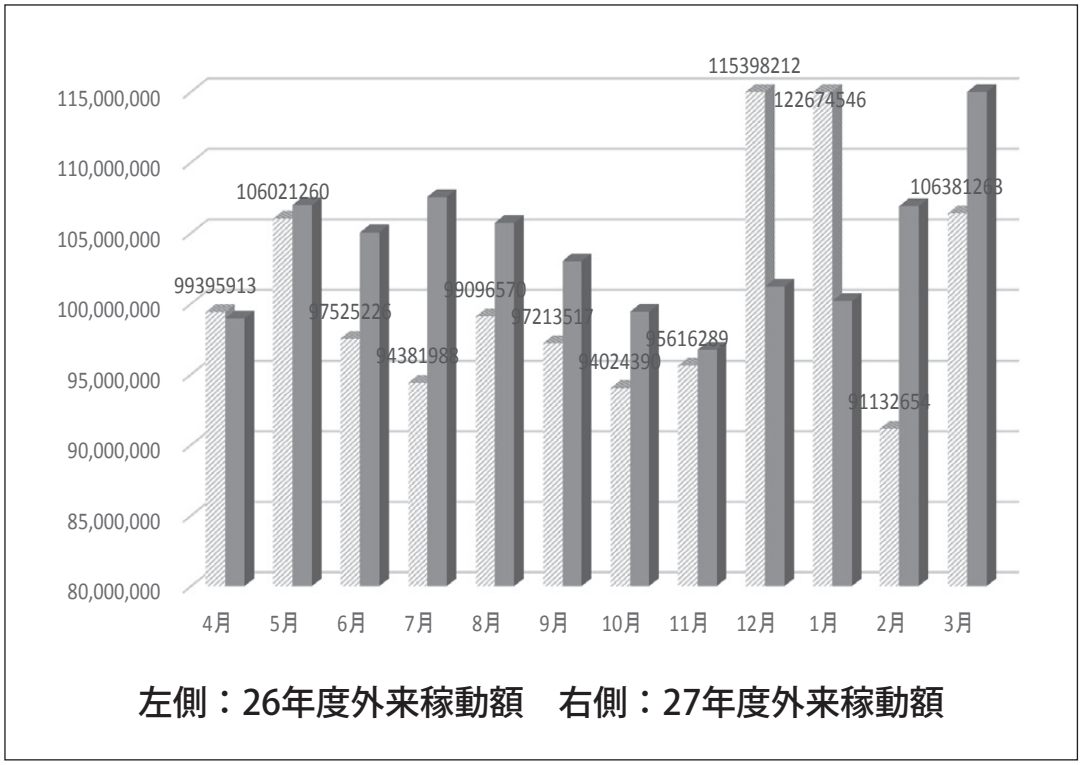
左側：26年度受診患者数　右側：27年度受診患者数

●八幡病院入院稼動額（対前年比）

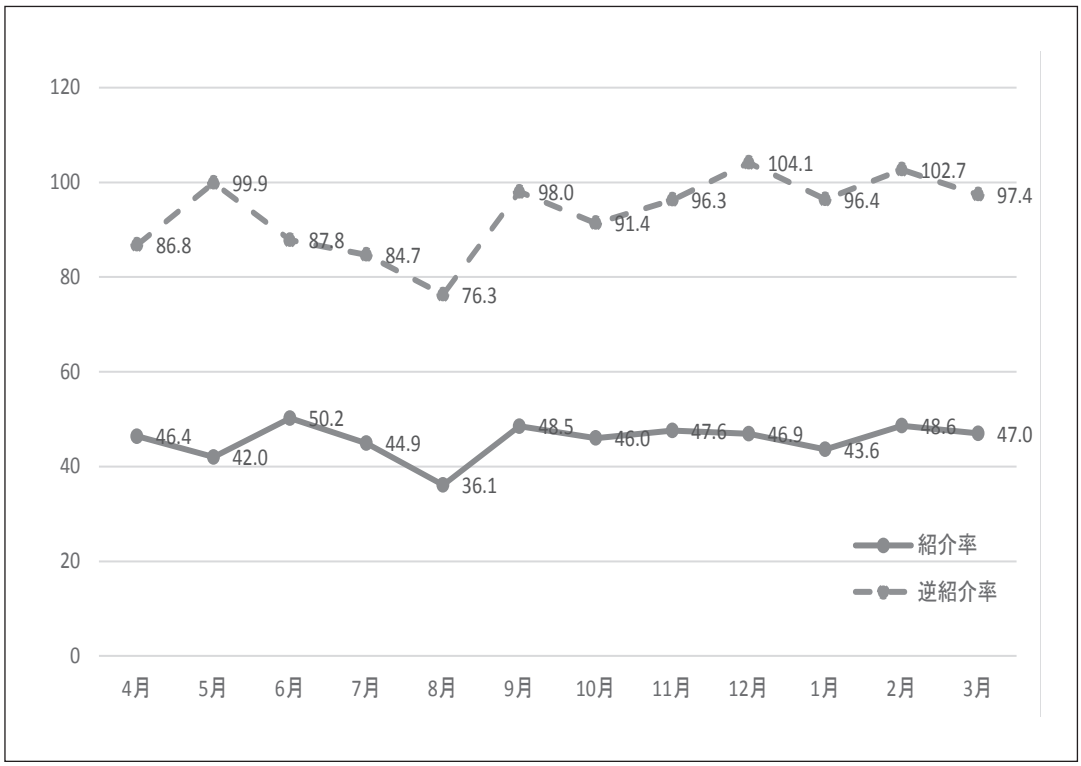


左側：26年度入院稼動額　右側：27年度入院稼動額

●八幡病院外来稼動額（対前年比）



●平成27年度紹介率・逆紹介率の推移



3

クローズアップ

新しい北九州市医師会医療救護計画及び災害医療作戦指令センター（DMOC）について

災害医療研修センター（DMEC）センター長
災害医療作戦指令センター（DMOC）センター長
伊藤 重彦

いままでの医療救護計画（2009年作成）は、急性期の災害派遣医療チーム（DMAT）を中心とした活動計画でした。しかし、近年、亜急性期における医師会会員等によるJMAT支援活動、あるいは薬剤師会、歯科医師会、看護協会など多職種連携による支援活動の重要性が増してきました。そこで、2014年に保健福祉局から北九州市医師会へ医療救護計画の見直しが依頼され、北九州市医師会内に医療救護計画等検討作業部会（穴井堅能委員長）が設置されました。

新計画の目玉は、1．災害医療作戦指令センター（DMOC；Disaster Medical Operation Center）設置、2．ICS（Incident Command System）導入、3．災害医療支援に避難所支援を明記したことです。また、DMOCは発災時に市立八幡病院内に設置されます。指揮系統・情報管理が一元化されることで、被災状況に合わせた医療支援提供を行えるようになります。市医師会災害対策本部の本部長（会長）→DMOCセンター長→支部（地区医師会、薬剤師会、看護協会、災害拠点病院）の一方行指令システムです。行政（消防局、保健福祉局、区役所等）は、DMOC内の各班に担当者が入ります。また、ICS導入により、DMOC本部から各機関・組織の支部に至まで同じ名称の担当部署を配置し、それぞれの役割を明確にし、情報が重複しないようにします。図1に、北九州市医師会の災害対策本部本部とDMOC、地区医師会（支部）災害拠点病院との連携図を示します。平成28年4月1日からのDMOC運用開始に際し、10月19日（月）と10月26日（火）に机上シミュレーション訓練、平成27年11月21日（日）にDMOCと八幡東区役所との合同訓練を行いました（図2）。

また、4月15～16日に発生した熊本地域の大震災においては、5月5日までの間、DMATの広域搬送、JMATの後方支援のために実際にDMOCを立ち上げ、関係機関との情報伝達を行いました。また、5月1～2日にかけて北九州市で開催されたG7エネルギー大臣会合においても、有事に備えたDMOC活動を行いました（図3）。

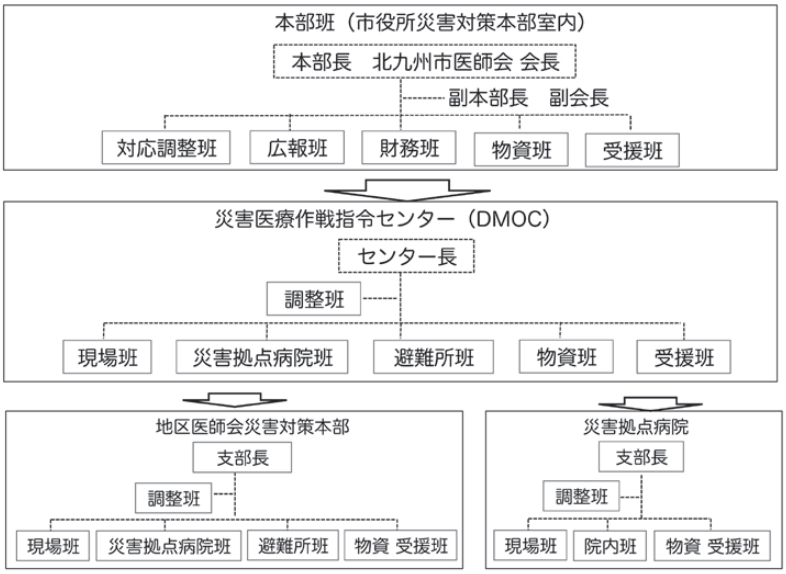


図1．災害医療作戦指令センター（DMOC）と関係機関の連携

図2．DMOC 訓練

図3．DMOC-G7 への対応

DPC導入準備に向けて

DPC準備委員会　太﨑 博美

当院では、平成26年4月よりDPC準備病院への参加を行い、厚生労働省へ診療データの提出を続けてきました。

平成27年度は、DPC対象病院になると診療報酬の請求方法が出来高請求から包括請求に変わることから、患者サービスへの影響、医療の質の向上、経営・業務の効率化、などの課題を踏まえて、DPC制度導入の賛否を当委員会中心に検討しました。

検討にあたっては、提出データの分析を株式会社麻生に協力いただきながら、診療実態の把握、診療科別傷病名毎の在院日数や診療内容の整理及び他病院との比較、出来高と包括請求額の比較を行いました。

検討結果や当院は急性期病院としての機能を持つこと、医療機関別係数の試算を踏まえ、DPC制度を導入する方がメリットを得られると判断したため導入を決定しました。

ただし、平均在院日数の短縮や新入院患者の確保、包括対象検査の外来移行などの課題も明らかになりました。

これらの課題に対応するために、引続きDPC準備委員会では、運用の見直しを行い、院日前日までに必要な検査は実施することや、持参薬や退院時処方及び高額薬剤の取扱い、コーディング登録手順などを決定していきました。

また、DPC対象病院では適切なコーディングのために、各スタッフのスキルアップや院内への情報発信が不可欠であるため、12月に全職員向けにDPC制度や運用の勉強会を開催し、続いて2、3月に診療科別に医師を対象とした勉強会を開催しました。これらの勉強会には、院内の多くの職員に積極的に参加いただきました。

いよいよ平成28年4月からDPC対象病院となります。DPC制度導入より、厚生労働省等のホームページで病院ごとのデータが公開されることとなり、他病院と評価・比較されることとなります。

また、在院日数の平均や再入院率などのデータが公開されることで、医療の透明性が保たれることにもなります。

当委員会は、平成28年度より名称を新たにDPC委員会に変更する予定ですが、今後も継続的に適切なコーディングや正しい保険請求が出来るように、コーディングに関する事例検討や診療報酬請求についての情報発信を行い、常に患者に選ばれる病院となるようムダを省き、医療の効率や品質の向上に貢献していきたいと考えております。

集中ケア認定看護師の活動について

集中ケア認定看護師　山下 亮

集中ケア認定看護師の役割

①生命の危機状態にある患者の病態変化を予測した重篤化の予防

②廃用症候群などの二次的合併症の予防および回復のための早期リハビリテーションの実施

私は、集中ケア認定看護師を取得して4年目になります。認定取得後から現在まで、Evidence-Based Nursing and Practiceに基づく集中治療看護の質向上を目指し、集中治療室内における実践指導を主に活動しています。その中でも、特に合併症や廃用症候群予防のための早期リハビリテーション・早期経腸栄養への介入に力を入れています。早期リハビリテーションは、せん妄発症や人工呼吸器装着期間の短縮、ICU・入院期間の短縮、退院後のADLなどにおいての有効性が認められています。また、「栄養ケアなくしてリハなし」と言われるほど、リハビリテーションと同様に重要なものに栄養管理があります。早期経腸栄養は、消化管機能の維持、免疫能の低下予防や合併症低下など、早期回復への援助に欠かせないものです。そこで、医師や多職種とコミュニケーションを図り、ケアの工夫や学習会開催、掲示物の発行を行い、看護スタッフへの教育や情報提供に努めています。活動開始後、徐々にですが、平均72時間以内からの早期経腸栄養の実施、リハビリ件数やリハビリ開始までの日数短縮といった結果も見られるようになりました。

また、現代の高齢者医療の特徴から、身体機能の低下に伴う重症化や合併症リスクの高い患者が病院全体に多く、活動の場は集中治療室のみならず、一般病棟にも及びます。そこで、3学会合同呼吸療法認定士を中心とした呼吸ケアサポートチームを立ち上げ、院内横断的活動にも力を入れています。呼吸ケアサポートチームとしての活動は、呼吸ケアラウンドや研修会の計画・開催です。院内全体の呼吸管理や呼吸リハビリテーション、安全管理における看護ケアの質の向上にも寄与できるよう引き続き活動の場を広めていきたいと考えています。

救急看護認定看護師としての活動

救急看護認定看護師　井筒 隆博

2013年に救急看護認定看護師の資格を取得し、2014年4月より救命救急センターに配属となりました。現在、認定看護師の役割である実践・指導・相談を救命救急センター中心に活動しています。

救急車出動件数は毎年増加傾向にあり救急医療の質が問われています。救命救急センターでは、病態の緊急度・重症度を基軸とし、少ない情報から状態を判断し急激な状態変化に即応した看護援助が求められます。また、医師以外にも放射線科や検査科、NSWなど他職種を連携させ確定診断と早期治療開始、状態の安定化に向けた円滑な医療介入ができるようにする調整力が求められます。救急看護認定看護師として救急看護の実践モデルとなれるよう日々自己研鑽に努め看護実践を行っています。

救急医療では、ACLS・PALS、JATEC・JNTECや症状別初期治療ガイドラインなど、多く存在し日々更新されます。救急でのチーム医療を実践する上で重要な知識であり、看護師に求められる能力であるため、シミュレーションやミニ勉強会、事例検討会を通じて救命センタースタッフのスキルアップを目指しています。また、当救命センターで使用される薬剤の観察Pointや医療機器の使用法などを認定看護師レポートとして掲示し、より質の高い看護援助が提供できる救命救急センターを目指し活動しています。

その他に、院内教育活動として急変時対応や災害看護、急性期フィジカルアセスメント、輸液の基礎などの研修を行っています。院外教育活動としては、看護学校での救急看護講師や、市民公開講座での熱中症対策や在宅における急変時対応などを行っています。

今後は、当院看護師に必要な急変時対応とは何かを考え、看護師の経験や看護スキルに応じた院内研修内容の企画と実施。継続的な学びの場の提供を目指すことで院内全体の看護の質向上と安全な療養環境の確保に努めていきたいと考えます。また、地域貢献として救急看護教育などを積極的に行っていきたいと考えます。

小児救急看護認定看護師の活動について

小児救急看護認定看護師　光吉 久美子

1. 小児救急看護認定看護師の紹介とその活動内容

小児救急看護認定看護師は2004年11月に分野特定されてから11年が経過しました。私は2014年に資格を取得し、当院では3人目の小児救急看護認定看護師として活動をしています。現代は核家族化や女性の社会進出が進み、子育てに関する周囲のサポートが得られにくい状況にある母親が増加しています。また全国的に子どもの虐待の相談件数も増加しています。我々小児救急看護認定看護師はこのような社会的背景を踏まえ、子ども・家族への看護ケアの実践や子どもの健やかな成長発達と安全への働きかけのために幅広く子どもと家族へ関わることを目的としています。

2011年から取り組んでいる小児早期警告スコアリングシステムの導入から4年が経過しました。小児科外来でのトリアージから入院後も継続して子どもの評価を行い、迅速で効率的な診療や看護を実践しています。院内スタッフに対しては、救急対応に関連した勉強会を企画・開催し、小児救急看護の質的向上に努めています。

当院は、児童虐待防止医療ネットワーク事業の拠点病院として位置づけられています。院内の子ども・家族支援委員会に所属し、医師や虐待防止コーディネーターおよび子ども総合センターと協働しながら虐待の早期発見・早期対応を行っています。

子どもは病気だけではなく、傷害・事故に遭遇する危険性も高く、普段からの予防行動が重要となります。年に6回「小児救急センターニュース」を発行し、病気の時の家庭での初期対応や子育てに関するアドバイス・傷害・事故予防のための啓発活動に取り組んでいます。

院外活動では、地域の育児支援活動として北九州市立子どもの館において月1回子育て勉強会を開催しています。また北九州市小児救急医療ワークショップでのファシリテーターや看護学生の実習指導・講義などを通して小児救急看護の普及活動を展開しています。

2. 今後の方向性

当院は、子どもの精神的安寧のために保護者の付き添いを許可しています。家族がより安全に安心して子どもに付き添える入院環境を整えていくために、家族への付き添いに関する負担についての現状調査を行い、子ども・家族に寄り添った看護実践を目指します。また院内の小児看護の質向上のためスタッフへの勉強会などを計画・実践していく予定です。加えてこれまで以上に地域活動にも力を入れ育児支援や小児救急看護の普及に努めていきたいと考えています。

地域医療従事者研修

地域医療連携推進担当課長　崎田 幾子

地域医療従事者研修は地域の医療の質向上を目的として、地域の医療・介護に従事する多職種の方を対象とした研修会です。当研修の開催は地域医療支援病院の承認要件の一つとなっています。

当院は平成27年度より、医療連携室運営委員会が企画し、定期的に年12回の地域医療従事者研修を開催しています。研修内容は医師による症例検討および講演会や認定看護師による講演会を実施しており、八幡東西区の病院･診療所・訪問看護ステーション並びに登録医病院に年間プログラムを配布し広報しています。

平成27年の参加人数は614名（地域の医療従事者453名、院内職員161名）であり、毎回多数の方々に参加いただいております。特に認定看護師による講演会では定員を超える申し込があり、研修ニーズの高さが伺えます。

職種別では医師190名、看護師288名、介護福祉士12名、看護助手4名、臨床検査技師5名、臨床工学士5名、理学療法士2名、作業療法士4名、消防職員86名、受付等事務職員18名と多職種の方に参加をいただきました。

参加者の方からは「様々な症例を聞き勉強になった。」「実践的で分かり易く今後の参考にしたい。」「有意義な時間であり今後も是非参加したい。」等の意見をいただき、好評を得ています。また今後の研修内容やテーマについて「診療方針やガイドラインに関するもの」「経路別感染予防対策や小児の感染症予防」「褥瘡の最新ケアや診材・ポジショニングの実演」「ＢＬＳの実技指導」「肺炎予防･口腔ケア」「脳卒中のリハビリテーション」等の要望をいただいています。

当研修会は、専門知識の共有および交流の場であり、医療連携においても重要な機会となっています。今後、症例検討会を通じた診療情報の積極的な発信や講義と演習を織り交ぜた講演会等、地域の多職種の方々の研修ニーズを反映した有用で、連携につながる研修会の実施に努めます。

4

診療科部門紹介

内科

内科主任部長　末永 章人

一年間の概要

［スタッフ］

今年度は9月で呼吸器内科医が全員退職されましたので内科は常勤医3名、非常勤応援医7名で頑張っています。

［外来］

外来は3～5名／日の外来担当医により各種専門外来・一般内科外来をおこなっています。救急患者さんに対しては、救急対応当番医（循環器内科と混合）がおり、できる限りの救急患者受け入れをおこなっています。

［入院］

常勤医3名により受け持ち分担をしています。救急で入院になった患者さんについては、速やかにそれぞれの専門分野医師にコンサルト・引き継ぎがおこなわれています。現在は呼吸器内科医がいないため、肺炎などの呼吸器疾患も循環器内科を含めたスタッフ一同で協力して受け持ちしています。

今後の方向性

現在の内科常勤医は消化器内科専門医1名、糖尿病内科専門医1名、神経内科専門医1名の3人です。それぞれの分野で近隣の先生方からの紹介にもできるだけ対応していくよう頑張っています。幸い2016年4月より新たに呼吸器内科医が1名赴任することが決まっています。今後も病診連携を大切にし、地域の皆様の要望に応えるべく、内科スタッフ一同努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

循環器内科

循環器内科主任部長　田中 正哉

■2015年度の診療実績

治療実績	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
冠動脈カテーテル検査（診断のみ）	236	212	249	221
冠動脈カテーテル治療　（　）は緊急症例	136（35）	118（40）	107（16）	129（47）
ペースメーカー植込み　（　）は新規	22（14）	25（17）	27（17）	20（10）
カテーテルアブレーション	3	1	1	3
末梢動脈カテーテル治療	20	52	39	40
腎動脈ステント治療	12	17	9	7
静脈系カテーテル治療	9	16	2	0
心筋生検	2	4	7	2

循環器内科は、現在常勤医7名体制で、急性冠症候群を始めとする緊急症例には24時間対応できる体制を採っております。しかしながら昨年度は緊急症例の激減に伴いカテーテル治療症例が減少してしまいました。今年度は緊急症例数は一昨年並に盛り返しております。いかに私どもの症例数が緊急症例に依存しているかを如実に示す結果ですので、真摯に受け止めなければなりませんが、待機的紹介症例の増加に繋げていきたいところです。心臓リハビリテーションは、外来回復期リハビリへの参加が増え順調に症例数を伸ばしています。

2015年度は、撮影装置が最新式に更新され、以下に示すような最新のデバイスも使用することができる様になりました。患者様に喜んで頂ける最良の治療を常に心掛けていきたいと努力しております。

■各疾患の傾向

1）心不全／心臓リハビリテーション

北九州、特に我が八幡東区を中心とした地域は全国的にも最も高齢化が進んでいるといわれています。我々が最も高齢化社会において危機感を抱いている課題は心不全リピーターの増加です。原因は、多岐に渡ります。HFpEF（心機能が保持された心不全）といわれる治療に難渋する病態が隠れていることに加え、高齢者の於かれた社会的背景にも問題が潜んでいます。

当院でこの1年の心不全リピーター症例数は123人（年齢74歳、全心不全入院患者の54%）でそのうち32%独居、28%が高齢二人世帯でした。この環境下では介護や社会的不利を是正していくことも心不全コントロールに不可欠であり、多職種を巻き込んだ管理システムの構築が必要です。2015年に我々は“高齢者心不全ケア”と冠して八幡地区を中心とした地域連携会を立ち上げました。将来的には八幡地域の中核となる心不全センターを設立していく所存です。

当科では外来心臓リハビリテーションの強化を図っています。心臓リハビリテーションは上記したような包括的ケアを骨子にしており、非薬物療法としての運動療法は薬剤抵抗性のHFpEFの様な病態には唯一効果が確認されています。安全に施行すれば、今後も期待できる心不全治療戦略です。高齢者に安全にリハビリを施行するために必須であるのは、運動耐容能の評価として心肺運動負荷試験（CPX）を施行することです。当院では、心臓リハビリを導入する全症例にCPXを施行することにしています。施行

後には、個人面談し現状の心肺機能及び体力の客観的評価を個々に説明し上表にありますように昨年度少し落ち込みましたが、今年度は今までで最も多い件数を施行することができました。

高齢化とともに世界中で心不全パンデミックと呼ばれる事態が進行しています。外来での心臓リハビリテーションの導入を積極的にアピールしていく所存です。

2）冠動脈疾患

冠動脈疾患に対するステント治療は、年々治療成績が向上しており血管形成術用バルーン拡張術を第1世代とするとベアメタルステント、薬剤溶出性ステントに続き第4世代のデバイスとして生体吸収性薬剤溶出性ステントが使用できる日も近づいています。それとともに血管形成術の適応は拡大しており、少し前であればバイパス術施行が望まれた症例もカテーテル治療で治療を完結できる時代になっています。

カテーテル治療の進歩はめざましいものがありますが、カテーテルを挿入するという侵襲は避けられません。当科は循環器科として旗揚げした当初から九州で最初に橈骨動脈からのカテーテル治療を始めた施設で低侵襲なカテーテル治療を心掛けています。これまでにも色んな工夫をこらし多くの治療経験を報告しています。実績としては2015年は症例数を回復しており、新しい透視装置を得てますますモチベーションを上げているところです。

4）不整脈疾患

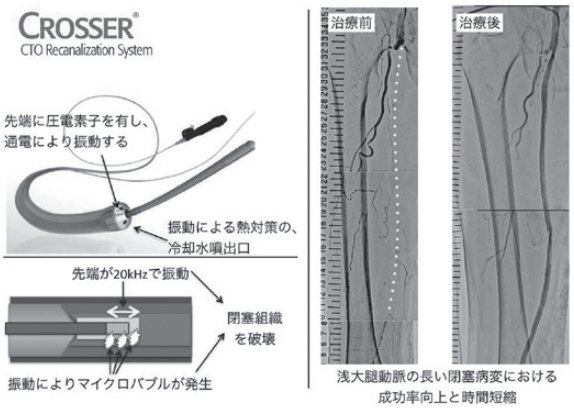
2015年度の徐脈性不整脈に対するペースメーカー植えこみ術は、全体で19例と例年に比べ減少しています。しかし今年度は、MRI検査が可能なペースメーカーが利用できるようになりました。この装置は、従来品に比べて少し大きいのが難点ですが、頭部、胸部、腹部、下肢など、ほとんどのMRI検査が可能です。そして当院はこのペースメーカーでMRI検査を行なうための認可を受けており、メドトロニック社とセントジュード社のMRI対応ペースメーカー使用患者でMRI検査が可能です。

頻脈性不整脈に対するアブレーション治療で今非常に注目されているのは、心房細動に対するアブレーション治療です。本邦には慢性心房細動患者が100万人、発作性心房細動患者が50万人以上いるといわれ、重症の脳梗塞を合併することから生命予後に大きく関わってくる疾病です。このアブレーション治療は心房細動を根治することができ、1回の治療で70～80%、心房細動が再発してしまっても2回目までの治療を行うことで80～90%近い成功率で行えるようになりつつあります。当科でも今年度2症例施行し、現時点で1回施行後に再発を認めていません。残念ながら、術者は他病院から招いているため手術日程に制約がありますが、今後も症例数を増やしていこうと考えています。

5）末梢動脈疾患

末梢動脈が狭窄・閉塞する疾患は、高齢化により増加しています。この疾患の治療は、薬物治療や運動療法が基本となりますが、一定期間でも間欠性跛行が改善しない場合や、すでに皮膚潰瘍や壊死を呈している症例では、外科的治療も考慮した上で積極的にカテーテル治療を行なっています。この疾患を有する患者さんは、冠動脈疾患や頸動脈にも同様の病変を合併することが多いので、スクリーニングも重要になってきます。

上表を見て頂くとわかるように、この血管内治療は毎年一定した症例数を挙げています。救急症例には重症下肢虚血を合併してくる確立は高く、形成外科や整形外科との連携から見つかるケースが少なくありません。当然膝下血管の慢性閉塞状態の重症例が多くなるのですが、超音波検査を駆使しながら非常に高い成功率を挙げています。



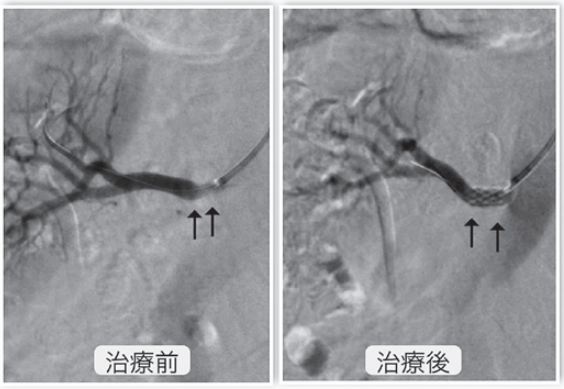
図：閉塞部貫通用カテーテルCROSSERの有用性

石灰化の強い病変は血管内治療の成功を妨げる要因になるのですが、今年度導入したCROSSERという閉塞部管通用カテーテルのお陰で成功率向上と治療時間の短縮をみています。図の様に閉塞部位や石灰化病変を毎秒2万回の振動で除去するシステムなのですが、このカテーテルを使用後のバルーン拡張は非常に良好でステント留置が不要であるケースも少なくありません。

今後もこの領域は症例が増えると予想され、よい治療成績に繋がる様に頑張っていく所存です。

6）腎動脈狭窄症

腎動脈狭窄症は、治療に難渋する高血圧、難治性心不全などの原因になる病態です。当科の原田　敬医師はこの疾患に早くから注目し、対象となりそうな症例に積極的に腎動脈エコーでスクリーニングを行ない、200例近くの治療成績を積み上げてきました。全国的にも当科の治療成績は知られており、多くの学会や研究会で報告してきました。ステント治療後の経過は良好で、再狭窄は5%前後でした。2015年度は治療実績が少なくなりましたが、外来への紹介症例は後を断ちません。特に薬剤抵抗性の心不全に対しては、今後も積極的にスクリーニングすることが必要であると実感しています。



右腎動脈狭窄症による治療抵抗性高血圧症例（腎動脈ステント治療）

■学会・研究会・講演会

2015年度も多くの学会や研究会で当院の経験を報告しました。また心不全、心臓リハビリ、末梢血管治療、腎動脈治療など各地での講演会活動も行ないました。今後も学術活動、啓蒙活動に力を入れたいと思います。

内容	件数
論文	0件
講演	26件
学会・研究会	37件
著書	1件
座長・司会	33件

■血管エコー普及活動　「北Qエコー塾」

上述の末梢血管治療には、血管エコー検査が治療方針の決定や治療後の経過観察に重要な役割を担っています。エコー検査は費用が安く、体の負担がない検査であり、うまく活用すると、CTやMRIに匹敵する情報を得ることができます。

当科の原田　敬医師は、10年前よりこのエコー技術の向上に取り組み、教科書の作成や各地での講演活動を行なってきました。そしてより効率的な普及法として、2015年からインターネットのストリーミング配信を利用した、会員制の血管エコーWeb講習会「北Qエコー塾」が始めました。配信スケジュールは2ヶ月に1回、医師や検査技師むけに限定した内容のため会員制としています。配信中は掲示板を利用して質問にも答えられるよう配慮し、プレゼン資料のダウンロードや過去の配信の再視聴も可能としました。当院のノウハウが他の病院でも活用され、1人でも多くの患者さんが救われることを願い、今後もこのような普及活動を続けていくつもりです。

■循環器スタッフ（2015年度）

役　職	氏　名	卒　業	得意分野
副院長	太崎　博美	S56年 九州大学	高血圧、脂質異常症、肺高血圧、心不全
統括部長	原田　　敬	S61年 長崎大学	高血圧、心不全、冠動脈インターベンション、末梢動脈インターベンション、不整脈治療、心血管エコー検査
主任部長	田中　正哉	H２年 産業医大	心不全、肺高血圧、冠動脈インターベンション、心臓リハビリテーション
部長	小住　清志	H８年 産業医大	心不全、冠動脈インターベンション、不整脈治療、心臓リハビリテーション
部長	佐貫　仁宣	H14年 長崎大学	冠動脈インターベンション、心不全、不整脈治療、末梢動脈インターベンション
	中園　和利	H23年 産業医大	循環器全般
	眞田　賢哉	H24年 産業医大	循環器全般

小児科

小児科主任部長　神薗 淳司

日本小児科学会は、Generalistとしての小児科医は「子どもの総合医である」と掲げ、少子高齢化社会での効果的な効率的な小児医療を、病院小児科の集約化・重点化の推進と集学的な教育を柱とし、将来の小児科医の育成を目指しています。子どもに関わる医師、すなわち地域の家庭医・総合診療医・救急ER医と協調し、子どもの専門医としての指導的な社会的ニーズは益々大きくなる時を迎えた。

2015年、時間外受診を含む外来年間患者受診者数は54000名にのぼり、年間入院者数は4000名を超えた。当小児救急センターの特徴は、日本小児科学会臨床研修指定病院として豊富な小児内科領域の臨床症例を経験していることのみならず、全ての子どもの外傷の初期治療に対応してきた点である。子どもたちを取り巻く環境因子・心理的背景を探り、子どもの安全と安心を外傷診療からも目指している点である。

このような受診者数・入院者数の増加は、必然的により効率的・効果的な医療サービスが求められるようになった。2006年より全国でいち早く小児救急トリアージ制度の導入し、2011年からは本邦初の小児早期警告スコアリング・システムを病棟に導入した。医療安全の側面から院内急変対応システムとして現在活用している。2014年には救急外来および一般外来に来院する全ての患者のフィジカルアセスメントの評価を標準化する目的にこの小児早期警告スコアを利用している。電子カルテシステムとの連携されたダッシュボードシステムとしても子どもの安全を第一に考えた「見える化」システムとして全国的に注目を浴びている。

この豊富な症例からエビデンスを見いだす作業として臨床研究も活発である。リサーチマインドを持ち続ける若き医師は日常の素朴な疑問を大切にしており、新しいエビデンスを作り出す機運をチームとして尊重している。この雰囲気作りは、毎日の早朝カンファレンスと毎日の総合回診・症例検討会により繰り返し伝えられ、発展的な地道な作業を可能にしている。日本小児科学会・小児科学会福岡地方会・日本小児救急医学会・日本救急医学会を中心に年間約50の臨床研究を継続的に発表している。教育面では、現在10-12名の小児科初期・後期研修医を3つのグループに分け、10年目以降の専門医が指導にあたっている。特にケース・プレゼンテーションには十分時間を割いており、小児救急診療の基本となる外観や呼吸・循環の評価とバイタルサインに基づいた病態生理の迅速な評価と簡潔に伝える能力の修得を目標としている。

2014年7月には児童虐待防止医療ネットワーク事業推進 として福岡県の児童虐待防止拠点病院の施設に認定された。当院チームとして家庭機能不全や育児不安などの複雑な患児を取り巻く背景を瞬時に察知し配慮することができる能力や瞬時に冷静な判断を下すトリアージ能力の担う側面は地域社会への影響を鑑みるとその責任は大きい。定期的に改札されている「家族と子ども支援チーム」として丁寧な振り返りを多領域職種間で実践している。

平成30年開院に向けた新八幡病院の基本方針が発表された。なかでも小児救急センターはその中心的な成長が求められている。小児集中治療分野や搬送医療の充実と専門分野として小児血液がん医療・小児神経疾患医療の充実、さらに児童虐待防止拠点病院として地域医療に貢献していく所存である。

外科・呼吸器外科

外科主任部長　木戸川 秀生

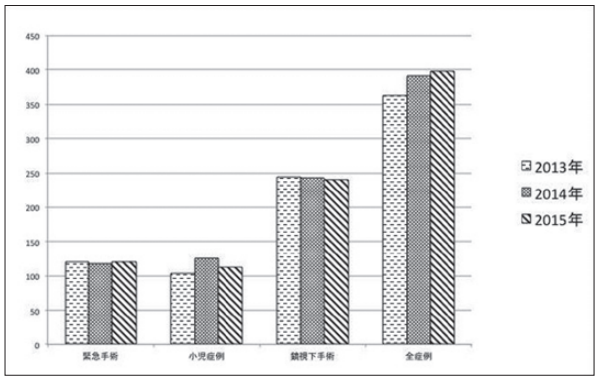
外科・呼吸器外科の2015年度スタッフは伊藤重彦副院長、岡本好司副院長、木戸川秀生外科主任部長、澤田貴裕呼吸器外科主任部長、井上征雄救急部主任部長、山吉隆友外科部長、野口純也外科部長、新山新外科部長、上原智仁外科部長、沖本隆司外科副部長、榊原優香、野々村遼の12名であった。

【人事移動】

3月末で桝屋隆太、小山正三朗が退任した。4月から産業医科大学若松病院より上原智仁が外科部長として赴任、産業医科大学より沖本隆司が、長崎大学病院より榊原優香が、島根大学病院より野々村遼が赴任した。また岡本好司統括部長が4月より副院長へ昇格した。

【手術】

2015年の手術件数は398件（全身麻酔359件、腰椎麻酔2件、局所麻酔37件）で前年より約1.7%の増加となった。緊急手術は121件で全症例の30.4%を占めていた。また15歳以下の小児症例は112例で全症例の28.1%であった。 鏡視下手術（胸腔鏡または腹腔鏡）は240例で全体の60.3%であった。



診療科	主な臓器	主な疾患	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
消化器外科	食道・胃・十二指腸	食道癌	0	0	0	0	0
		潰瘍穿孔	4	2	5	2	2
		胃癌・腫瘍性疾患	12	15	15	13	18
		その他	5	1	0	3	0
	小腸・大腸・肛門	大腸癌・腫瘍性疾患	32	37	26	39	44
		イレウス	11	10	10	8	14
		小腸・大腸穿孔	2	8	5	1	11
		急性虫垂炎	38	39	46	28	31
		痔核・痔瘻・肛門疾患	6	5	4	4	7
		その他	2	3	1	8	5
	肝・胆・膵	胆石・総胆管結石	44	54	49	50	35
		肝癌・胆嚢癌・膵癌	8	32	20	27	38
		急性膵炎・その他	0	5	2	2	2
	腹壁疾患・ヘルニア		29	39	47	35	53
	腹部外傷		3	3	2	3	1
	その他		10	10	10	16	8
呼吸器外科	肺・縦隔	肺癌	4	2	3	6	7
		気胸・嚢胞性肺疾患	9	15	11	11	9
		膿胸・縦隔疾患	1	1	3	2	0
		多汗症	1	0	4	5	2
		その他	0	0	0	0	1
	乳腺・甲状腺	乳癌・甲状腺癌	6	0	6	3	4
	胸部外傷		3	0	0	0	0
	その他		4	1	3	3	1
14歳以下小児		ヘルニア	25	15	28	43	31
		急性虫垂炎	52	50	47	62	57
		新生児・外傷・その他	10	22	20	17	17
計			321	369	367	391	398

消化器外科	腹腔鏡下手術	150	185	248	223	222
呼吸器外科	胸腔鏡下手術	14	16	22	23	18
計		164	201	270	246	240

消化器外科	206	263	242	239	269
呼吸器外科	28	19	30	30	24
小児外科	87	87	95	122	105

【一年を振り返って】

前年は卒後数年の若手が小山正三朗のみであったため、多くの患者を担当することになり負担が多かった。2015年は若手が3人に増えてかなり余裕があったが、逆に1人1人の症例数が少なくなるということとなった。 しかし全体としては2名増員となり当直の負担は軽減し、手術症例は増えるという好ましい結果となった。現在、外科・呼吸器外科ではクリニカルパスを22件運用している。クリニカルパスを利用することで様々なオーダーのし忘れを防ぐことができ勤務時間の短縮につながる。紙カルテベース時代のパスは字が小さく見落としやすい欠点があったが、電子カルテのパスは視認性にすぐれている。今後もパス数を増やすことで診療の負担軽減を図りたい。

整形外科

整形外科主任部長　辻 正二

整形外科は4名の医師が診療に当っています。3名が日本整形外科学会専門医の資格を持っており、病院自体も日本整形外科学会の研修指定病院となっています。

骨折などの外傷に対する手術が主で、手術後のなるべく早い時期からのリハビリテーションを実施しています。

2015年は365例の手術を行い、上肢の骨折195例（鎖骨13例、肩10例、上腕5例、肘63例、前腕33例、手関節部63例、手指8例）、下肢の骨折166例（股・大腿骨63例、膝関節部24例、下腿33例、足関節31例、足趾15例）、骨盤骨折2例、その他2例でした。そのうち、多発骨折は8例、小児の骨折は115例でした。救命救急センターを併設していることから、重症の骨折症例が多く、また、小児救急センターを併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴と言えます。一次から三次救急までの整形外科患者の診療を担当しています。近年、手術方法、手術機器の進歩はめざましく、積極的に手術を行っています。開放骨折や脱臼など、緊急性の高い症例では、救急科、麻酔科、手術部の協力のもと、即日手術を行っています。

小児の骨折においても、開放骨折、転位の大きな骨折（上腕骨顆上骨折など）や10歳以上の自家矯正の望めない症例では、小児科の協力のもと、積極的に手術を行っています。最近では高齢者の骨折が増加してきており、認知症を合併する率も高く、西5病棟看護師・リハビリスタッフの協力を得ながら、入院加療を行っています。（尚、北九州近位部骨折地域連携パス協議会に所属する回復期病院のご協力には感謝しています。）

脳神経外科

副院長　越智 章

昭和20年8月8日、アメリカ軍は中央、尾倉、前田、黒崎、枝光に収束焼夷弾を投下し、死傷者約2,500人、焼失家屋14,000戸にのぼる八幡大空襲となりました。また、その翌日アメリカ軍は長崎にプルトニウム型原子爆弾を投下し、74,000人の命を奪いました。

8月9日に、原爆を搭載したB29ボックスカーが小倉上空を通過したのをご存知でしょうか。当初、小倉に目標を定めていたボックスカーは、陸軍造兵廠を照準にして3回の爆撃行程を繰り返しました。しかしながら、投下目標の目視での確認に失敗し、断念したのです。この時視界を妨げていたのは、どうやら前日の八幡大空襲の残煙ではないかと言われています。その後、ボックスカーの機長は、第2目標長崎への飛行を選択しました。

昭和57年に北九州市立八幡病院院長として救急救命センターを開設した脳神経外科医、川野正七先生は、長崎医科大学で被爆しました。当時は3年生で、当日は、内科講義の後、外科外来実習だったそうです。外来診察室に入った直後、上空500mでボックスカーの投下したファットマンが炸裂し、医学生が187人、病院全体で893人が亡くなりました。

生き残った川野先生は、浦上第一病院で被爆者の治療を手伝い、廃校になるはずだった長崎医科大の再建に尽力されました。戦後は、呼吸器外科医として診療されていましたが、モータリゼーションとともに増加した、交通事故による頭部外傷の治療にあたる専門家を目指し、アメリカに留学。脳神経外科の研鑽を積まれ、帰国後、長崎大学脳神経外科の基礎を築かれたのち、北九州市立八幡病院院長に赴任し、当時最先端の頭部CTを備えた救命救急センターを開設しました。谷伍平市長の時代のことです。

川野先生は、後の講演会でこう語っています。“（原爆と）一番反対の所に外科の診察室があって、たまたま外科外来の時間であったために助かった。”“助かったのですけれども、いつも私の中には、やましさがあります。たくさんの人が、それこそ900人近く、看護婦もほとんど全員ですね、事務の職員だとか、教授も10人くらいですか、亡くなったのに、私は生きていて、申し訳ないという気持ちがいつもありました。しかし、なんとか長崎大学が今日まで残ったのですから、やっぱり長崎医科大学を、大事に、私たちは守っていかなければならないですし、亡くなった医学生達の分まで、いい仕事をしなければならないという、そういう責任感をいつも感じておりました。”

筆者は、原爆投下の14年後の昭和34年に、小倉で生まれました。8月8日、八幡の町が空襲で焼け野原になっていなければ、原爆が陸軍造兵廠上空で炸裂していたはずです。私は、この世に存在していなかったかもしれません。長崎大学にも入らず、脳神経外科医になることも、八幡病院で診療に携わっている事も無かったはずです。歴史に”もしも”はないと言うものの、北九州市立八幡病院が、今この時点に一直線に向かってきたとは思えないのです。

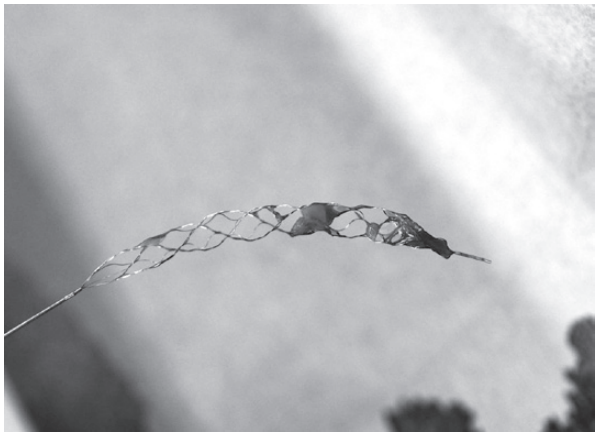
川野正七先生は、既に亡くなられ、名前を口にしても誰のことかピンとこない職員も増えてきました。脳神経外科のパイオニアで、北九州の救急医療の恩人である先生の記憶を、戦後70年を迎えた2015年の年報に、敢えて記録しておきます。8月8日、皿倉山に灯る八の字を見たら、大空襲だけでなく、長崎原爆、川野先生のことにも、思いを馳せて頂けたら幸いです。

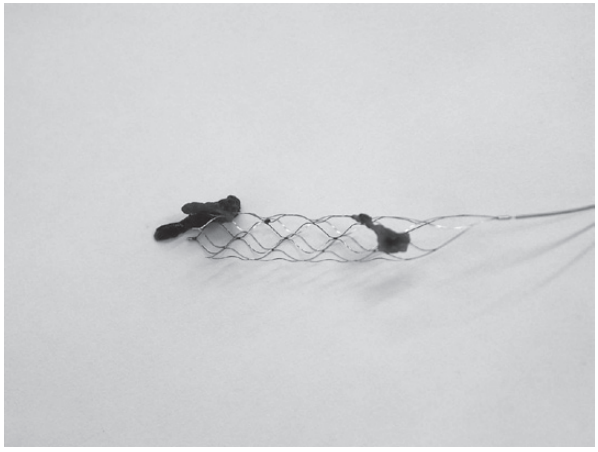
さて、昨今の脳神経外科診療の進歩の一つに、ステントリトリーバーがあげられます。rt-PA静注療法は、多くの脳梗塞超急性期患者に使用されるようになりましたが、血栓が大きい内頸動脈や中大脳動脈近位部の閉塞では、再開通が得られ難いのが現状です。

ステントリトリーバーは、日本語でステント型血栓回収機器と呼ばれます。言葉では説明し難いので、写真を見ていただいた方が分かり易いと思います。網目状のステントに血栓を引っ掛けて掻き出すという、難しい原理ではありません。３枚の写真を見ていただきますと、ステントの編み目に、内頸動脈や中大脳動脈の血栓が付着しているのが分かります。主に、rt-PAで再開通できなかった患者が対象となりますが、4.5時間以上経過したり（8時間まで）、様々な理

由でrt-PAが使えない患者さんも適応となる事があります。

ただし、ステントリトリーバーと言えども、早ければ早い程治療効果が高いことに変わりはなく、30分再開通が遅れると、良好例が20%減少し、死亡率が20%増加すると言われています。脳卒中が疑われるときは、出来るだけ速く、救急車を呼んでいただく事が基本です。八幡病院では、24時間、脳神経外科医が病院内で勤務し診療にあたっています。





形成外科

形成外科主任部長　田崎 幸博

2015年の診療体制

常勤3名

うち日本形成外科学会専門医が、2015年4月より3名から2名となった。

2015年の手術件数

Ⅰ. 外傷	589
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	7
顔面軟部組織損傷	382
顔面骨折	27
頭部・頸部・体幹の外傷	10
上肢の外傷	134
下肢の外傷	29
Ⅱ. 先天異常	126
唇裂・口蓋裂	82
頭蓋・顎・顔面の先天異常	23
四肢の先天異常	14
体幹（その他）の先天異常	7
Ⅲ. 腫瘍	196
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	186
悪性腫瘍	9
二次再建	1
Ⅳ. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	11
Ⅴ. 難治性潰瘍	13
褥瘡	6
その他の潰瘍	7
Ⅵ. 炎症・変性疾患	25
レーザー	10
計	970

2015年の概要

●外傷

小児外傷、労働災害、交通事故、スポーツ外傷など、顔面や手足を中心とした皮膚軟部組織損傷、熱傷、顔面骨骨折、切断指、腱・神経・血管損傷などに対し、24時間365日対応できる体制を取って、589件の手術を行った。

●先天異常

口唇口蓋裂、耳介形態異常、手足の形態異常、臍ヘルニアなど、身体各所の先天性形態異常に対し手術を行っている。

とくに口唇口蓋裂は、北九州市内だけでなく、県外からも来院があり、生後3ヶ月から思春期までの各年齢に応じた治療を、院内外の関連科や言語聴覚士等とのチーム医療として進めている。

片側口唇裂形成手術は筋層からユニットごとに再建を行うことで、自然で対称的な口唇の形態が得られるようになってきている。また、口唇裂形成手術や口蓋裂手術の要所では顕微鏡下により繊細な再建を行うようにしている。

●皮膚良性・悪性腫瘍

顔面その他の皮膚腫瘍に対しては、小さなものは単純切除縫縮を行うが、切除後の欠損が大きくなるものに対しては、変形を生じにくいように皮弁形成術、植皮術を選択する。

近隣の皮膚科等からの紹介により悪性腫瘍に対応するケースが増えてきている。

●皮膚潰瘍

褥瘡や糖尿病性足潰瘍などの難治性皮膚潰瘍は、高齢化や成人病の増加から年々増加傾向にある。

潰瘍部をデブリードマンし、スポンジを貼付して密封してポンプで持続的に吸引する陰圧閉鎖療法は標準的に行われるようになってきている。

また、褥瘡ラウンドの強化や後述するフットケアの対応等、予防を含めた診療を進めている。

点滴漏れなどによる医原性の皮膚潰瘍に対しては、院内のみならず地域医療や救急救命士を対象とした講演を行い啓蒙に努めている。

●フットケア

足の末梢動脈疾患（PAD）や糖尿病性足病変の治療は、循環器内科や内科と連携し、当科は潰瘍や壊疽に対する保存的あるいは外科的な治療を担当している。

また、鶏眼胼胝などの足皮膚病変や陥入爪巻き爪などの爪病変については、治療だけでなく、市民への出前講演を多く行い、日ごろのケアから指導している。

●レーザー治療

当院では炭酸ガスレーザーとQスイッチルビーレーザーを有しており、前者は小腫瘍や陥入爪の焼灼、後者は褐色～青色の色素性病変である扁平母斑や外傷性刺青の焼灼に用いている。

●ラジオ波メス

新機種を導入し、出血の少ない切開が外来小手術のみならず、手術室での使用も行いやすくなった。

救急科

救急科主任部長　井上 征雄

救急科は、井上、田口の2人で担当しています。外科救急、外傷を中心とした救急外来での診療に加え、常設型ワークステーションの救急車同乗指導、救命士に対する病院実習での指導、ドクターカー出動などの病院前診療、DMAT，JMATなどの災害医療活動、JPTEC、MCLSなどさまざまな救急および災害研修会での講師参加など幅広く活動しました。また、救急医学会総会、地方会、臨床救急医学会、集団災害学会での発表や救急振興財団委託研究事業も積極的に行いました。また、専門医制度の改正により当院では研修基幹病院として、八幡病院独自の救急科専門医プログラムを作成し、新病院に向けて体制を作っていきます。

この一年を振り返って印象に残ったの活動は、昨年、9月1日に東南海地震を想定とした、平成27年度大規模地震時医療活動訓練災害訓練に参加したことでした。早朝、福岡空港にドクターカーにて参集し、福岡からC130自衛隊機でDMATチームの一員として厚木基地に行きました。そして、厚木基地ではSCU活動を行いました。厚木基地は、米軍基地でもあり、敷地内にゴルフ場もあり、その広大さに皆驚きました。帰りは疲労困憊で、ユニフォームの姿のまま、都内を移動し、羽田経由で民間機にて帰院しました。体力的にタフな活動でしたが、貴重な体験をしました。

精神科

精神科主任部長　白石 康子

1. 精神科診療内容について

当院精神科は外来とリエゾンを柱として診療を行っている。リエゾンとは精神症状を伴う患者さんを身体科主治医と協力して加療するものである。

2. 外来診療について

2015年の外来患者延べ人数は2,989人でそのうち新患は146人であった。

男性67名、女性79名で年代別による差はあまり見られなかった。

新患患者の疾患分類をＩＣＤ-10 分類に従って見てみるとＦ４（神経症性障害、ストレス. 関連障害および身体表現性障害）52人、Ｆ３（気分障害）28人、Ｆ０（器質性精神障害、主に認知症）21人と7割を占めている。当科は紹介状なし、予約なしで診療を行っているが、地域の身体科クリニックから紹介される患者は33人で新患全体の2割を占めている。これは総合病院の精神科ということで、単科の精神科病院やクリニックより勧めやすいということであろう。

また資格取得のため「精神疾患ではない」という診断書希望や障害年金の診断書希望あるいは役所からの検診依頼など、加療が必要ないケースもある。

3. リエゾンについて

入院患者で精神科が併診した患者延べ人数は399人だった。初診は97人だったが紹介元科の内訳は整形外科31人、内科（循環器内科を含む）37人とこの2つの科で大部分を占める。

紹介理由はせん妄、不穏が多い。したがって高齢者が多く紹介初診患者の半数は80歳以上であった。

4. 今後の方向性について

最新の知見に基づいた薬物療法と並行して精神療法に力を入れ、患者さんの満足を得られる診療を目指していく。また看護学校講義や市の自殺未遂者支援事業への協力など地域への貢献も重要な役割と考えている。

眼科

眼科主任部長　板家 佳子

眼科は　2015年1月に再開しました。

頭部外傷、なかでも眼窩底骨折による眼球運動障害、ステロイド治療中の子ども、全身疾患と関連ありそうな眼科疾患にとまどい、今までの不勉強さが身にしみました。また、全身状態が悪く、眼どころじゃないでしょうというような重症なお年寄り。そんな方にかぎって、眼が一番大事と言ってくださることに感謝しながら、何とか1年過ぎました。

外来には、OCT（光干渉断層計）が入り、網膜の黄斑疾患の形態が詳細にわかるようになりました。

外来のスタッフは視能訓練士：大西祥子、看護師：敷田信江、本田ツルコの2名、受付：松海幸子、それと私です。

手術は、2月16日より開始しました。

白内障手術は2泊3日、あるいは3泊4日のクリニカルパス、硝子体手術は7泊8日のクリニカルパスで行っています。

手術機器はコンステレーションの導入で、より安全に手術ができるようになりました。

12月までの件数は

白内障の手術　69眼

硝子体手術　　5眼

内訳：増殖糖尿病網膜症手術2眼、
網膜前膜2眼、
ぶどう膜炎1眼、

おかげさまで、術後の合併症はありません。外来のスタッフ、西5病棟の看護師、手術室の看護師のおかげで、順調に施行できるようになりました。

今後は、今までどおり、他科の先生方と連携を大切に、お子さんから大人まで、幅広い年齢層の診療をおこなっていきます。とくに、糖尿病網膜症の患者さんは、増える一方です。今までの経験を生かして、光凝固治療のタイミングや硝子体手術などで、一人でも多くの患者さんの失明を防ぐことができるようにつとめてまいります。

泌尿器科

泌尿器科主任部長　松本 博臣

【概要】

2015年4月より、松本博臣が主任部長として赴任し、外来・入院診療および手術にあたっています。

泌尿器科悪性腫瘍（腎癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍など）、良性疾患（尿路感染症、尿管結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱など）に対する診療を行っています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行えるよう心がけております。

また、当院の特色である小児診療も積極的に行っており、小児泌尿器科領域での外科手術（停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎など）を施行しています。

泌尿器科救急疾患（尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉、膀胱タンポナーデ、精索捻転など）にも対応します。

常勤泌尿器科医は1名ですが、産業医科大学泌尿器科のバックアップのもと、長時間で人員を要する手術治療も行います。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

【外来診療】

2015年の外来患者数は2774人で、増加傾向にありました。疾患としては、泌尿器科悪性腫瘍、前立腺肥大症や過活動膀胱などの下部尿路障害、尿管結石症、小児泌尿器科疾患が大部分を占めます。また、施行可能な患者様に対しては、外来癌化学療法を開始いたしました。

【入院診療】

2015年の入院患者総数は797人で、1日平均入院患者は2〜3人でした。膀胱癌、前立腺癌に対する全身癌化学療法を開始し、入院患者数は増加してきています。また、前立腺生検を2泊3日の短期入院で麻酔下に施行しており、「痛くない生検」を目指しています。

【手術】

2015年の泌尿器科手術件数は46件でした。膀胱癌に対する経尿道的切除（TUR-Bt）が最も多く、8例でした。（詳細は表1参照）小児関連の手術は17例で、全体の37%を占める結果でした。腎摘など、人員を要する手術の際は、産業医科大学より1名派遣いただき施行しました。今後も積極的に症例数を増やしていきたいと考えています。2016年2月には初めて泌尿器科鏡視下手術（腎尿管全摘術）を施行いたしました。適応例に対しましては、今後も積極的に取り入れていく予定です。

表1．2015年手術件数（n=46）

TUR-Bt	8例
RP, 尿環境	3例
経尿的尿管ステント手術	3例
根治的腎摘除術	1例
陰茎部分切除術	1例
経尿道的膀胱結石砕石術	3例
経直腸的前立腺針生検	9例
腎盂形成術	2例
精索捻転手術	4例
停留精巣固定術	7例
包茎手術（環状切開）	3例
膀胱尿管逆流防止術	1例
膀胱修復術（膀胱破裂に対する）	1例

放射線科

放射線科主任部長　神崎 修一

放射線科では昨年と同様、主任部長神崎修一以下、今福、今村の計3名で日常診療業務にあたりました。3名とも日本医学放射線学会認定の放射線診断専門医です。主な業務内容はCT, MRI, RIの読影、肝動注塞栓療法を始めとしたIVR、超音波検査、消化管造影検査などです。

2015年の診療概要

放射線技術課により1年間でCT 7423件、MRI 2299件、RI 221件の検査が施行されました。当科においてその検査の99%に画像診断報告書が作成されており、画像診断管理加算2（常勤の画像診断専門医がCT, MRI, RI検査についてその8割以上の読影結果を翌診療日までに主治医に報告することが条件、1検査月1回180点）の加算を頂いております。今年は病診連携医療機関からの画像検査診断依頼はCT 288件、MRI 339件、RI 43件、US 53件、計723件でした。昨年に比し依頼総数は3.3%増でした。2009年の依頼件数は296件でこれと比較すると144%増です。この間依頼件数は右肩上がりに増加しています。これは太崎副院長始め病診連携室スタッフのご尽力が大きいと考えますが、我々の検査および画像診断が病診連携機関の先生方に一定の御評価を頂けたものとも考えられ、当科スタッフ一同で喜んでおります。この御評価および御期待を裏切らぬよう、これからも質の高い画像検査、画像診断を目指してまいります。

IVRについては当科単独で60件の手技を施行しました。内訳は悪性腫瘍（主に肝細胞癌）に対する動注化学塞栓療法（TACE）44件、外傷による内臓損傷や骨盤動脈出血に対する緊急止血術（TAE）1件、PTCD, PTGBD, 胆管ステント留置など胆道系手技7件、主に乳腺腫瘍などに対する経皮的針生検4件、膿瘍ドレナージ4件でした。

2016年の展望

2015年度末をもって今村医師が退職し、神崎・今福の常勤2名体制となります。業務量を絞ることは考えていないため、昨年並みの業務量とすると各個人の業務量は単純計算で1.5倍となります。読影業務に加え、CT, MRIの造影剤注入、RIの注射、超音波検査、他院紹介患者の診察・造影剤の説明など主な業務は午前中に集中します。各科外来および入院患者のCT, MRI至急読影に遅れが出ることもあるやもしれませんがご容赦いただければ幸いです。

今後の抱負について

現代医療において画像診断の重要度が非常に大きくなっている以上、当科の責務も重大であると考えています。当科のさらなる画像診断能向上が病院全体の診療レベル向上に貢献できると考えます。画像診断能の向上に近道はなく、文献・書籍や学会・研究会での知識吸収および情報収集、何よりも自分達の読影した症例について経過を追跡し、読影が妥当なものであったか検討し、間違っていれば反省して次の画像診断に生かすといった事を地道に継続して行っていくことが重要と考えます。また、診療各科との連携を密にして臨床科が画像診断に求めるニーズを把握し、臨床に役立つレポートを作成したいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

（今福 義博）

産婦人科

産婦人科部長　今福 雅子

産婦人科は、外来業務のみを行っており、2015年は週4回（月・火・木・金）の午前中に診療を行っており、月・火・木曜日は今福、金曜日を中島が担当していました。

外来業務としては、がん検診をはじめ、婦人科疾患の診断や治療、月経に伴う症状の病状評価ならびに症状緩和、更年期に起こりうる症状の評価やそれに対するホルモン補充療法などの治療、老年期においては子宮脱等の骨盤臓器脱に伴う症状に対して姑息的な対応を行っております。

当科では、患者様一人一人の症状に対して、病状のみならず心的負担も含めてしっかりと問診を行い、必要な検査の提示を行ったうえで、検査ならびに治療の選択をして頂き、症状の改善や緩和を行っております。そのため、患者さん一人の診察時間が長くなることもあり待たれている他の患者さんにご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、いつ何時も満足のいく診療を心がけております。また、症状によっては他科への受診も積極的に進めております。

2015年は新患数が122名（24名増；前年比、以下同）と前年に比べて約1.25倍で、紹介者数・総患者数ともに若干ではありますが増加傾向にあります。

検査の中で特に増えたのが、子宮卵管造影検査で、医療連携医院からの紹介依頼により、前年と比べて3倍となりました。子宮卵管造影検査は苦痛を伴う検査であるため、行っている私どもとしても、辛い思いをさせていると心痛くなることもありますが、その後連携医に戻ってから順調に妊娠したと患者様から直接喜びの声を頂き、微力ながらお手伝いができたことに幸せを感じております。

今後の目標としては、日常の業務のさらなる拡充はもちろん、2020年に東京オリンピックを控えている日本において、女性アスリートの数も増えてきている昨今、女性の月経異常が身体能力を低下させてしまう要因も指摘されており、婦人科医として身体的なサポートができればと思っております。また、母体保護認定医の指定を受け、八幡地区の母性の生命健康を保護していけるよう、地域の先生方と協力できればと思います。

まずは、北九州市立八幡病院産婦人科が、安心して受診できるかかりつけ医のような存在になれるよう努力してまいりたいと思います。

薬剤課

薬剤課長　村本 眞由美

新たな薬剤課業務

近年、薬剤師はチーム医療の一員として薬学的観点から医療安全に貢献することがもとめられています。八幡病院の薬剤課も入院患者様には、入院時の持参薬調査・薬歴管理に始まり薬剤に関する患者教育や指導・相互作用のチェック・副作用モニタリングをおこなっています。また退院時には退院時指導をおこないコンプライアンスの向上をはかるとともに、外来通院時のかかりつけ薬局や他院との情報共有のため、退院時の薬剤情報をお薬手帳に貼ってお渡ししています。電子カルテでは患者情報に容易にアクセスできるので患者様の状態に応じた処方提案もできるようになりました。今後は病棟薬剤業務を全病棟に広げていくことが目標です。

電子カルテを利用し薬剤のマスター管理をすることでオーダー時にさまざまなアラートを出すことができ薬剤の適正使用に役立っています。外来患者様にも、薬剤の説明をするだけでなく、全員にお薬手帳用の薬剤情報を発行しお渡ししています。

増加傾向にある外来化学療法でもレジメン管理、抗がん剤ミキシング、副作用モニタリング、患者教育がかかせません。電子カルテのレジメン機能を使った管理・運用では紙カルテとは違った管理方法が求められますが、患者様に安全で良質な化学療法を提供するために日々取り組んでいます。がん患者管理指導料3の算定をしています。

ＤＰＣ病院となり、さらなるジェネリック薬品の導入が求められています。医師や看護師への細かな薬剤情報提供をしていくつもりです。

また急速に進歩する医療に対応するため、薬剤師1人1人がさまざまな認定取得をめざし研鑽するとともに、情報共有の目的で院外の薬局に向けた勉強会も開催しています。

これからも薬剤課全員でさまざまなニーズにこたえ、医療安全に貢献できる薬剤師を目指していこうと思います。

放射線技術課

放射線技術課長　山下 三樹

放射線技術課では24時間体制でより正確な画像診断のため放射線・放射性同位元素・磁気を利用した種々の検査を行っています。

診療放射線技師は22名で、年々進歩する医療機器の有効利用と専門性の高まる検査内容に対応するため日々研鑽を重ね、各学会や団体の認定資格も積極的に取得しています。

また多くの職種の方々と協力しあい、患者さんの安全とプライバシーを守り、医療被曝をできるだけ少なくするため、常に最善の方法を用いるよう全力で取り組んでいます。

この3年間の業務実績は下記のとおりです。

業務実績の推移（検査人数）

	一般撮影	造影透視	CT	MR	RI	血管造影	心カテ	骨塩	コピー
2013年	28,950	1,125	7,666	2,427	230	136	436	26	886
2014年	28,767	1,177	7,772	2,507	198	137	456	88	1,774
2015年	28,497	1,120	7,423	2,299	221	99	425	144	2,523

【現状】

この3年を見ると検査数は全体としてほぼ横ばいから、第2夜間休日急患センターの移転により若干の減少となっています（コピーは医療連携に係る画像の提供及び他院画像の取込みが激増）。

放射線技術課では高額な画像診断装置が多く、毎年の保守費用も非常に高額です。検査数にはまだ余裕がありますので医療連携を強め、装置の有効で効率的な利用を推進して件数が増加することを期待しています。

【機器の更新】

2015年には心カテ装置が更新となりました。これまでのブラウン管で解像度の低い透視画像から58インチのマルチ液晶ディスプレイとなり、カテーテルやステントなどの視認性が大幅に向上しました。またリアルタイム画像処理を行うステントビューも搭載され、安全で効率的な検査・治療に役立っています。

【今後の展望】

平成30年度の新築移転が近づいてきました。移転時には大型機器（CT・MR・TV・一般撮影など）の更新が重なる事が予想されますが、今から最新機器の性能や最先端の検査法等の情報収集を行い、十分な準備をして移転に備えたいと思います。

臨床検査技術課

臨床検査技術課長　宮本 征美

1．概況

2015 年 4 月より臨床検査科は臨床検査技術課となり診療支援部の中に位置づけられた。

当課は臨床検査技師数 22 名で検査業務を行っている。変則 2 交代勤務体制で日勤・夜勤を行い通常業務から救急搬送患者対応まで 24 時間体制である。

2．現状

2015 年は引き続き、新病院設計のための WG の詰めの作業が 3 月まで行われ、より良い新病院にするための打ち合わせを重ねた。

また、1 月 23 日から医療センターに集約していた感染症項目（HBsAg、HBsAb、HCV、TPHA、RPR）の院内測定化を行う事によって結果報告までの時間を短縮し診療や患者サービスに寄与している。

血液検査部門では、多項目自動血球分析装置の更新が、時間内検査用が 2 月 22 日、時間外検査用が 12 月 21 日に行われ迅速で安定した結果報告を行っている。

輸血検査部門においては、3 月に全自動輸血検査装置を導入し輸血検査の標準化を行っている。

また日本臨床検査標準協議会（JCCLS）が医療の地域連携システムの構築とマイナンバー制度の導入に伴う「国民の健診データの活用」のために、医療機関における検査データの統一を目指している。その判断基準としての基準範囲の共用化をするために臨床の先生方の協力を得て、JCCLS 共用基準範囲を 5 月 1 日より採用した。

生理検査部門では 9 月 1 日より“重心動揺検査”を開始し、めまい・平衡障害の病巣診断に寄与している。

また、循環器医師の指導のもと腎・血管エコーのスクリーニング検査を実施しているが、深部静脈血栓症（DVT）早期発見のために下肢静脈血管のスクリーニング検査も開始した。

消化器科医師の指導のもと引き続き腹部エコーの習得を目指して努力している。

チーム医療への参加も積極的に行っている。

感染対策に於いては、八幡東部地区地域連携の中心的役割を担う病院として積極的にカンファレンスや他病院のラウンドにも参加している。また院内の ICT 活動にも積極的に参加し資料作りなど中心的役割をはたしている。

NST 活動においては病棟ラウンド、啓発活動等にも参加している。

医療安全の面においてもリスクマネージメント部会の中心的役割をはたしワーキンググループの一員としても積極的に協力している。また、今年、発足した DVT. VT 予防ワーキンググループや医薬品安全管理部会のメンバーとしても活躍している。

3．今後の方向性

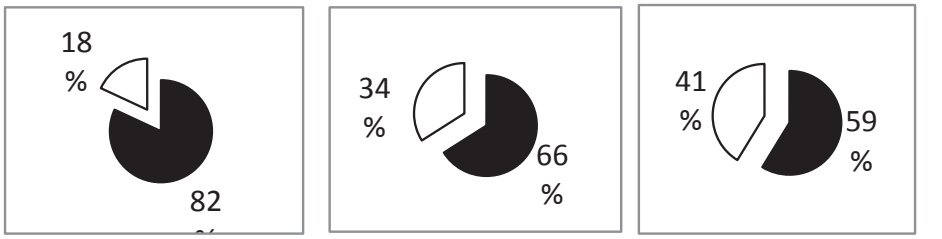
新病院開院時での臨床検査技術課の体制を念頭に人材育成を行っていきたい。

新病院での臨床検査技術課の役割を十分に理解し病院の中でどうあるべきか、患者様のために何ができるかを考えつつ臨床検査技術課職員全員で一致団結して八幡病院を盛り上げていきたい。

平成27年　検査　（外来・入院比率）

	一般検査		生化学検査		血液検査	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院
1月	10,893	2,598	27,942	15,698	10,259	8,128
2月	9,849	2,343	27,340	14,415	9,421	6,736
3月	11,966	2,863	33,824	17,140	10,860	7,878
4月	11,713	3,283	29,975	17,755	9,844	8,198
5月	10,801	2,450	27,587	13,762	9,256	6,467
6月	12,001	3,400	32,367	17,205	10,847	8,062
7月	12,711	2,573	32,561	16,404	11,027	7,299
8月	12,232	2,286	33,736	16,185	11,319	7,384
9月	11,447	2,171	29,162	14,437	9,686	6,350
10月	11,760	2,465	30,279	14,737	9,932	6,403
11月	11,551	2,174	28,123	15,229	9,277	6,837
12月	11,828	2,605	29,843	15,349	9,981	7,015
月平均	11,783	2,601	30,404	15,674	10,130	7,113

平成27年　検査件数　（外来・入院比率）



一般検査　外来:82%　入院:18%　生化学検査　外来:66%　入院:34%　血液検査　外来:59%　入院:41%

リハビリテーション技術課

理学療法士長　井上 裕子

1979年、理学療法士1名が整形外科採用となり、当院のリハビリテーション業務が開始されました。ニーズの増大に伴い少しずつスタッフの増員がなされ、2010年より作業療法士も採用されました。2015年4月には『診療支援部リハビリテーション技術課』となり、理学療法士1名と作業療法士1名が増えました。現在では、理学療法士5名作業療法士2名で、患者さんの一日も早い社会復帰を目指し業務を行っています。

施設基準は、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）となっています。また、2015年12月よりがん患者リハビリテーションも行われるようになりました。

現状

整形外科、脳神経外科を中心に各科からの依頼となっていますが（図参照）、内科、循環器内科、外科からの依頼が増え、対象疾患が多岐にわたる傾向にあります。

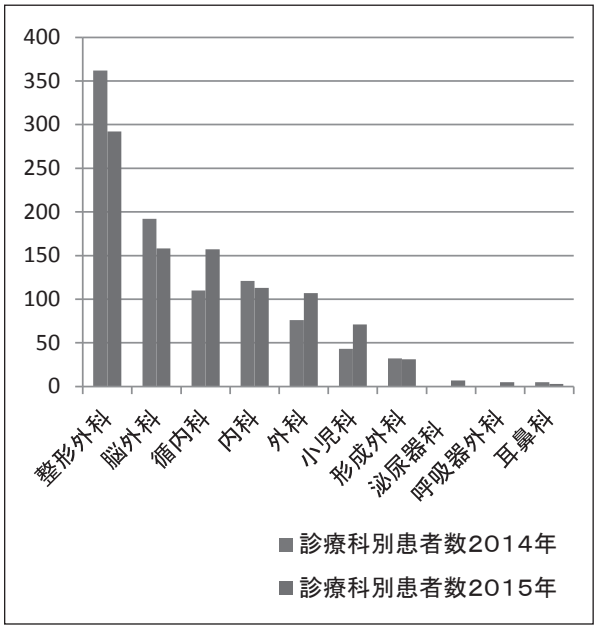
外来患者には月に一度のカンファレンスを、また入院患者には週に一度、整形外科カンファレンス・回診と、脳外科カンファレンスを行い、連携をとって治療にあたっています。

現在施設基準で脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）でないのは、スタッフが少ないためであり、取得には理学療法士5名以上、作業療法士3名以上、言語聴覚士も含め合計10名以上のスタッフ常勤が条件です。

今後の方向性

・早急な言語聴覚士の採用が必要です。摂食嚥下訓練や言語訓練の需要は大きいと考えます。
・現時点では各患者に十分な訓練時間を費やせているとは言えません。理学療法と作業療法の併用もわずかしかできていません。理学療法士・作業療法士の増員を図り、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）を取得できるようにしていきたいと考えています。
・心大血管リハをはじめ、外科周術期や呼吸器のリハビリテーション、また急性期小児リハビリテーションなどに積極的に関わっていきたいので、一層の知識習得が必要だと考えます。

診療課別患者数



3学会呼吸療法認定士　砂山 明生
高橋 倍美

臨床工学課

臨床工学課長（事務取扱）　越智 章

当院臨床工学課は臨床工学技士2名が在籍しており、チーム医療の一員として診療技術支援と医療機器管理業務を行っています。医療機器の安全運用と、呼吸・循環・代謝の代替療法が効果的に行われるように技術提供しています。

現状

【各種血液浄化療法】

成人・小児・急性期・慢性期を問わず様々な病態に対して各種血液浄化療法を施行しています。

持続緩除式血液濾過，単純血漿交換，LDL吸着，免疫吸着，C型肝炎ウイルス除去療法，エンドトキシン吸着，LCAP（白血球除去療法），胸水・腹水濾過濃縮再静注法等の施行実績があります。診療科からの依頼に対して、患者に最も適切な治療形態で提供するように努めています。

【肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法】

肝臓の悪性腫瘍に対する治療法のひとつで、平成25年度より当課で治療時の技術サポートを行っています。

【医療機器管理業務】

各種医療機器の保守点検（使用後点検・定期点検）および修理を、当課で可能な範囲で行っています。院内で対応困難なケースは、医療機器メーカーへの窓口となり対処しています。

人工呼吸器・除細動器（AED含）・輸液ポンプ・シリンジポンプ・PCPS（経皮的心肺補助装置）・IABP（大動脈内バルーンポンプ）等の医療機器が安全に動作するように点検し、必要時は消耗部品の交換等も行っています。

【医療安全】

医療機器の取扱い研修の実施や、各種委員会および呼吸ケアサポートチームでの活動を通して、医療安全やチーム医療の充実に取り組んでいます。

今後の方向性

医療機器管理業務の更なる充実を図るべく、生体情報モニタや手術室の医療機器に対しても、外部委託のみでなく当課で保守管理業務を行っていきたいと考えています。また新病院移転に向け、老朽化した医療機器の整理も並行して行っていく必要があります。

医療機器使用環境がさらに安全で充実したものとなり、看護師が業務に専念できるようにするためにも、臨床工学技士の増員が必要と考えます。

栄養管理課

栄養管理係長　梅木 加寿子

医療の一環として、入院患者さんの栄養管理を行い、安全でおいしい食事の提供、および、入院外来患者さんへの栄養指導が主な業務です。

食事提供業務は一部委託しており、献立作成、全体的な栄養管理が病院、食材の発注、調理、盛り付け、配膳等は委託会社が担っています。

職員は、病院側が管理栄養士3名、委託会社側が管理栄養士2名、栄養士7名、調理師9名、調理員10名（パート含む）で構成されています。

27年は、電子カルテも軌道にのり、より一歩踏み込んだ栄養管理に取り組みました。

食事の提供

患者さん一人ひとりの病態や、年齢性別等に合わせた食事を提供する他、食欲のない患者さんには、個別に聞き取りを行い、主食の種類や量の変更、栄養補助食品を追加するなど、きめ細かな対応を心掛けています。

27年は、5年おきに見直しがされている国が示した「日本人の食事摂取基準」の改訂に伴い、一般食の栄養基準の見直しを行いました。年齢性別毎のエネルギー量の改訂による主食量の変更や、塩分相当量の摂取基準の減量による副食分量の変更などを行った献立となりました。

年2回の嗜好調査では、全体的には、93％の方が普通から良いと回答していただいていましたが、「副食が冷えている」や、「料理の味が薄い」などの意見もきかれたことから、料理を盛り付ける前に食器を従来より温めること、塩分が少なくてもおいしく食べられる調理法の工夫を検討するなど、食事内容の向上に役立てています。28年は、より良い食事の提供に取り組むため、嗜好調査内容の再検討を行う予定です。

栄養指導

入院外来患者さん対象の個別栄養指導を随時行っています。

27年も教室関係では、糖尿病教室（隔週）や糖尿病食事会（年2回）などの集団栄養指導とアレルギー予防教室（年2回）の個別相談を行っています。

27年は、当院の糖尿病専門医を中心に糖尿病教室の隔週開催も定着してきました。

チーム医療

NST活動では、事務局的な役割を果たし、毎週の勉強会、月1回の運営委員会、ラウンド等の準備、参加を行っています。

また、内科回診、褥瘡ラウンドにも参加し、チーム医療の中で、栄養に関する相談を受けたり、提案を行ったりしています。

医療安全やICT活動にも、積極的に参加しています。

糖尿病患者会（みどりの会）

八幡病院の患者会事務局として患者さんと共に、毎月の機関誌「さかえ」の発送や、糖尿病栄養教室、食事会などの行事を企画し、実施しています。また、毎年、北九州市全体で行われるウォークラリーに参加しています。

27年の糖尿病栄養教室では「1型糖尿病のサマーキャンプ」と題して、LCDEを取得されている当院の看護師の講演を行い、2型糖尿病の患者さんにとっては、いつもと違う目線で「糖尿病」を考えてみる機会がつくれました。

今後も多職種との連携を図りながら、医療サービスの向上に努力していきたいと思います。

看護部

看護部長　山本 智美

1. 救急病棟（東6病棟）の稼動病床数変更

4月に救急病棟の稼動病床が、20床から16床に変更された。救急病棟は4対1の高機能病棟として使用しているが、これまでの実績と必要人員などを病床運営委員会で検討し、16床で運用することが決定された。16床運用に伴い、救急病棟から一般病棟への転棟を積極的に行い、救急患者受け入れのための空床確保に努めた。

現在、小児を除く夜間及び土日祭日の救急患者は、すべて救急ＩＣＵと救急病棟に入院する体制を取っている。診療報酬算定基準を満たさない患者も含まれていることから、病床の効率的運用を考えると、軽症患者の一般病棟への直接入院を進めていくことが課題である。

〔入院患者状況〕

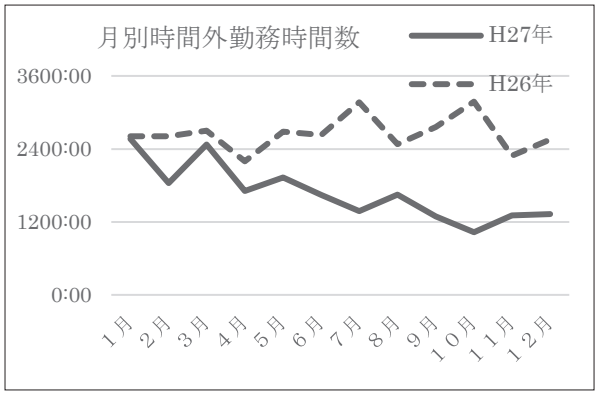
運用病床数	延べ患者数	病床稼働率
一般病棟 （185床）	47,369人	70.2%
小児病棟 （94床）	27,553人	80.3%
救急病棟 （16床）	3,444人	68.8% （1月～3月） 50.0% （1月以降）
救急ＩＣＵ （8床）	1,719人	58.9%

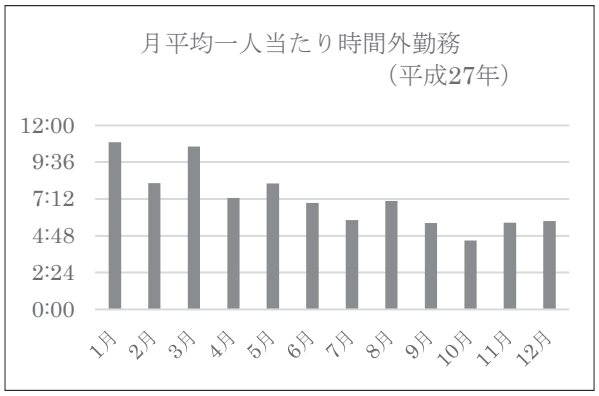
2. 時間外勤務の削減

患者の高齢化やＤＰＣ導入に向けた在院日数の短縮等により、業務は煩雑となり時間外勤務が多くなっていた。特に、日勤帯での時間外勤務が多く、部署による偏りも見られた。対策として、平成25年からリリーフ（応援）体制を取ってきた。平成27年も引き続き、「働きやすい職場づくり」を看護部の目標に掲げ、各部署での業務改善に取り組んだ。その結果、時間外勤務は大幅に減少している。

〔時間外勤務時間数〕

	総時間数	月平均一人当り
H26年	23950時間13分	11時間31分
H27年	13274時間22分	7時間13分





3. 看護職員の状況

〔採用および離職率〕

新規 採用	正規職員 （新卒看護師）	12名 （5名）
	非正規職員	18名
離職率	正規職員	5.6%
	新人看護師	0%
	全体（非正規含む）	10.2%

〔認定看護師養成〕

認定看護師は、集中ケア認定看護師が1名増え、7分野12名となった。認定看護師教育課程への派遣も継続して行っている。

事務局

事務局長　平野 義人

当院の事務局は、管理課と経営企画課の2課に3つの係が置かれています。

管理課庶務係は①病院全体の庶務・調整業務、②庁舎管理業務、③職員の労務管理・福利厚生業務、④予算決算・諸物品購入、などの多種多様な業務を担当しています。

現在の病院建物は建設後30年以上経過しており、大規模改修などは行ってきたものの経年劣化が目立っています。

地域の皆様から頼りにされる医療機関として、患者の皆様の療養環境をしっかりと守って行くという目標の下、設備保全を行い、今後とも患者の皆様が安心して過ごしていただけるように努力していきます。

また、事務局内には平成27年4月から新病院移転調整官が配置され、本格的に新病院移転に向けた準備が本格化しています。

平成27年5月に「新北九州市立八幡病院基本設計」が取りまとめられ、11月には移転改築工事の工事業者が決定されました。今後、実施設計、建設工事へと進み、平成30年度中の移転を予定しています。

経営企画課には、企画係と医事係が置かれています。

企画係では、①医療器械・医療備品、診療材料及び医薬品の購入、②施設基準、③経営改善、④医師の確保、⑤医療情報システム等に関する業務を担当しています。

今年度は、基幹型臨床研修病院の再指定を受け、平成28年4月から初期研修医受入れを再開することになりました。

また、老朽化が進んでいる医療機器・医療備品の更新に努め、新たな医師が着任した泌尿器科及び眼科の増収につなげました。

今後も引き続き、質の高い医療の提供に向けて、環境整備に努めていきます。

医事係では、①外来患者や入退院の受付事務、②診療報酬計算、請求、未収対策などの業務を行っています。

病院に来院した方に最初に対応するのが医事係の職員です。病院の顔として親切で思いやりのある対応を心がけ、患者さんに安心・信頼・満足していただけるよう努めています。

医療連携室

地域医療連携推進担当課長　崎田 幾子

医療連携室は、紹介患者の受け入れ調整（前方連携業務）、退院支援および退院調整（後方連携業務）、医療機関訪問や医療連携会、市民公開講座の開催（交流、広報活動）、医療相談窓口（相談業務）を担当しています。

1 活動状況および実績

1）紹介患者の受け入れ調整

平成27年の紹介件数は8,541件（平成26年5,372件）、うちFAXによる事前紹介は2,191件（25%）、救急患者紹介が319件でした。院内関係部署との連携を図り迅速な対応に努めています。

2）退院支援・退院調整

専従看護師2名、社会福祉士2名が、各々1～2病棟を担当し実施しています。H27年の退院調整件数は606件（平成26年474件）でした。うち成人の退院調整件数は583件で成人の退院患者総数（3,210人）の18%でした。

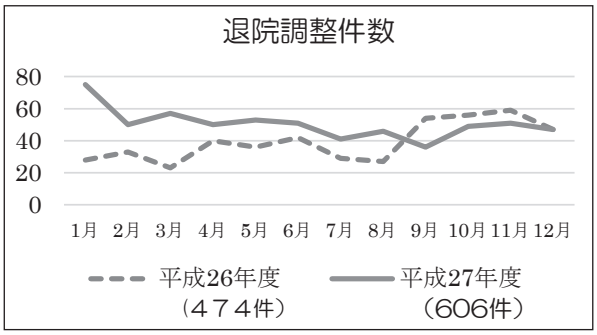
退院調整先は病院・診療所が68%、老人保健施設・特別養護老人ホームが0.2%、有料老人ホーム等の施設を含む在宅が27%であり、病院・診療所への調整が全体の三分の二を占めています。在宅調整においては、必要に応じて訪問看護師等との退院前カンファレンス（退院時共同指導）やケアマネージャーとのカンファレンス（介護支援連携指導）を実施し、在宅への円滑な移行に努めています。平成27年の退院時共同指導料算定は5件、介護支援連携指導料算定は26件でした。

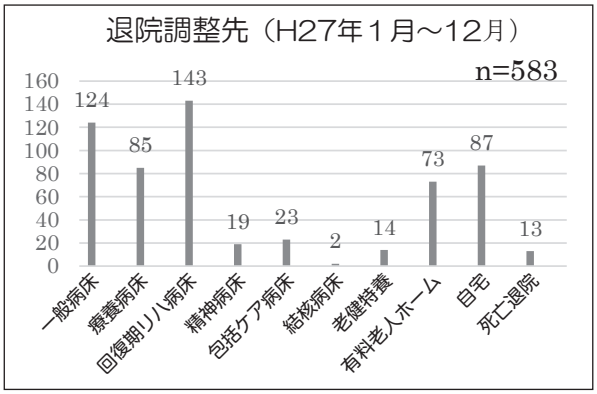
3）医療相談

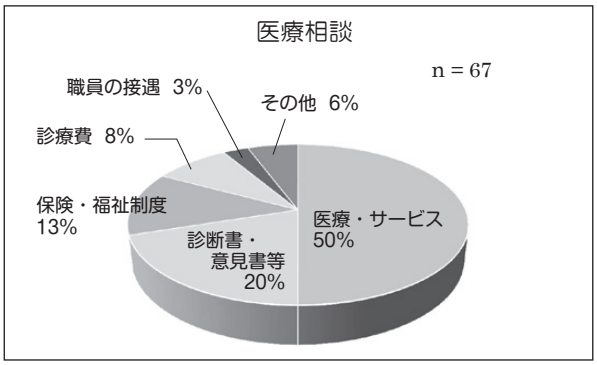
看護師2名、社会福祉士2名が担当し、必要に応じて関係部署へ引継いでいます。平成27年の相談件数は67件、うち「相談」79%、「苦情」13%、「要望」1%、「その他」7%でした。患者さんやご家族に、相談による不利益が及ばないように十分な配慮に努めています。

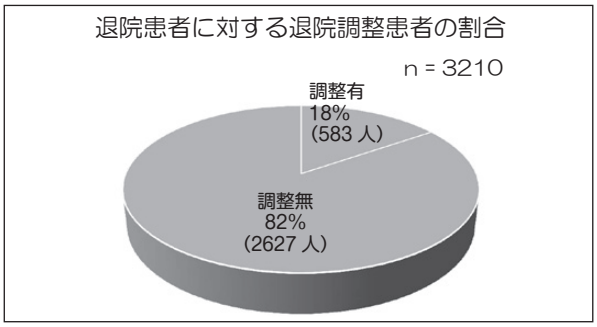
2　今後の課題

2016年度の診療報酬改訂では、退院支援の積極的な取り組みや介護や医療機関間の連携を評価する「退院支援加算」が新設されます。今後、介護支援連携指導の推進および連携医療機関、居宅サービス事業所等との協議や定期的なカンファレンスを実施し、「退院支援加算1」の取得を目指します。









5

業績集

2015年 八幡病院業績集

内科

論文

1. GAVE に対する APC 治療後に発生した多発過形成性ポリープの一例
   川口 浩太郎、原武 譲二
   日本消化器内視鏡学会雑誌 57 (1) ; 52 − 53 : 2015
2. 腸石嵌頓を伴う十二指腸憩室穿孔に対して ENBD チューブ留置が奏功した一例
   川口 浩太郎
   日本消化器内視鏡学会雑誌 57 (5) ; 1271 − 1277 : 2015

学会・研究会

1. 原発性副甲状腺機能亢進症治癒と共にインスリン離脱可能であった 2 型用尿病の一例
   中村 寛
   北九州糖尿病研究会　1 月 27 日　北九州市
2. 高カルシウム血症と 2 型糖尿病
   中村 寛
   第 2 回 ほばしら内科カンファレンス　1 月 29 日　北九州市
3. 肺炎の 2 例
   伊藤 光佑
   第 2 回 ほばしら内科カンファレンス　1 月 29 日　北九州市
4. 5-ASA 不耐症の症例
   川口 浩太郎
   第 3 回 ほばしら内科カンファレンス　5 月 29 日　北九州市
5. 好酸球性筋炎・心筋炎の症例
   末永 章人
   第 3 回 ほばしら内科カンファレンス　5 月 29 日　北九州市
6. 嚥下困難で発症した高齢者破傷風の一例
   川口 浩太郎、坂上 和樹、伊藤 光佑、中村 寛、吉田 有吾、小住 乃理子、下野 淳哉、末永 章人
   第 309 回 日本内科学会九州地方会　5 月 30 日　久留米市
7. 嚥下障害で受診した高齢者の一例
   川口 浩太郎
   第 4 回 ほばしら内科カンファレンス　9 月 3 日　北九州市
8. 2 型糖尿病患者における心血管系イベントの既往と血清総ビリルビン濃度の関連
   中村 寛、坂上 和樹、吉田 有吾、川口 浩太郎、下野 淳哉、末永 章人、太崎 博美
   第 53 回 日本糖尿病学会九州地方会　11 月 28 日　福岡市
9. メサラジン不耐症の一例
   川口 浩太郎
   第 106 回 日本消化器病学会九州支部例会　12 月 5 日　久留米市

座長・司会

1. 末永 章人
   症例検討
   第 2 回 ほばしら内科カンファレンス　1 月 29 日　北九州市
2. 中村 寛
   症例検討
   八幡糖尿病よろず相談所　4 月 21 日　北九州市
3. 吉田 有吾
   症例検討
   第 3 回 ほばしら内科カンファレンス　5 月 29 日　北九州市
4. 末永 章人
   症例検討
   第 4 回 ほばしら内科カンファレンス　9 月 3 日　北九州市

講演

1. 糖尿病患者初診時に私が気を付けていること
   中村 寛
   八幡臨床外科医会　1 月 21 日　北九州市
2. 糖尿病と動脈硬化
   中村 寛
   北九州循環器懇話会　2 月 27 日　北九州市
3. 糖尿病性昏睡の病態と治療
   中村 寛
   実地医家のための糖尿病セミナー　7 月 26 日　北九州市
4. 臨床に役立つ超音波　風邪、下痢、熱にすぐエコー
   馬場 三男
   第 4 回 ほばしら内科カンファレンス　9 月 3 日　北九州市
5. ペットボトル症候群について
   中村 寛
   八幡糖尿病よろず相談所　9 月 14 日　北九州市

循環器内科

学会・研究会

1. PCI 初心者のための IVUS によるトラブルシューティング
   原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
   福岡心血管研究会　1 月 22 日　福岡市
2. 腹部大動脈閉塞症例
   原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
   八幡 PAD 研究会　2 月 4 日　北九州市

3. Education for young physician, session 4, Renal Artery Stenting ― これまでのエビデンスとガイドライン、テクニック
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
Japan Endovascular Treatment Conference（JET）2015　2月20日　大阪市
4. The Importance of Appropriate Renal Artery Stenting ― このエコー所見の患者には効果が期待できる
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
Japan Endovascular Treatment Conference（JET）2015　2月21日　大阪市
5. 肺水腫で来院した重症重症大動脈弁狭窄症例
中園 和利、眞田 賢哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第23回 ひびき灘エコークラブ　2月25日　北九州市
6. 著明な肺高血圧を認め、治療に難渋している一例
原田 敬、小住 清志、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
北九州循環器懇話会　2月27日　北九州市
7. 症例検討：糖尿病患者における血管病スクリーニング ― 症状に乏しかったASO症例
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第37回 八幡循環器カンファレンス　3月4日　北九州市
8. 特別講演：心不全はカテでは治せない～リピーターを減らす工夫
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第37回 八幡循環器カンファレンス　3月5日　北九州市
9. 最近”コレステロール摂取制限は必要なし”という記事を読みましたが？
太崎 博美
第37回 八幡循環器カンファレンス　3月5日　北九州市
10. Ultrasound guided EVT solitary
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
Slender Club Japan Annual Meeting 2015 in Tokyo　4月12日　東京都
11. EVT troubleshooting ― ワイヤーが抜けない！
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
福岡心血管研究会　4月16日　福岡市
12. Differences between Heart Failure with Preserved and Reduced Ejection Fraction in Response to Cardiac Rehabilitation − Imapct of Endothelial Function
Seiya Tanaka, Harei Iwagaki, Kazutoshi Nakazono, Masao Takahashi, Yoshinori Sanuki, Kiyoshi Ozumi, Koyu Sakai, Takashi Harada, Hiromi Tasaki
The 79th annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society　4月26日　大阪市
13. ミニレクチャー：エコーガイドEVTに関する新技術
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
Slender Club Japan workshop in Higashikani 2015　6月26日　岐阜県可児市
14. 深部静脈血栓症から肺塞栓症を発症した原因として子宮腺筋症が疑われた1例
中園 和利、眞田 賢哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第118回 日本循環器学会九州地方会　6月27日　福岡市

15. SFA-CTO に対し体表エコーガイド下に CROSSER System で治療した 1 例
眞田 賢哉、中園 和利、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
八幡循環器カンファレンス　7 月 2 日　北九州市

16. 本当にコレステロール摂取制限なしで良いのでしょうか?
太崎 博美
第 38 回 八幡循環器カンファレンス　7 月 2 日　北九州市

17. Coronary Perforation
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
福岡心血管研究会　7 月 16 日　福岡市

18. 当院における心不全診療の現状
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
第 1 回 心不全ケア研究会　7 月 27 日　北九州市

19. No - reflow phenomenon during Paclitaxel coated balloon angioplasty in an in - stent restenosis
Yoshinori Sanuki, Kenya Sanada, Kazutoshi Nakazono, Kiyozhi Ozumi, Seiya Tanaka, Takashi Harada, Hiromi Tasaki
第 24 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会　7 月 30 日　福岡市

20. 肺動脈性肺高血圧症の症例
眞田 賢哉、中園 和利、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第 22 回 玄海心不全カンファレンス　8 月 28 日　北九州市

21. 発症次期不明の CTEPH に対して sGC 刺激薬で加療中の 1 例
眞田 賢哉、中園 和利、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第 310 回 日本内科学会九州地方会　8 月 29 日　佐賀市

22. 利尿剤使用に伴う高尿酸血症の治療
太崎 博美
第 4 回 ほばしら内科カンファレンス　9 月 3 日　北九州市

23. A Case of Subclavian Artery Intervention without Distal Protection
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
Slender 道場九州場所　9 月 12 日　福岡市

24. The 4 - in - 5
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
福岡心血管研究会　10 月 15 日　福岡市

25. 頚動脈 IMT から何が見えるか
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
北九州循環器懇談会　10 月 16 日　北九州市

26. リオシグアトにて加療中の慢性血栓塞栓性肺高血圧症の 1 例
中園 和利、眞田 賢哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第 14 回 北九州循環器フェローシップ研究会　10 月 21 日　北九州市

27. 肺動脈性肺高血圧症の 1 例
眞田 賢哉、中園 和利、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
PH アーベント　10 月 27 日　北九州市

28. Carotid and Renal Intervention : Current Concept of Indicatoin for Renal Artery Stenting
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
Complex Cardiovascular Therapeutics（CCT）2015　10月29日　神戸市
29. 薬物療法にて奏功した慢性血栓塞栓性肺高血圧症の1例
小住 清志、眞田 賢哉、中園 和利、佐貫 仁宣、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第39回 八幡循環器カンファランス　11月5日　北九州市
30. 木を見て森を見る!? ― 頚動脈エコーからわかること
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
第39回 八幡循環器カンファレンス　11月5日　北九州市
31. SFA - CTO に対して体表エコーガイド下に CROSSER System で治療した1例
中園 和利、眞田 賢哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第22回 日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会　11月7日　那覇市
32. RCA, LAD 病変を 5Fr GC を用いて一期的に治療した一例
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
第22回 CVIT 九州沖縄地方会ビデオライブ　11月13日　那覇市
33. 心不全増悪を水際で防ぐ介護連携について
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
第2回 心不全ケア研究会　11月16日　北九州市
34. The 10 TIPS before challenging CTO - PCI by "the slender way"
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
Slender Club Japan Okinawa Camp 2015　11月20日　那覇市
35. 合併症の多い肺動脈性肺高血圧症
眞田 賢哉、中園 和利、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第119回 日本循環器学会九州地方会　12月5日　福岡市
36. 鎖骨下動脈競作に対する血管内治療の長期成績
原田 敬、眞田 慎也、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、太崎 博美
日本循環器学会九州地方会　12月6日　福岡市

座長・司会

1. 田中 正哉
症例検討
循環器・糖尿病ジョイントミーティング　1月21日　北九州市
2. 田中 正哉
症例検討
北九州循環器懇談会　1月27日　北九州市
3. 原田 敬
症例検討
八幡 PAD 懇話会　2月4日　北九州市
4. 原田 敬
Presentation Award
Japan Endovascular Treatment Conference（JET）2015　2月20日　大阪市

5. 原田 敬
EVT live 7
Japan Endovascular Treatment Conference（JET）2015　2月21日　大阪市

6. 原田 敬
VERDICT Investigator meeting
Japan Endovascular Treatmetn Conference（JET）2015　2月22日　大阪市

7. 原田 敬
特別講演
北九州心血管治療研究会　2月25日　北九州市

8. 原田 敬
症例検討
八幡循環器カンファレンス　3月5日　北九州市

9. 原田 敬
ライブデモンストレーション
九州トランスラディアル研究会　3月6日　嬉野市

10. 太崎 博美
症例発表
第21回 玄海心不全カンファレンス　3月13日　北九州市

11. 原田 敬
ミニレクチャー
Slender Club Japan Workshop in Sapporo　3月28日　札幌市

12. 原田 敬
ランチョンセミナー
日本心エコー図学会　3月28日　北九州市

13. 原田 敬
ペリフェラルビデオライブ
Slender Club Japan Annual Meeting 2015 in Tokyo　4月11日　東京都

14. 原田 敬
ペリフェラルセッション症例検討会
Slender Club Japan Annual Meeting 2015 in Tokyo　4月12日　東京都

15. 原田 敬
PCI Live 4「Kokura meets J - WINC」
The 32nd Live Demonstration in Kokura　5月15日　北九州市

16. 原田 敬
特別講演 2
八幡 PAD 懇話会　6月10日　北九州市

17. 原田 敬
特別講演
Slender Club Japan workshop in Higashikani 2015　6月27日　可児市

18. 原田 敬
症例検討
八幡循環器カンファレンス　7月2日　北九州市

19. 原田 敬
メディカル一般口演「PAD6」
第 24 回 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT2015）　7月31日　福岡市

20. 原田 敬
ビデオライブ「ステント再閉塞に対する治療戦略」
第 24 回 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT2015）　7月31日　福岡市

21. 原田 敬
メディカル一般口演「PTSMA」
第 24 回 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT2015）　8月1日　福岡市

22. 太崎 博美
症例発表
第 22 回 玄海心不全カンファレンス　8月28日　北九州市

23. 原田 敬
EVT Live Case Transmission1
Complex Cardiovascular Therapeutics（CCT）2015　9月30日　神戸市

24. 原田 敬
EVT Live Case Transmisson8
Complex Cardiovascular Therapeutics（CCT）2015　10月1日　神戸市

25. 原田 敬
症例検討
八幡 PAD 懇話会　10月7日　北九州市

26. 小住 清志
症例検討
第 14 回 北九州循環器フェローシップ研究会　10月21日　北九州市

27. 太崎 博美
症例発表
第 9 回 北九州肺高血圧アーベント　10月27日　北九州市

28. 田中 正哉
症例検討
第 39 回 八幡循環器カンファレンス　11月5日　北九州市

29. 原田 敬
症例検討
八幡循環器カンファレンス　11月5日　北九州市

30. 太崎 博美
症例発表
第 39 回 八幡循環器カンファレンス　11月5日　北九州市

31. 太崎 博美
　症例発表
　第 2 回 八幡心不全ケア研究会　11 月 16 日　北九州市
32. 原田 敬
　一般演題「PAD」
　日本循環器学会九州地方会　12 月 5 日　福岡市

講演

1. 健康は足から
　原田 敬
　年長者の里　いきいき福祉講座（市民講演）　1 月 15 日　北九州市
2. 糖尿病における血管エコースクリーニング
　原田 敬
　臨床検査技師会　第 13 回 卒後教育研修　生理検査部門研修会　2 月 1 日　大分市
3. 腎動脈・末梢動脈領域における血管エコー活用術
　原田 敬
　下関エコーセミナー　2 月 6 日　山口県下関市
4. 健康は足から
　原田 敬
　ウエル戸畑市民講演　2 月 27 日　北九州市
5. CKD ／糖尿病患者の脂質管理
　太崎 博美
　腎と代謝・内分泌カンファレンス　3 月 3 日　北九州市
6. 末梢動脈・腎動脈領域における血管エコー活用術
　原田 敬
　第 3 回 筑豊超音波カンファレンス（麻生飯塚病院）　3 月 4 日　飯塚市
7. 腎動脈エコーの基本
　原田 敬
　第 0 回 北 Q エコー塾　3 月 20 日　インターネット講演
8. PCI の Pitfall とトラブルシューティング：Stent Delivery Failure
　原田 敬
　Medtronic Hour 2015　4 月 4 日　北九州市
9. 動脈硬化診療における血管エコー活用術
　原田 敬
　飯塚医師会学術講演会　4 月 15 日　飯塚市
10. 臨床に役立つ脂質管理の実際
　太崎 博美
　第 5 回 遠賀中間循環器連携セミナー　4 月 20 日　遠賀郡
11. 健康は足から
　原田 敬
　市民講座　楠橋　5 月 7 日　北九州市

12. 腎動脈エコーの基本
原田 敬
第 1 回 北 Q エコー塾　5 月 27 日　インターネット講演

13. 健康は足から
原田 敬
市民講座　上上津役−大原　5 月 28 日　北九州市

14. 腎動脈のエコー　評価と基本
原田 敬
The Echo Live Osaka 2015　5 月 30 日　大阪市

15. 冠動脈危険因子と高尿酸血症
太崎 博美
洞薬会 6 月学術講演会　6 月 18 日　北九州市

16. DHF, HFNEF, HFpEF, そして ...
田中 正哉
第 38 回 八幡循環器カンファレンス　7 月 2 日　北九州市

17. 循環器内科外来における高尿酸診療の現状
原田 敬
Kitakyushu HyperUricemia Conference　7 月 7 日　北九州市

18. 腎動脈エコーによる腎動脈狭窄の評価
原田 敬
第 2 回 北 Q エコー塾　7 月 8 日　インターネット講演

19. 腎動脈エコーによる腎機能障害の評価
原田 敬
第 3 回 北 Q エコー塾　9 月 30 日　インターネット講演

20. 高齢化社会での心不全ケア
田中 正哉
北九州市立八幡病院　医療連携会　10 月 5 日　北九州市

21. 両側 CFA 高度狭窄
原田 敬
八幡 PAD 懇話会　10 月 7 日　北九州市

22. 下肢動脈エコー　スクリーニング編
原田 敬
第 4 回 北 Q エコー塾　11 月 24 日　インターネット講演

23. 健康は足から
原田 敬
市民講座　小倉南区　12 月 3 日　北九州市

著書

1. 第 2 章 腎動脈　2. 血管内治療の適応
格段にうまくいく EVT の基本とコツ 改訂版　羊土社　2015

その他

1. 原田 敬
   手術応援：下関市立病院 PTRA　3月17日　下関市
2. 原田 敬
   八幡病院 Intervention Workshop の企画、運営　7月24日　北九州市
3. 原田 敬
   手術応援：済生会福岡総合病院 PTSMA　11月17日　福岡市
4. 原田 敬
   手術応援：済生会八幡総合病院 PCI　12月22日　北九州市

小児科

論文

1. 小児救急疾患アトラス「先天性皮膚洞」
   市川 光太郎
   Emergency Care 28；48 − 51：2015
2. 保育園における午睡環境と一般家庭における乳児睡眠環境について
   市川 光太郎
   日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会雑誌 14；15 − 33：2015
3. 小児救急アトラス「ネグレクト」
   市川 光太郎
   Emergency Care 28；294 − 296：2015
4. 巻頭言
   市川 光太郎
   日本小児救急医学会雑誌 14；1 − 1：2015
5. 虐待を疑うべき所見・症状
   市川 光太郎
   外来小児科 18；18 − 25：2015
6. 小児救急疾患アトラス「肺静脈閉鎖症」
   市川 光太郎
   Emergency Care 28；494 − 497：2015
7. 小児救急と虐待
   市川 光太郎
   増大号「小児科医のための小児救急 UP DATE」小児科 56；447 − 455：2015
8. 小児救急疾患アトラス「副鼻腔炎からの頭蓋内膿瘍（硬膜外膿瘍）」
   市川 光太郎
   Emergency Care 28；692 − 695：2015
9. 日本小児救急医学会からみた JPGL の再評価と展望
   市川 光太郎
   アレルギー・免疫 22；1072 − 1078：2015

10. 小児救急医療の将来展望
市川 光太郎
香川県小児科医会会誌 36 ; 44 − 49 : 2015
11. 小児救急疾患アトラス「ウロセプシス」
市川 光太郎
Emergency Care 28 ; 900 − 902 : 2015
12. 保護者との協働による「小児初期救急医療」の質の向上を目指して
市川 光太郎
日本小児科学会雑誌 119 ; 1341 − 1346 : 2015
13. 小児救急疾患アトラス「縦隔腫瘍」
市川 光太郎
Emergency Care 28 ; 1116 − 1118 : 2015
14. 子ども達のために、家庭トリアージによる家庭看護力アップを！
市川 光太郎
日本小児科医会会報 50 ; 41 − 44 : 2015
15. 救急現場での多職種連携による虐待対応
市川 光太郎
日本小児科学会雑誌 119 ; 1614 − 1619 : 2015
16. 救急医療現場での子どもの事故への取り組み
市川 光太郎
小児保健研究 74 ; 848 − 851 : 2015
17. 乳児頭部外傷診療の“安全と質”の評価 :「非適応」頭部 CT 撮影の実態調査と課題
福田 信也、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
福岡県小児科医報 53 ; 50 − 52 : 2015

学会・研究会

1. 虐待対応地域医療体制
市川 光太郎
日本臨床救急医学会・第 18 回 地域医療体制検討委員会　2 月 24 日　東京都
2. 小児救急医療の将来展望
市川 光太郎
平成 27 年度 香川県小児科医会春期学術集会　4 月 5 日　高松市
3. 有熱性けいれんの 24 時間以内再発危険因子の解析
増井 美苗、神薗 淳司、松島 卓哉、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、山根 浩昌、
石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 484 回 日本小児科学会　福岡地方会・総会　4 月 11 日　福岡市
4. 乳児頭部外傷診療における「非適応」頭部 CT 撮影の実態と課題
福田 信也、神薗 淳司、松島 卓哉、岡畠 祥憲、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、
山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 484 回 日本小児科学会福岡地方会例会・総会　4 月 11 日　福岡市

5. Development and implementation of Pediatric Early Warning Scoring System
中野 慎也、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
ASPR 2015　第 11 回 アジア小児科学研究学会　4 月 17 日　大阪市

6. 教育講演 14「救急現場での多職種連携による虐待対応」
市川 光太郎
第 118 回 日本小児科学会学術集会　4 月 18 日　大阪市

7. VUR に対する Advanced US
小野 友輔
小児救急医学会　5 月 12 日　さいたま市

8. ショックで搬送された右遅発性横隔膜ヘルニアの 8 ヶ月男児
増井 美苗、松島 卓哉、富田 一郎、八坂 龍広、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、神薗 淳司、
天本 正乃、市川 光太郎
小児科医会例会　5 月 21 日　北九州市

9. 周産期～乳児期の虐待の現状と課題 ― いかに見出し、向き合い、つなぎ、いかに支えていくか ―
市川 光太郎
第 4 回 日本タッチケア学会　6 月 6 日　東京都

10. 2015 年 hMPV 下気道感染症の臨床像
松石 登志哉、神薗 淳司
第 5 回 小児呼吸器ウイルス研究会　6 月 11 日　東京都

11. 有熱性けいれんの 24 時間以内再発危険因子の解析
増井 美苗、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 29 回 日本小児救急医学会学術集会　6 月 12 日　さいたま市

12. 遅発性右横隔膜ヘルニアの乳児症例の経験～搬送および院内急変対応に関する課題～
増井 美苗、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 29 回 日本小児救急医学会　6 月 12 日　さいたま市

13. 小児外来・ER 室における小児早期警告スコアリング異常高値症例の解析
中野 慎也、小野 友輔、神薗 淳司、福田 信也、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、福田 信也、岡畠 祥憲、
小野 佳代、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、
天本 正乃、市川 光太郎
日本小児救急医学会学術集会　6 月 13 日　さいたま市

14. 脳死下臓器提供と児童虐待
市川 光太郎
第 29 回 日本小児救急医学会・第 5 回 脳死判定セミナー　6 月 13 日　さいたま市

15. 乳児頭部外傷診療における
「非適応」頭部 CT 撮影の実態と課題
福田 信也、神薗 淳司、松島 卓哉、岡畠 祥憲、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、
山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 29 回 日本小児救急医学会学術集会　6 月 13 日　さいたま市

16. 2歳未満の頭蓋内損傷の危険因子解析
福田 信也、神薗 淳司、松島 卓哉、岡畠 祥憲、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、
山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第29回 日本小児救急医学会学術集会　6月13日　さいたま市

17. 市販の変声用ヘリウムガスを吸入し、脳空気塞栓症を起こした1例
沖 剛
第29回 日本小児救急医学会学術集会　6月13日　さいたま市

18. 小児期縦隔気腫の要因分析と治療管理
村上 珠菜
第29回 日本小児救急医学会学術研究会　6月13日　さいたま市

19. 小児急性腎障害 Acute Kidney Injury とロタウイルス感染症
小林 加奈、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第29回 日本小児救急医学会学術集会　6月13日　さいたま市

20. 教育講演4「子ども達のために、家庭トリアージにおける家庭看護力アップを!」
市川 光太郎
第26回 日本小児科医会総会フォーラム in 大分　6月14日　大分市

21. シンポジウム「小児の事故」救急病院での子どもの事故への取り組み
市川 光太郎
第62回 日本小児保健協力学術集会　6月20日　長崎市

22. 左下肢痛を主訴に来院した局在関連性てんかんの1例
森吉 研輔、福田 信也、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
八幡小児臨床懇話会　6月25日　北九州市

23. ロタウイルス腸炎によるけいれん重積型急性脳症の一例
小林 優、小野友輔、天本 正乃、市川 光太郎
八幡臨床懇話会　6月25日　北九州市

24. 北九州市立八幡病院における最近5年間の尿路感染症に関する検討
松永 遼、富田 一郎、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第12回 小児救急医療カンファレンス　6月26日　飯塚市

25. 今だから話せる小児救急医の失敗談
市川 光太郎
第4回 日本小児診療多職種研究会・教育講演－1　7月19日　北九州市

26. HAPPY TALK
市川 光太郎
第5回 ハッピーカンファレンス・レジェンドコース　7月20日　神戸市

27. 来院時心拍数からみた小児低体温の解析と意義
平田 衣乃、福田 信也、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第15回 九州・沖縄救急医学研究会　8月8日　宮崎市

28. RSV・hMPV 下気道感染症における MPV（平均血小板容積）変化の特徴と意義
森吉 研輔、福田 信也、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第15回 九州・沖縄小児救急医学研究会　8月8日　宮崎市

29. 胸腔鏡下手術 VATS を選択した hMPV 下気道感染後膿胸の 1 歳男児例
松永 遼、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 1 回 八幡地区病院小児科合同カンファレンス　9 月 14 日　北九州市

30. VUR に対する Advanced US（YIA 最優秀賞授賞講演）
小野 友輔
日本超音波医学会九州地方会　9 月 27 日　鹿児島市

31. 川崎病に対するステロイド併用療法（層別化 mPSL+IVIG 療法の検証）
富田 芳江、神薗 淳司、長嶺 伸治、小林 優、西野 裕、天本 正乃、市川 光太郎
第 35 回 日本川崎病学会・学術集会　10 月 9 日　鹿児島市

32. A 群溶血性連鎖球菌感染症を合併した川崎病症例の検討
長嶺 伸治、神薗 淳司、富田 芳江、小林 優、西野 裕、天本 正乃、市川 光太郎
第 35 回 日本川崎病学会・学術集会　10 月 9 日　鹿児島市

33. 川崎病における体温上昇に応じた心拍数増加は IVIG 反応性を予測する
小林 優、神薗 淳司、苔口 知樹、富田 芳江、西野 裕、天本 正乃、市川 光太郎
第 35 回 日本川崎病学会・学術大会　10 月 9 日　鹿児島市

34. 2 歳未満の頭蓋内損傷の危険因子解析
福田 信也、神薗 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、岡畠 祥憲、小野 佳代、小野 友輔、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 486 回 日本小児科学会福岡地方会例会　10 月 10 日　福岡市

35. RSV・hMPV 下気道感染症における MPV（平均血小板容積）変化の特徴と意義
森吉 研輔、福田 信也、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 486 回 日本小児科学会福岡地方会例会　10 月 10 日　福岡市

36. hMPV 下気道感染症の流行年度間の臨床像比較
松石 登志哉、神薗 淳司
第 486 回 日本小児科学会福岡地方会　10 月 10 日　福岡市

37. 腸回転異常を伴う右傍十二指腸ヘルニアの 1 例
松石 登志哉
第 42 回 日本小児栄養消化器肝臓学会　10 月 17 日　広島市

38. 小児有熱性けいれんの 24 時間以内再発症例の特徴と危険因子の解析
増井 美苗、神薗 淳司、市川 光太郎
第 43 回 日本救急医学会総会　10 月 21 日　東京都

39. 乳児頭部外傷診療の標準化に向けて 診察医により頭部 CT 撮影率に差はあるか
福田信也、神薗 淳司、松島卓哉、岡畠祥憲、天本 正乃、市川 光太郎
第 43 回 日本救急医学会総会　10 月 21 日　東京都

40. ER における小児早期警告 スコアリングシステム運用　異常高値症例の解析からみた ER―病棟連携
中野 慎也、小野 友輔、神薗 淳司、福田 信也、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、福田 信也、岡畠 祥憲、小野 佳代、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 43 回 日本救急医学会総会　10 月 22 日　東京都

41. 高体温児のバイタルサインの評価の検討―重症感染症の早期認識基準の作成
岡畠 祥憲、神薗 淳司、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、松島 卓哉、天本 正乃、市川 光太郎
第 43 回 日本救急医学会総会　10 月 22 日　東京都

42. 外傷性内頚動脈解離による脳梗塞の小児例
沖 剛、神薗 淳司、増井 美苗、福田
第 43 回 日本救急医学会総会　10 月 22 日　東京都

43. 小児急性硬膜下血腫における他の頭蓋内病変合併と予後
森吉 研輔、福田 信也、神薗 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、岡畠 祥憲、小野 佳代、小野 友輔、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 13 回 小児救急医療カンファランス　11 月 27 日　北九州市

44. 警察との連携からみた死因不明症例の検討
沖 剛、神薗 淳司、市川 光太郎
第 13 回 小児救急医療カンファランス　11 月 27 日　北九州市

45. VUR に対する Advanced US
小野 友輔
第 1 回 小児超音波研究会　11 月 28 日　徳山市

46. 腹部超音波検査を契機に診断に至った SLE の 13 歳男児
中野 慎也、小野 友輔、神薗 淳司、福田 信也、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、福田 信也、岡畠 祥憲、小野 佳代、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
日本小児科学会福岡地方会例会　12 月 12 日　久留米市

47. 体温補正心拍数を用いた小児比較的徐脈の定義とその臨床的意義
青砥 悠哉、神薗 淳司、福田 信也、沖 剛、増井 美苗、長嶺 信治、岡畠 祥憲、小野 佳代、小野 友輔、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 487 回 日本小児科学会福岡地方会例会　12 月 12 日　久留米市

48. 乳児の心拍数・呼吸数は鉄欠乏性貧血により影響をうけるか?
平田 衣乃、福田 信也、神薗 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、岡畠 祥憲、小野 佳代、小野 友輔、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩晶、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 487 回 日本小児科学会福岡地方会例会　12 月 12 日　久留米市

座長・司会

1. 市川 光太郎
特別講演「乳幼児突然死症候群と循環器疾患」
第 21 回 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会　3 月 7 日　大宮市

2. 市川 光太郎
一般演題「けいれんと嘔吐下痢の家庭看護のコツ」
平成 26 年度 第 2 回 日本小児科学会・小児救急市民公開フォーラム　3 月 21 日　東京都

3. 市川 光太郎
ワークショップ「小児救命救急の現状と展望」
第 18 回 日本臨床救急医学会学術集会　6 月 4 日　富山市
4. 市川 光太郎
招待講演 1「小児救急のピットホール」
第 29 回 小児救急医学会　6 月 12 日　さいたま市
5. 小野 友輔
小児の尿路感染症について
小児救急医療カンファレンス　6 月 26 日　飯塚市
6. 天本 正乃
より自然に、さらに個性まで再建する～最近の口唇裂治療～
第 4 回 日本小児診療多職種研究会　7 月 9 日　北九州市
7. 市川 光太郎
教育講演「タッチケアの広がり」
第 4 回 日本小児診療多職種研究会　7 月 19 日　北九州市
8. 今村 徳夫
ランチョンセミナー
第 4 回 日本小児診療多職種研究会　7 月 20 日　北九州市
9. 市川 光太郎
#8000 小児救急電話相談事業での電子マニュアルの活用、小児救急電話事業の意義と今後の展望について
平成 27 年度 福岡県小児救急電話相談事業研修会　10 月 15 日　福岡市
10. 市川 光太郎
事例検討
平成 27 年度 福岡県小児救急電話相談事業研修会　10 月 15 日　福岡市
11. 市川 光太郎
ワークショップ「PECEP コースに関わるワークショップ」
第 43 回 日本救急医学会総会・学術集会　10 月 23 日　東京都
12. 小野 友輔
セッション 1
第 1 回 小児超音波研究会　11 月 28 日　徳山市

講演

1. 小児救急疾患・突然死・児童虐待
市川 光太郎
産業医科大学医学部 3 年生講義　1 月 15 日　北九州市
2. これから出会う小児超音波物語
小野 友輔
長野県立こども病院院内講習会　1 月 23 日　安曇野市
3. 児童虐待について
市川 光太郎
北九州市保育課・子育て支援サポーター養成講座　1 月 23 日　北九州市

4. 救命士国家試験対策～小児救急～
市川 光太郎
公務員ビジネス専門学校特別講義　1月27日　福岡市

5. 小児救急医療体制の現在と未来
市川 光太郎
平成26年度 第3回 恒友会講演会　2月5日　大阪市

6. 救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
第36回 河内救愛会学習会講演　2月7日　南国市

7. 小児超音波物語
小野 友輔
茨城県　第4回 小児エコーゼミナール　2月14日　水戸市

8. 乳幼児の虐待～ AHT を中心に～
市川 光太郎
第1回 HOPE 勉強会　2月14日　大分市

9. 児童虐待の現状 ― 救急医療現場から ―
市川 光太郎
第41回 地域組織活動指導者全国退会　2月19日　北九州市

10. 小児の心肺蘇生について
松島 卓哉
小児 CPA セミナー　2月20日　北九州市

11. 小児科外来および保育園・幼稚園等での感染対策のポイントとコツ
市川 光太郎
下関市医師会　平成26年度 小児救急研修会　2月21日　下関市

12. 医療現場が対峙すべき児童虐待～いかに見出し、いかに向き合い、いかにつないでいくか！～
市川 光太郎
横浜市虐待防止研修会　3月17日　横浜市

13. プライマリケア医で行うべき夜尿症の診断と治療
今村 徳夫
夜尿症講演会　4月14日　行橋市

14. 小児救急現場で対峙する児童虐待～われわれはいかに関わるべきか?～
市川 光太郎
第3回 北海道小児急性期医療カンファレンス　5月15日　札幌市

15. 思春期児童にまつわる小児救急問題
市川 光太郎
第2回 ブートキャンプ（渓仁会・松戸・八幡病院）勉強会　5月16日　札幌市

16. 日本社会と児童虐待
市川 光太郎
福岡女学院看護大学「生命倫理」講義　6月16日　古賀市

17. こどもの病気、けがについて（第1回）
　小野 友輔
　さくら保育園講演会　6月23日　北九州市
18. こどもの中毒
　市川 光太郎
　久留米大学医学部3年生特別講義　7月7日　久留米市
19. 小児救急疾患と子ども虐待
　市川 光太郎
　久留米大学医学部看護学科2年生特別講義　7月14日　久留米市
20. こどもの突然死と児童虐待
　市川 光太郎
　久留米大学医学部4年生特別講義　7月14日　久留米市
21. 小児超音波リアルタイムハンズオンセミナー、小児超音波物語
　小野 友輔
　北九州小児救急ワークショップ　7月18日　北九州市
22. 小児超音波リアルタイムハンズオンセミナー、小児超音波物語
　小野 友輔
　小児多職種研究会　7月18日　北九州市
23. 救急現場での多職種による虐待対応
　市川 光太郎
　日経ラジオ「小児科診療 Up to date」　7月25日　東京都
24. 子どもの心と身体の発育と健康
　市川 光太郎
　HOT 子育てプラザ・子育てサポーター育成講座　7月28日　北九州市
25. 小児救急疾患の特徴と児童虐待とについて
　市川 光太郎
　九州救急救命士養成学校　平成27年度 夏期研修生講座　8月4日　北九州市
26. 小児臨床超音波の実際
　小野 友輔
　八幡臨床懇話会　9月9日　北九州市
27. 虐待による子ども健康被害
　市川 光太郎
　恩賜財団 母子愛育会　全国ブロック研修3　福岡会場「母子保健活動における児童虐待予防研修会」
　9月10日　福岡市
28. 小児救急疾患・突然死・児童虐待
　市川 光太郎
　筑波大学医学部3年生講義　9月11日　つくば市
29. 小児救急疾患と児童虐待の特徴と対応法
　市川 光太郎
　消防大学第77期救急科講義　9月18日　三鷹市

30. 小児臨床超音波の実際
小野 友輔
第 5 回 茨城県小児エコーゼミナール　9 月 19 日　水戸市
31. 小児救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
第 6 回 多摩救命救急カンファレンス　9 月 25 日　東京都
32. こどもの病気、けがについて（第 2 回）
小野 友輔
さくら保育園講演会　9 月 29 日　北九州市
33. 小児救急医療の将来展望
市川 光太郎
第 5 回 堺小児救急フォーラム　10 月 3 日　堺市
34. 小児初期救急診療におけるトリアージ
市川 光太郎
第 1 回 日本小児科医会小児救急研修会　10 月 18 日　東京都
35. 小児救急疾患のあれこれ
市川 光太郎
北里大学医学部 3 年生講義　10 月 20 日　相模原市
36. わが国の睡眠環境と保育園での午睡対応の現状
市川 光太郎
平成 27 年度 北里医学会　10 月 20 日　相模原市
37. 小児初期救急医療と家庭看護力
市川 光太郎
第 21 回 広島小児救急研究会　11 月 5 日　広島市
38. 乳幼児の事故の特徴と予防対策
市川 光太郎
北九州市立子育てふれあい交流プラザ創立 10 周年記念講演会　11 月 8 日　北九州市
39. 睡眠環境と乳児突然死
市川 光太郎
平成 27 年度 日本小児科学会・小児救急市民公開フォーラム　11 月 15 日　金沢市
40. 小児臨床超音波の実際
小野 友輔
長野県立こども病院講習会　11 月 21 日　安曇野市
41. 小児臨床超音波（第一部）
小野 友輔
HAPPY「こどものみかた」in 安曇野　11 月 22 日　安曇野市
42. 小児臨床超音波（第二部）
小野 友輔
HAPPY「こどものみかた」in 安曇野　11 月 23 日　安曇野市

43. 家庭トリアージで家庭看護力アップをめざそう
市川 光太郎
第 1 回 日本小児科医会家庭看護力醸成セミナー　11 月 29 日　つくば市

44. 小児救急疾患の特徴
市川 光太郎
九州救急救命士養成学校・平成 27 年度 研修生講座　12 月 3 日　北九州市

45. 小児救急と児童虐待について
市川 光太郎
九州救急救命士養成学校・平成 27 年度 研修生講座　12 月 10 日　北九州市

著書

1. 感染性胃腸炎、回腸末端炎
小野 友輔
小児超音波診断のすべて　メジカルビュー社　2015 年 12 月発行

2. 北九州地区の小児救急医療～過去 50 年と今後の展望～
市川 光太郎
北九州地区小児科医会 50 周年記念誌 100 − 103 北九州地区小児科医会事務局　2015

3. 病院紹介～北九州市立八幡病院～
市川 光太郎
北九州地区小児科医会 50 周年記念誌 130 − 130 北九州地区小児科医会事務局　2015

4. 救急トリアージ
市川 光太郎
ナースの小児科学 改訂 6 版 217 − 226 中外医学社　2015

5. 連載「小児救命救急センター 24 時」「気道異物」
市川 光太郎
ひよこクラブ 196 − 196 風讃社　2015 No255

6. 連載「小児救命救急センター 24 時」「有熱性けいれん」
市川 光太郎
ひよこクラブ 161 − 161 風讃社　2015 No256

7. 連載「小児救命救急センター 24 時」「ミルクアナフィラキシー」
市川 光太郎
ひよこクラブ 178 − 178 風讃社　2015 No257

8. 連載「小児救命救急センター 24 時」「熱傷」
市川 光太郎
ひよこクラブ 201 − 201 風讃社　2015 No258

9. 連載「小児救命救急センター 24 時」「肘内障」
市川 光太郎
ひよこクラブ 173 − 173 風讃社　2015 No259

10. 連載「小児救命救急センター 24 時」「急性喉頭蓋炎」
市川 光太郎
ひよこクラブ 179 − 179 風讃社　2015 No260

11. 連載「小児救命救急センター 24 時」「ヒトメタニューモウイルス（hMPV）」
    市川 光太郎
    ひよこクラブ 187 − 187 風讃社　2015 No261
12. 連載「小児救命救急センター 24 時」「急性硬膜外血腫」
    市川 光太郎
    ひよこクラブ 106 − 106 風讃社　2015 No262
13. 連載「小児救命救急センター 24 時」「りんご病（伝染性紅斑）」
    市川 光太郎
    ひよこクラブ 193 − 193 風讃社　2015 No263
14. 連載「小児救命救急センター 24 時」「尿路感染症」
    市川 光太郎
    ひよこクラブ 179 − 179 風讃社　2015 No264
15. 連載「小児救命救急センター 24 時」「ノロウイルスによる胃腸炎（嘔吐下痢症）」
    市川 光太郎
    ひよこクラブ 189 − 189 風讃社　2015 No265
16. 連載「小児救命救急センター 24 時」「誤飲」
    市川 光太郎
    ひよこクラブ 185 − 185 風讃社　2015 No266
17. 改訂第 3 版の序
    市川 光太郎
    小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 ⅳ−ⅴ 診断と治療社　2015
18. 小児救急医療の特徴
    市川 光太郎
    小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 2 − 5 診断と治療社　2015
19. 小児救急外来トリアージ
    市川 光太郎
    小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 6 − 14 診断と治療社　2015
20. 頸部感染症
    市川 光太郎
    小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 203 − 211 診断と治療社　2015
21. 児童虐待
    市川 光太郎
    小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 437 − 451 診断と治療社　2015
22. 思春期危急疾患
    市川 光太郎
    小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 478 − 488 診断と治療社　2015
23. コラム集「CPAOA での SBS は死後検査しないと見逃される！」
    市川 光太郎
    小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 32 − 32 診断と治療社　2015

24. コラム集「溶連菌性膿痂疹は Kaposi 水筒様発疹と酷似!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 127 − 127 診断と治療社　2015
25. コラム集「炎症反応軽微な細菌性髄膜炎は皮膚洞を探せ!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 149 − 149 診断と治療社　2015
26. コラム集「膿胸と間違えた先天性右肺欠損症!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 166 − 166 診断と治療社　2015
27. コラム集「「喉が切れた」と片付けられた肺ヘモジデローシスの血痰!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 167 − 167 診断と治療社　2015
28. コラム集「血痰にヘモジデリン貧食細胞陽性!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 168 − 168 診断と治療社　2015
29. コラム集「治りが悪いクループ症候群は上・中気道の画像検査が必須!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 196 − 196 診断と治療社　2015
30. コラム集「先天性喘鳴のはずが pulmonary sling だったとは?」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 197 − 197 診断と治療社　2015
31. コラム集「斜頸は良く遭遇するが、時にめずらしい疾患が!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 210 − 210 診断と治療社　2015
32. コラム集「発赤・腫脹しているし、頸部化膿性リンパ節炎のはずが!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 211 − 211 診断と治療社　2015
33. コラム集「3 か月未満児の発熱はどこまで検査するの?」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 218 − 218 診断と治療社　2015
34. コラム集「耳鼻科で押さえつけられたから頭が腫れた!?」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 226 − 226 診断と治療社　2015
35. コラム集「腹痛・嘔吐時はすぐに末端循環状態、脈拍、血圧、Sp02 のチェックを!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 233 − 233 診断と治療社　2015
36. コラム集「流涎は喉頭病変の早期かつ正確な鑑別診断が不可欠!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 247 − 247 診断と治療社　2015

37. コラム集「年長児の腸重積は必ず器質的疾患はあるものと考えるべし!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 270 − 270 診断と治療社　2015
38. コラム集「腸重積ではイチゴジャム、Meckel 憩室ではブルーベリージャムの血便が!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 271 − 271 診断と治療社　2015
39. コラム集「再び寄生虫疾患が増えている!?」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 272 − 272 診断と治療社　2015
40. コラム集「重症食物アレルギー児のアナフィラキシー発作の原因はダニだった!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 292 − 292 診断と治療社　2015
41. コラム集「貧血、血小板増多、高蛋白血症で見つかった Castleman 病!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 320 − 320 診断と治療社　2015
42. コラム集「病巣不明熱の精査では腹部造影検査も不可欠かも!?」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 349 − 349 診断と治療社　2015
43. コラム集「胸部 X 線の読影は慎重にかつ CTR も常に計測する癖をつけるべき!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 355 − 355 診断と治療社　2015
44. コラム集「母親指導はもしものことも一言加えていた方が良い!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 374 − 374 診断と治療社　2015
45. コラム集「母親は育児で孤軍奮闘している!育児ストレスへの配慮が不可欠!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 394 − 394 診断と治療社　2015
46. コラム集「銀杏中毒では催吐は禁忌!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 430 − 430 診断と治療社　2015
47. コラム集「誰も知らない、子どもの骨折!誰かがしたはずなのに!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 451 − 451 診断と治療社　2015
48. コラム集「虐待を疑う熱傷とは?」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 451 − 451 診断と治療社　2015
49. コラム集「ガス壊疽感染症!? 母親を心配させるための自傷行為だった!」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 477 − 477 診断と治療社　2015

50. コラム集「なぜ、そこまでするの？自傷！」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 487 − 487 診断と治療社　2015
51. コラム集「思春期の面談法」
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン改定第 3 版 488 − 488 診断と治療社　2015
52. 乳幼児突然死症候群
市川 光太郎
第 7 版今日の診断基準 1976 − 1976 医学書院　2015
53. 帰してはいけない小児外来患者
市川 光太郎
週間医学新聞 6 − 6　2015 第 3132
54. 帰してはいけない小児外来患者
市川 光太郎
Neurological surgery 556 − 556　2015
55. 破傷風
市川 光太郎
今日の小児治療指針第 16 版 362 − 364 医学書院　2015
56. 帰してはいけない小児外来患者
市川 光太郎
medicina52 1703 − 1703　2015
57. 小児に特有な疾患
市川 光太郎
改訂第 9 版救急救命士標準テキスト（下巻）858 − 880 ヘルス出版　2015
58. 巻頭言
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 南江堂　2015
59. 初回入院時に気づけなかった Willis 動脈輪閉塞症
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 2 − 3 南江堂　2015
60. 3 回も繰り返した細菌性髄膜炎の乳児例
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 4 − 7 南江堂　2015
61. 先天性喘鳴と誤診されていた左肺動脈起始部異常症
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 39 − 41 南江堂　2015
62. クループ症候群と初期診断してしまった細菌性気管炎
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 45 − 48 南江堂　2015

63. 特発性肺ヘモジデローシスを疑ってしまった肺静脈閉塞症
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 42 − 44 南江堂　2015
64. 小児一過性頸椎椎間板石灰化症による斜頸
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 77 − 79 南江堂　2015
65. 総合小児（救急）医療の実践のために ; 成人救急医療との違いを踏まえて
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 108 − 111 南江堂　2015
66. 虐待の診断と対応
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 198 − 203 南江堂　2015
67. 児童虐待の防止等に関する法律（抜粋）
市川 光太郎
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア初版 206 − 207 南江堂　2015
68. 発疹
天本 正乃
小児救急治療ガイドライン 改訂第 3 版 122 − 127 診断と治療社　2015
69. 無熱性けいれん
天本 正乃
小児救急治療ガイドライン 改訂第 3 版 155 − 159 診断と治療社　2015
70. 無熱性けいれん
天本 正乃
要点をおさえる小児救急・プライマリケア 158 − 162 南江堂　2015
71. Ⅳ章　J. 検尿異常
松島 卓哉
ピットフォール症例から学ぼう！要点をおさえる小児救急・プライマリケア 189 − 191 南江堂　2015

その他

1. 増井 美苗

キャリア教育における社会人講話（則松中学）　講師	1 月 16 日　北九州市
PALS　インストラクター　2 月 28 日、3 月 1 日、6 月 6 日・7 日、8 月 22 日・23 日、11 月 15 日　北九州市	
第 10 回 小児救急医療ワークショップ in 北九州　ファシリテーター	7 月 19 日　北九州市
第 6 回 日本小児救急学会　あをによし奈良教育セミナー　ファシリテーター	12 月 5 日・6 日　奈良市

2. 市川 光太郎

乳児頭部顔面外傷に対する意見書	1 月 15 日　広島県広島警察署
乳児頭蓋骨骨折症例に対する意見書	1 月 20 日　福岡県小倉北署
急性硬膜下血腫～ AHT に関する鑑定書	1 月 21 日・22 日　鹿児島県薩摩川内警察署
脱水死亡例に対する意見書	1 月 24 日　東京きぼう法律事務所・寺町東子弁護士
キッズタディオン業務上過失致死事件調査	2 月 18 日　大阪府検察庁
乳児頭部顔面外傷に対する追加意見書	2 月 28 日　広島県広島警察署

保育園児の脱水死亡例の意見書　3月4日・5日　3月4日　栃木県宇都宮警察署
急性硬膜下血腫事例の立件に関して　4月21日　熊本県検察庁
急性硬膜下血腫事例の AHT 可能性に関する調書　6月17日　広島県広島警察署
キッズスタディオン業務上過失致死事件調査について　6月22日　新潟県新潟警察署
キッズスタディオン業務上過失致死事件調査の再審査について　6月25日　新潟地方検察庁
乳児死亡症例殺人罪理由証明書作成　7月15日・16日　奈良県奈良警察署
保育園児の脱水死亡事例に関する意見書　7月30日　栃木県宇都宮地方検察庁
キッズスタディオン業務上過失致死事件調査について　8月6日　新潟地方検察庁
保育園児の脱水死亡例に関する意見書　8月19日・20日　栃木県宇都宮地方検察庁
乳児心配機能停止 & 硬膜下血腫症例の意見書　8月26日　福岡市子ども総合センター
生後 3 ヶ月肺炎死亡例に関する意見書　9月14日　鳥取市高橋真一弁護士
乳児施設での突然死症例に関する意見書　9月15日　高知市中橋紅美弁護士
乳児心肺停止 & 硬膜下血腫症例の鑑定書依頼　9月16日　福岡県福岡東警察署
乳児心肺停止 & 硬膜下血腫症例の鑑定書作成　10月1日　福岡県福岡東警察署
乳児新旧混在の硬膜下血腫症例診断書作成　11月2日　福岡市子ども総合センター
多発骨折症例診断書依頼　11月5日　福岡県福岡西警察署
虐待による急性硬膜下血腫乳児例の観点書作成　11月17日　大阪浪速警察署
乳児多発骨折症例意見書作成　11月19日　福岡県西警察署
乳児多発骨折症例鑑定書作成　12月1日　福岡県西警察署
虐待による急性硬膜下血腫入事例の鑑定書再作成　12月1日　大阪府浪速警察署
頭蓋内損傷 1 ヶ月児の鑑定書作成依頼　12月8日　大阪府富田林警察署

3. 市川 光太郎
厚労省医薬食品局審査管理課・安全対策課 : 平成 24 年度 安全対策課支出委任事業 ; 突然死とワクチンとの関係についての調査研究会議・委員　2013 年 1 月 31 日、3 月 8 日、2014 年 6 月 1 日、2015 年 6 月 302
厚労省雇用均等・児童家庭局母子保健課 : 児童虐待防止医療ネットワーク事業に関する有識者会議・委員　2013 年 2 月 6 日、4 月 24 日、2014 年 2 月 24 日
平成 27 年度 厚生労働科学研究費補助金 ; 地域医療基盤開発推進研究事業 :「小児救急・集中治療提供体制構築およびアクセスに関する研究 (H27 −医療 一般 004)」主任研究者

4. 小野 友輔
長野県の小児医療にかかわる小児科医、外科医、放射線科医、技師に対するエコーハンズオンセミナーの講師　1月24日　安曇野市

5. 松島 卓哉
PEARS インストラクターコース　インストラクター　1月24日　福岡市

6. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　1月25日　福岡市

7. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　2月28日　北九州市

8. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　3月1日　北九州市

9. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　5月3日　福岡市

10. 松島 卓哉
PALS プロバイダーコース　インストラクター　6月7日　北九州市
11. 小野 友輔
北九州小児救急ワークショップおよび小児多職種研究会におけるエコーハンズオンセミナー
7月18日　北九州市
12. 中野 慎也
北九州小児救急ワークショップ　ファシリテーター　7月19日　北九州市
13. 松島 卓哉
第4回 小児診療多職種研究会　DMAT セミナー　講師　7月19日　北九州市
14. 富田 一郎
八幡西特別支援学校　医療的ケア　指導医　7月31日　北九州市
15. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　8月24日　福岡市
16. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　9月12日　佐賀市
17. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　9月13日　佐賀市
18. 中野 慎也
テーマ：乳幼児の事故予防のお話
乳幼児の父母を対象に八幡東区役所で1時間半講演　10月21日　北九州市
19. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　10月28日　北九州市
20. 富田 一郎
医療的ケア検討会議　11月9日　北九州市
21. 松島 卓哉
PEARS プロバイダーコース　インストラクター　11月15日　北九州市
22. 小野 友輔
長野県の小児医療にかかわる小児科医、放射線科医、技師を対象としたハンズオンセミナー
11月21日　安曇野市
23. 松島 卓哉
平成27年度 八幡東区防災訓練　11月21日　北九州市

外科・呼吸器外科

論文

1. 急性腹症始末記　急性虫垂炎
野口 純也、伊藤 重彦
救急医学 39 (3) ; 307 − 311 : 2015
2. 十二指腸潰瘍穿孔に対する単孔式腹腔鏡大網被覆術の3例
馬場 雅之、木戸川 秀生、野口 純也、山吉 隆友、岡本 好司、伊藤 重彦
日本腹部救急医学会雑誌 35 (6) ; 759 − 762 : 2015

3. 肺癌組織の pH が臨床病理学的特性に及ぼす影響
   澤田 貴裕、古川 克郎、井上 征雄、伊藤 重彦、永安 武
   胸部外科 68 ; 491 − 494 : 2015
4. 手術摘出標本において器質化肺炎パターンがみられた薬剤性肺炎の 1 例
   澤田 貴裕、石井 光寿、古川 克郎、井上 征雄、伊藤 重彦、木藤 克巳
   日本胸部臨床 75 (1) ; 114 − 121 : 2016
5. Cushing 症候群を呈した異所性副腎皮質刺激ホルモン産生性肺カルチノイド
   谷口 大輔、澤田 貴裕、戎井 理、木藤 克己、永安 武
   胸部外科 68 ; 83 − 87 : 2015
6. 難治性血胸で発症した小細胞肺癌の 1 例
   白藤 智之、澤田 貴裕、永安 武、中村司朗、朝重 耕一、大曲 武征
   呼吸器外科学会雑誌 29 ; 818 − 822 : 2015
7. 気胸を繰り返した Marfan 症候群の 1 例
   石井 光寿、澤田 貴裕、古川 克郎
   長崎医学会雑誌 90 (3) ; 238 − 241 : 2015
8. 精神科患者の救急搬送に関する研究
   伊藤 重彦、井上 征雄、木戸川 秀生、竹村 保美、板山 隆志
   消防防災科学技術開発研究事例集Ⅴ ; 123 − 130 : 2015
9. 輸液再確認 ; 嘔吐・下痢および急性腹症
   伊藤 重彦、伊藤 光佑
   ER ドクター便利帳 ; 129 − 144 : 2015
10. 各論 急性虫垂炎
    野口 純也、伊藤 重彦
    救急医学 3 ; 307 − 310 : 2015
11. 外科領域における DIC 診断の留意点
    岡本 好司
    Thrombosis Medicine 5 (1) ; 21 − 25 : 2015
12. Acute Care Surgery における DIC・大量出血・大量輸血
    岡本 好司
    ICU と CCU 39 (4) ; 229 − 234 : 2015
13. 固形癌の DIC と術後 DIC　如何に生命予後を改善するか?
    岡本 好司
    血栓と循環 23 (2) ; 52 − 57 : 2015
14. 肝切除の基本手技 ― 肝門処理と肝切離 ―
    岡本 好司
    Jap J Acute Care Surg 5 (1) ; 40 − 44 : 2015
15. TG13：Updated Tokyo Guidelines に基づいた診療の現況　診断　急性胆嚢炎
    岡本 好司
    臨床消化器内科 30 (10) ; 1275 − 1280 : 2015

16. 敗血症性 DIC の診断・治療
岡本 好司
救急医学 39 (11) ; 1550 − 1554 : 2015
17. 外科領域 DIC における線溶因子の動態
岡本 好司
Thrombosis Medicine 5 (4) ; 329 − 335 : 2015
18. Observational study to compare antithrombin and thrombomodulin for disseminated intravascular coagulation.
Murata A, Okamoto K, Mayumi T, Muramatsu K, Matsuda S.
International Journal of Clinical Pharmacy 37 (1) ; 139 − 147 : 2015
19. Recombinant human soluble thrombomodulin (thrombomodulin alfa) to treat disseminated intravascular coagulation in solid tumors: results of a one - arm prospective trial.
Tamura K, Saito H, Asakura H, Okamoto K, Tagawa J, Hayakawa T, Aoki N.
nt J Clin Oncol. 20 (4) ; 821 − 828 : 2015
20. Recent Change in Treatment of Disseminated Intravascular Coagulation in Japan : An Epidemiological Study Based on a National Administrative Database.
Murata A, Okamoto K, Mayumi T, Muramatsu K, Matsuda S.
Clin Appl Thromb Hemost. 22 (1) ; 21 − 27 : Epub 2015 Mar
21. Time Trend of Outcomes for Severe Acute Pancreatitis After Publication of Japanese Guidelines Based on a National Administrative Database.
Murata A, Mayumi T, Okamoto K, Ohtani M, Matsuda S.
Pancreas; − : 2015 Sep 24. [Epub ahead of print]
22. DPC データからみた急性膵炎の在院日数および医療費の分析　重症度に関する検討
村田 篤彦、真弓 俊彦、岡本 好司
日腹救急医会誌 35 (4) ; 361 − 365 : 2015.
23. 日本血栓止血学会　血友病患者に対する止血治療ガイドライン　2014 年補遺版
藤井 輝久、天野 景裕、渥美 達也、石黒 精、大平 勝美、岡本 好司、勝沼 俊雄、嶋 緑倫、高橋 芳右、松下 正、松本 剛史、森下 英理子、岡 敏明、齊藤 誠司、酒井 道生、白幡 聡、鈴木 伸明、瀧 正志、竹谷 英之、長江 千愛、西田 恭治、野上 恵嗣、花房 秀次、日笠 聡、福武 勝幸、堀越 泰雄、家子 正裕、井田 孔明、松下 功、松本 雅則、窓岩 清治、荻原 建一、澤田 暁宏、鈴木 隆史、インヒビターのない血友病患者に対する止血治療ガイドライン作成委員会、インヒビター保有先天性血友病患者に対する止血治療ガイドライン作成委員会
日本血栓止血学会誌 26 (1) ; 75 − 78 : 2015
24. 自己免疫性出血病 FXIII ／ 13 診断ガイド
一瀬 白帝、和田 英夫、惣字利 正善、橋口 照人、矢冨 裕、小川 孔幸、北島 勲、朝倉 英策、岡本 好司、家子 正裕、山本 晃士、江口 豊、自己免疫性出血病 FXIII ／ 13 日本血栓止血学会診断基準作成委員会
血栓止血誌 26 (6) ; 658 − 668 : 2015
25. 新 DIC 診断基準への期待 第 9 回 日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウムでその概要が明らかに
岡本 好司
Thrombosis Medicine 5 (2) ; 82 − 85 : 2015.

学会・研究会

1. 遺残虫垂炎による腹腔内膿瘍に対し保存的治療後に待機的虫垂切除術を行った 1 例
   桝屋 隆太、新山 新、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、
   小山 正三朗、田口 健蔵、伊藤 重彦
   第 117 回 北九州外科研究会　　2 月 20 日　北九州市
2. 日常的環境除菌が病院内環境表面の細菌数に及ぼす影響 とくに消毒回数と効果に関する他施設研究
   伊藤 重彦、中川 祐子
   第 30 回 日本環境感染学会学術集会　　2 月 20 日　神戸市
3. 外科領域の DIC　その特徴と治療の試み
   岡本 好司
   第 15 回 日本 DIC 研究会　特別講演　　2 月 28 日　東京都
4. 腹部救急領域の DIC に対する予後改善の試み　術後 DIC 増悪を考慮に入れた治療法 ―
   岡本 好司
   第 51 回 日本腹部救急医学会総会　シンポジウム 1　　3 月 5 日　京都市
5. 当院における小児外傷性膵損傷Ⅲ b の治療経験
   新山 新、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、田口 健蔵、
   桝屋 隆太、小山 正三朗、伊藤 重彦
   第 51 回 日本腹部救急医学会総会　　3 月 6 日　京都市
6. 当院における腹腔鏡下虫垂切除術～術式の変遷と工夫～
   小山 正三朗、木戸川 秀生、桝屋 隆太、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、田口 健蔵、井上 征雄、
   澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
   第 51 回 日本腹部救急医学会総会　　3 月 6 日　京都市
7. 遺残虫垂炎による腹腔内膿瘍に対し保存的治療後に待機的虫垂切除術を行った 1 例
   桝屋 隆太、新山 新、岡本 好司、野口 純也、小山 正三朗、山吉 隆友、木戸川 秀生、田口 健蔵、
   井上 征雄、澤田 貴裕、伊藤 重彦
   第 51 回 日本腹部救急医学会総会　　3 月 6 日　京都市
8. 当院における閉鎖孔ヘルニア嵌頓 15 例の検討 ― 超音波下用手還納術の有用性を含めて ―
   山吉 隆友、岡本 好司、木戸川 秀生、小山 正三朗、桝屋 隆太、田口 健蔵、野口 純也、新山 新、
   井上 征雄、澤田 貴裕、伊藤 重彦
   第 51 回 日本腹部救急医学会総会　　3 月 6 日　京都市
9. 呼吸不全と意識障害で発症した遅発性横隔膜ヘルニアの一例
   新山 新、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、田口 健蔵、
   桝屋 隆太、小山 正三朗、伊藤 重彦
   第 52 回 九州小児外科学会　　5 月 9 日　大分市
10. 腸重積と急性虫垂炎で発症した盲腸内分泌細胞癌の 1 例
    榊原 優香、木戸川 秀生、野々村 遼、沖本 隆司、新山 新、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、
    澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
    第 52 回 九州外科学会　　5 月 9 日　大分市
11. 受傷機転からみた胸骨骨折の検討
    澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、伊藤 重彦
    第 32 回 日本呼吸器外科学会総会　　5 月 14 日　高松市

12. Press - through - package 誤飲による回腸穿孔性腹膜炎の 1 例
野々村 遼、伊藤 重彦、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、新山 新、
野口 純也、田口 健藏、上原 智仁、沖本 隆司、榊原 優香
日本救急医学会九州地方会　5 月 16 日　佐賀市

13. 鈍的外傷による脾臓損傷症例の検討
山吉 隆友、岡本 好司、小山 正三朗、桝屋 隆太、田口 健藏、野口 純也、新山 新、井上 征雄、
澤田 貴裕、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第 29 回 日本外傷学会　6 月 12 日　札幌市

14. 石灰乳胆汁を伴った小児胆嚢結石症の 1 切除例
岡本 好司、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第 27 回 日本肝胆膵外科学会学術集会　6 月 12 日　東京都

15. 認知症で発症し、コイル塞栓術が奏功した門脈 ― 大循環シャントの一例
沖本 隆司
第 105 回 日本消化器病学会九州支部例会　6 月 20 日　長崎市

16. 認知症で発症し、コイル塞栓術が奏功した肝内門脈 ― 大循環シャントの一例
沖本 隆司、岡本 好司、野々村 遼、榊原 優香、上原 智仁、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、
木戸川 秀生、伊藤 重彦
第 105 回 日本消化器病学会九州支部例会　6 月 20 日　長崎市

17. 敗血症性 DIC の病態・診断・治療
岡本 好司
第 70 回 日本消化器外科学会総会　イブニングセミナー 2　7 月 16 日　浜松市

18. 難治性腹水におけるデンバーシャントの当院での治療
野口 純也、岡本 好司、榊原 優香、野々村 遼、沖本 隆司、上原 智仁、山吉 隆友、木戸川 秀生、
伊藤 重彦
第 1 回 肝疾患合併症を考える研究会　7 月 30 日　北九州市

19. 光触媒シリコンシートが介護施設、急性期病院のトイレ環境表面の生菌数とアデノシン三リン酸（ATP）に及ぼす影響の研究
伊藤 重彦、中川 祐子、焼山 なつみ、山本 清司、坂口 昇平
日本防菌防黴学会　第 42 回 年次大会　9 月 2 日　大阪市

20. 肝細胞癌術後の C 型肝炎 SVR 獲得後に来した異時性リンパ節転移に対してリンパ節摘出術を施行し得た長期無再発生存例の 1 例
上原 智仁
第 91 回 北九州肝腫瘍研究会　9 月 10 日　北九州市

21. 大腸癌イレウスに対するステント留置症例の検討
野々村 遼、伊藤 重彦、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、新山 新、
野口 純也、田口 健藏、上原 智仁、沖本 隆司、榊原 優香
北九州外科研究会　9 月 11 日　北九州市

22. 胆道疾患に合併する敗血症性 DIC
岡本 好司
第 51 回 日本胆道学会学術集会　9 月 18 日　宇都宮市

23. S 状結腸ストーマ脚穿孔・穿通の 3 例
榊原 優香、木戸川 秀生、野々村 遼、沖本 隆司、新山 新、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、
澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
第 40 回 日本大腸肛門病学会九州地方会　9 月 26 日　那覇市

24. 絞扼性イレウスの 1 例
野々村 遼、伊藤 重彦、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、新山 新、
野口 純也、田口 健藏、上原 智仁、沖本 隆司、榊原 優香
第 7 回 北九州 ER ～ CRITICAL CARE CONFERENCE　9 月 30 日　北九州市

25. S 状結腸軸捻転症 13 例の臨床的検討
山吉 隆友、岡本 好司、榊原 優香、野々村 遼、沖本 隆司、上原 智仁、田口 健藏、野口 純也、
新山 新、井上 征雄、澤田 貴裕、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第 7 回 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会　10 月 3 日　福岡市

26. 学会主導多施設共同研究について考える　日本救急医学会　学会主導多施設研究の発展とその経緯
小倉 裕司、丸藤 哲、阿部 智一、荒木 恒敏、池田 弘人、射場 敏明、上山 昌史、岡本 好司、
久志本 成樹、小谷 穣治、齋藤 大蔵、阪本 雄一郎、佐々木 淳一、椎野 泰和、白石 淳、白石 振一郎、
田熊 清継、武山 直志、樽井 武彦、鶴田 良介、中田 孝明、一二三 亨、藤島 清太郎、藤見 聡、
増野 智彦、真弓 俊彦、三木 靖雄、水島 靖明、山下 典雄、日本救急医学会多施設共同試験特別委員会
第 43 回 日本救急医学会総会　シンポジウム 5　10 月 22 日　東京都

27. 学会主導多施設共同研究について考える　Sepsis registry　敗血症診療の国際標準化の現状と展望
阿部 智一、小倉 裕司、齋藤 大蔵、久志本 成樹、白石 淳、藤島 清太郎、荒木 恒敏、池田 弘人、
射場 敏明、上山 昌史、岡本 好司、小谷 穣治、阪本 雄一郎、佐々木 淳一、椎野 泰和、白石 振一郎、
田熊 清継、武山 直志、樽井 武彦、鶴田 良介、中田 孝明、一二三 亨、藤見 聡、増野 智彦、
真弓 俊彦、三木 靖雄、水島 靖明、山下 典雄、丸藤 哲、日本救急医学会多施設共同試験特別委員会
第 43 回 日本救急医学会総会　シンポジウム 5　10 月 22 日　東京都

28. 学会主導多施設共同研究について考える　ALI／ARDS に対する多施設共同前向き観察研究
藤島 清太郎、丸藤 哲、齋藤 大蔵、小倉 裕司、久志本 成樹、真弓 俊彦、阿部 智一、白石 淳、
荒木 恒敏、池田 弘人、射場 敏明、岡本 好司、上山 昌史、小谷 穣治、阪本 雄一郎、佐々木 淳一、
椎野 泰和、白石 振一郎、田熊 清継、武山 直志、樽井 武彦、鶴田 良介、中田 孝明、一二三 亨、
藤見 聡、増野 智彦、三木 靖雄、水島 靖明、山下 典雄、日本救急医学会多施設共同試験特別委員会
第 43 回 日本救急医学会総会　シンポジウム 5　10 月 22 日　東京都

29. 学会主導多施設共同研究について考える　広範囲熱傷の初期輸液に関する多施設共同前向き無作為化比較対照試験の計画
齋藤 大蔵、丸藤 哲、佐々木 淳一、池田 弘人、上山 昌史、田熊 清継、荒木 恒敏、小倉 裕司、
藤島 清太郎、阿部 智一、白石 淳、久志本 成樹、真弓 俊彦、射場 敏明、岡本 好司、小谷 穣治、
阪本 雄一郎、椎野 泰和、白石 振一郎、武山 直志、樽井 武彦、鶴田 良介、中田 孝明、水島 靖明、
一二三 亨、藤見 聡、増野 智彦、三木 靖雄、山下 典雄、日本救急医学会多施設共同試験特別委員会
第 43 回 日本救急医学会総会　シンポジウム 5　10 月 22 日　東京都

30. シンポジウム；薬剤耐性腸内細菌科細菌感染症のマネージメント　耐性菌アウトブレイクに対する施設ラウンドの経験から
伊藤 重彦
第 28 回 日本外科感染症学会　12 月 2 日　名古屋市

31. 肝胆膵外科領域 DIC の病態・診断・治療
岡本 好司
第 28 回 日本外科感染症学会総会学術集会　12 月 2 日　名古屋市

32. 当院の外科・救急領域における深在性真菌症の診断治療
上原 智仁、岡本 好司、山吉 隆友、木戸川 秀生、澤田 貴裕、新山 新、井上 征雄、野口 純也、
沖本 隆司、野々村 遼、榊原 優香、田口 健蔵、伊藤 重彦
第 28 回 日本外科感染症学会総会学術集会　12 月 3 日　名古屋市

33. 急性胆道感染症をどう攻略するか?
岡本 好司
第 28 回 日本外科感染症学会総会学術集会　12 月 3 日　名古屋市

34. 肝硬変による難治性腹水に対してトルバプタンにてコントロール後鼠径ヘルニア根治術を施行した 1 例
沖本 隆司、岡本 好司、野々村 遼、榊原 優香、上原 智仁、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、
井上 征雄、澤田 貴裕、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第 2 回 肝疾患合併症を考える研究会　12 月 7 日　北九州市

35. 癒着性腸閉塞に対する腹腔鏡手術困難症例の検討
木戸川 秀生、榊原 優香、野々村 遼、沖本 隆司、上原 智仁、新山 新、野口 純也、山吉 隆友、
井上 征雄、澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
第 28 回 日本内視鏡外科学会総会　12 月 11 日　大阪市

36. 小児急性虫垂炎に対する当科の手術術式
新山 新、新山 新、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、
田口 健蔵、上原 智仁、沖本 隆司、野々村 遼、榊原 優香、伊藤 重彦
第 28 回 日本内視鏡外科学会総会　12 月 11 日　大阪市

座長・司会

1. 伊藤 重彦
人材育成・組織体制
第 30 回 日本環境感染学会　2 月 21 日　神戸市

2. 伊藤 重彦
特別発言
第 12 回 Needlescopic Surgery Meeting　1 月 31 日　北九州市

3. 岡本 好司
セッション 1. 肝切除、肝移植におけるヒヤリハット・ニアミスを共有しよう
第 36 回 九州肝臓外科研究会　学術集会　1 月 31 日　福岡市

4. 伊藤 重彦
尿路感染と感染対策
第 5 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　2 月 24 日　北九州市

5. 岡本 好司
新 DIC 診断基準と実際の臨床　第 2 部
第 9 回 日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム 2015　2 月 28 日　東京都

6. 岡本 好司
ワークショップ 2　腹部救急領域における周術期感染予防と治療の工夫
第 51 回 日本腹部救急医学会総会　3 月 6 日　京都市

7. 伊藤 重彦
特別講演
北九州 ER CRITICAL CARE CONFERENCE 3 月 12 日　3 月 12 日　北九州市

8. 岡本 好司
特別講演 2
第 17 回 北九州肝癌治療研究会　3 月 28 日　北九州市

9. 岡本 好司
日本血栓止血学会・日本救急医学会ジョイントシンポジウム　重症敗血症と DIC
第 37 回 日本血栓止血学会学術集会　5 月 22 日　甲府市

10. 伊藤 重彦
救急救命士の再教育
第 18 回 日本臨床救急医学会　6 月 5 日　富山市

11. 岡本 好司
ポスター 6　肝臓・手術手技 1
第 27 回 日本肝胆膵外科学会学術集会　6 月 11 日　東京都

12. 伊藤 重彦
特別講演
第 17 回 北九州内視鏡外科セミナー　8 月 28 日　北九州市

13. 岡本 好司
教育講演
第 17 回 北九州内視鏡外科セミナー　8 月 28 日　北九州市

14. 伊藤 重彦
特別講演
第 14 回 北部福岡臨床救急セミナー　9 月 10 日　北九州市

15. 木戸川 秀生
特別講演
八幡臨床外科医会 9 月例会　9 月 16 日　北九州市

16. 伊藤 重彦
特別講演
第 7 回 北九州 ER CRITICAL CARE CONFERENCE 9 月 30 日　9 月 30 日　北九州市

17. 伊藤 重彦
一般演題　小児・熱傷
第 7 回 日本 Acute Care Surgery 学会　10 月 4 日　福岡市

18. 岡本 好司
ランチョンセミナー 2
第 7 回 日本 Acute Care Surgery 学会　10 月 4 日　福岡市

19. 伊藤 重彦
ワークショップ　小児救急医療のビジョンを語ろう
第 43 回 日本救急医学会　10 月 22 日　東京都

20. 岡本 好司
特別講演
第 3 回 北九州 DIC セミナー　11 月 20 日　北九州市

21. 岡本 好司
主題関連 94　超高齢者（80 歳以上）に対する外科治療 2
第 77 回 日本臨床外科学会総会　11 月 28 日　福岡市

22. 岡本 好司
シンポジウム 3　薬剤耐性腸内細菌科細菌感染症のマネジメント
第 28 回 日本外科感染症学会総会　12 月 2 日　名古屋市

23. 伊藤 重彦
シンポジウム　救急需要への様々な対応
第 24 回 全国救急隊員シンポジウム　12 月 3 日　札幌市

講演

1. 精神科救急が抱える課題 円滑な救急活動を目指し
伊藤 重彦
第 23 回 全国救急隊員シンポジウム　1 月 30 日　相模原市

2. 病院・診療所における感染対策 ノロ・インフル・エボラ対策
伊藤 重彦
平成 27 年 医療安全対策研修会　2 月 4 日　朝倉市

3. 臨床で役に立つ血栓止血検査 ― その検査の持つ意味は何？―
岡本 好司
第 1 回 九州血液凝固検査研究会　2 月 21 日　福岡市

4. トリアージ　基本編
伊藤 重彦
平成 27 年 福岡県医師会災害時医療救護訓練　2 月 22 日　福岡市

5. プロトコール策定とオンライン MC
伊藤 重彦
厚生労働省　平成 26 年度 病院前医療体制における指導医等研修　2 月 23 日　東京都

6. カテゴリー 1　災害と医療班・消防機関の連携
伊藤 重彦
平成 26 年度 北九州市医師会災害医療研修会　3 月 7 日　北九州市

7. ベストよりベターな感染対策 周術期感染対策を中心に
伊藤 重彦
大阪南医療センター院内感染対策研修会　3 月 11 日　大阪市

8. 精神科救急の現状と関係機関の連携について
伊藤 重彦
平成 26 年度 福岡県精神科救急医療システム研修会　3 月 14 日　福岡市

9. 精神科救急の現状と関係機関の連携について
伊藤 重彦
平成 26 年度 いのちのワクチン事業かかりつけ医精神保健研修会　3月 20 日　下関市

10. 地域で取り組む感染対策　医師の立場から
伊藤 重彦
島根感染対策セミナー　3月 22 日　出雲市

11. 標準予防策について
伊藤 重彦
鳥巣病院院内感染対策研修会　3月 25 日　北九州市

12. DIC 診療におけるアンチトロンビンに重要性
岡本 好司
アンチトロンビンセミナー　3月 27 日　北九州市

13. 結核を含む労務災害・公務災害について
伊藤 重彦
第 6 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　5月 25 日　北九州市

14. 腹部重症感染症における凝固異常症と臓器障害
岡本 好司
侵襲とサイトカイン研究会　6月 22 日　金沢市

15. 外科領域における DIC の病態・診断・治療
岡本 好司
第 3 回 城北敗血症セミナー　6月 26 日　東京都

16. インフルエンザ対策
伊藤 重彦
平成 27 年度 北九州市感染症対策　7月 11 日　北九州市

17. 健康は足から ― 皆さん知っていますか?
恐い!足の血栓、肺梗塞
岡本 好司
北九州市出前講演　7月 22 日　北九州市

18. メディカルコントロール体制 北九州地域の取組について
伊藤 重彦
第 6 回 山口県ドクターヘリ事例報告会　7月 25 日　山口市

19. 外科領域の感染症
岡本 好司
第 22 回 外科フォーラム　7月 25 日　東京都

20. 肝臓病の話～外科の視点から～
岡本 好司
平成 27 年度 北九州市肝炎講演会　7月 26 日　北九州市

21. 外科領域 DIC に対する病態・診断・治療
岡本 好司
阪神外科感染症セミナー　8月 5 日　西宮市

22. 感染予防 これだけはやってほしい対策
伊藤 重彦
平成 27 年度 第 1 回 北九州市職員のための感染対策セミナー　8 月 6 日　北九州市

23. 凝固・線溶検査って ?? ― その検査の持つ意味は何？ ―
岡本 好司
第 2 回 九州血液凝固検査研究会　8 月 22 日　福岡市

24. 労務災害・公務災害
伊藤 重彦
市立八幡病院院内感染対策研修会　9 月 15 日　北九州市

25. カテゴリー 1　大事故災害における医療チームの対応と災害現場・応急救護所トリアージ
伊藤 重彦
平成 27 年 北九州空港航空機事故対処部分訓練　9 月 28 日　北九州市

26. DIC　最近の話題
岡本 好司
長崎血液凝固検査セミナー　10 月 2 日　長崎市

27. インフルエンザアウトブレイク 施設・職場での対応
伊藤 重彦
平成 27 年度 第 3 回 北九州市職員のための感染対策セミナー　10 月 8 日　北九州市

28. 健康は足から～あなたの足は大丈夫?～下肢血栓と肺梗塞・消化管梗塞について
岡本 好司
北九州市出前講演　一枝市民センター秋・冬の講座　10 月 8 日　北九州市

29. 腹部救急疾患と DIC
岡本 好司
岐阜集中治療カンファレンス 2015　10 月 10 日　岐阜市

30. 外科領域における敗血症性 DIC
岡本 好司
横浜敗血症セミナーⅢ　10 月 14 日　横浜市

31. 早期発見・早期治療でガンを治そう
岡本 好司
平成 27 年度 熊西健康づくり講座　10 月 28 日　北九州市

32. エボラ出血熱・MERS の現状と疑似患者来院時の対応について
伊藤 重彦
門司区医師会　平成 27 年 第 1 回 医療安全研修会　10 月 29 日　北九州市

33. プロトコール策定とオンライン MC
伊藤 重彦
厚生労働省　平成 27 年度 病院前医療体制における指導医等研修　10 月 29 日　福岡市

34. 外科領域における真菌感染症
岡本 好司
外科医も知って得する情報～手術環境および術後感染～インターネット講演会　11 月 4 日　東京都

35. 外科医からみた DIC の病態・診断・治療
岡本 好司
第 38 回 COAG NET の会　11 月 5 日　東京都
36. 感染患者搬送中の注意点と車内消毒
伊藤 重彦
北九州市職員のための感染対策研修会　11 月 6 日　北九州市
37. インフルエンザアウトブレイクを短時間に終息させるコツ
伊藤 重彦
第 16 回 西部地区医療安全研修会　11 月 24 日　北九州市
38. 消化器外科領域 DIC の病態・診断・治療～最近の知見を含めて～
岡本 好司
北九州外科消化器・感染症フォーラム　12 月 4 日　北九州市
39. インフルエンザアウトブレイク対応
伊藤 重彦
市立門司病院院内感染対策研修会　12 月 9 日　北九州市
40. 健康は足から～あなたの足は大丈夫?～下肢血栓と肺梗塞・消化管梗塞について
岡本 好司
北九州プロバスクラブ 2015　12 月 15 日　北九州市

著書

1. 救急外科領域の DIC
岡本 好司
止血・血栓ハンドブック　鈴木 重統、後藤 信哉、松野 一彦 編集 91 − 98 西村書店　2015
2. 危機的外科出血
岡本 好司
新・血栓止血血管学　一瀬 白帝、丸山 征郎、家子 正裕 編著 163 − 169 金芳堂 2915
3. 制吐薬適正使用ガイドライン　第 2 版
岡本 好司
一般社団法人日本癌治療学会編 1 − 115 金原出版　2015
4. 消化器疾患―急性虫垂炎
新山 新、伊藤 重彦
内科医・小児科医のための小児救急治療ガイドライン改訂第 3 版 診断と治療社 ; 252 − 256 : 2015

その他

1. 伊藤 重彦
・社会活動
熱中症キャンペーン（教育委員会・消防局・環境局合同企画）
①高須中学校（6 月 29 日）、②本城中学校（7 月 6 日）③東谷中学校（7 月 7 日）
④向洋中学校（7 月 13 日）、⑤洞北中学校（7 月 13 日）　北九州市

2. 伊藤 重彦
・社会活動
毎日新聞座談会「患者塾」
①1月24日、②2月28日、③3月28日、④5月23日、⑤6月20日、⑥7月18日、
⑦8月22日（以上 遠賀中間医師会館）⑧10月17日（いのちのたび博物館）、
⑨11月3日（産業医科大学）⑩12月12日（遠賀中間医師会） 北九州市

3. 伊藤 重彦
・社会活動
感染対策施設ラウンド
①小倉記念病院（5月20日）②新行橋病院（12月19日） 北九州市

4. 伊藤 重彦
・賞罰
北九州市病院局長表彰 1月28日 北九州市

5. 伊藤 重彦
（災害訓練講師）
1. 福岡県医師会災害時医療救護訓練 2月22日 福岡
2. 北九州市医師会平成26年度 災害医療研修会 3月7日 北九州市
3. 平成27年度 北九州空港航空機事故対処部分訓練 9月28日 北九州市
4. 平成27年度 特殊災害対応総合訓練 10月9日 北九州市
5. 平成27年度 北九州市総合防災訓練 10月25日 北九州市
6. 災害医療作戦指令センター（DMOC）情報伝達訓練 10月26日 北九州市
7. DMOCと八幡東区役所との合同訓練 11月21日 北九州市

6. 伊藤 重彦
（委託研究）
1. 一般財団救急振興財団委託研究「通信指令員の口頭指導教育強化」
2. 平成27年度 新成長戦略推進研究開発事業実用化研究開発事業（株式会社フジコーとの共同研究）

7. 伊藤 重彦
（寄稿）
エボラ出血熱・MERSの現状。北九州市医報第700号：p9－11（11月発行）

8. 伊藤 重彦
（取材）
取材記事「救急ワークステーションの運用とその成果」
MEDICAL PARTNERRING 771－4.2015.12
NHKテレビ取材（2月12日放送）「インフルエンザ対策」

9. 岡本 好司
日本癌治療学会癌診療ガイドライン　評価委員会
10種のガイドラインの評価

10. 伊藤 重彦
講義
産業医科大学　微生物学講義「外科感染症について」（2学年） 6月18日 北九州市

11. 伊藤 重彦
講義
平成 27 年度 処置拡大に伴う追加講習「処置拡大の変遷と処置拡大についての概要」 7 月 9 日　北九州市
12. 伊藤 重彦
講義
救急救命九州研修所「感染とその予防」 7 月 29 日　北九州市
13. 伊藤 重彦
講義
救急救命九州研修所「消化器疾患」 7 月 29 日　北九州市
14. 岡本 好司
佐賀大学医学部 講義 救急医学 DIC 9 月 28 日　佐賀市
15. 岡本 好司
臨床研修協議会　平成 27 年度 プログラム責任者養成講習会修了　10 月 26 － 27 日　10 月 26 日　船橋市
16. 岡本 好司
産業医科大学 第 1 外科学 手術指導 肝切除術 11 月 10 日　北九州市
17. 伊藤 重彦
講義
産業医科大学 救急医学講義 (4 学年)「新興・再興感染症について」 11 月 18 日　北九州市
18. 伊藤 重彦
講義
救急救命九州研修所「感染とその予防」 12 月 17 日　北九州市
19. 伊藤 重彦
講義
救急救命九州研修所「消化器疾患」 12 月 18 日　北九州市
20. 岡本 好司
研究協力者
●厚生労働科学研究委託費　平成 26 年度 難治性疾患実用化研究事業
後天性凝固異常症の P.O.C テストによる迅速診断システムの開発に関する研究
主任研究者　一瀬 白帝
21. 岡本 好司
社会活動
●九州工業大学　社会ロボット具現化センター　評価委員会委員就任
●日本後天性第ⅩⅢ (13) 因子欠乏症研究会　幹事就任
●日本血栓止血学会　自己免疫性後天性出血病ⅩⅢ /13 診断基準作成委員就任
●日本救急医学会　多施設共同試験特別委員会委員就任
●日本 Acute Care Surgery 学会　編集委員会委員就任

整形外科

論文

1. 4 期的手術で治療し得た Pilon 骨折（AO 分類 43C3Gustilo 分類 Type2）の経験
   飯田 腱、田中 尚洋、上戸 康平、辻 正二、野口 雅夫
   整形外科と災害外科 64（4）；833 − 836：2015

学会・研究会

1. 左ピロン骨折の 1 例
   杉山 健太郎、辻 正二、上戸 康平、杉浦 祐介
   第 21 回 北九州整形外傷研究会　6 月 14 日　北九州市
2. 小児脛骨遠位骨幹端骨折の 1 例
   上戸 康平、辻 正二、杉山 健太郎、杉浦 祐介
   第 22 回 北九州整形外傷研究会　11 月 4 日　北九州市

脳神経外科

学会・研究会

1. 出血発症の肝細胞癌の脳転移の 1 例
   福田 修志、岩永 充人、越智 章、中山 敏幸
   第 121 回 日本脳神経外科学会 九州支部会　10 月 31 日　佐賀市
2. 後下小脳動脈遠位部の偽性脳動脈瘤に対して母血管閉塞術を施行した 1 例
   福田 修志、岩永 充人、越智 章
   第 31 回 日本脳神経血管内治療学会学術総会　11 月 19 日　岡山市
3. 瘤内塞栓術中の血栓化のために first coil が早期離脱した一例
   岩永 充人、福田 修志、越智 章
   長崎脳神経外科研究会　12 月 19 日　長崎市

講演

1. 脳卒中急性期について知っていてほしいこと
   岩永 充人
   CPCR セミナー　10 月 19 日　北九州市

形成外科

論文

1. 高張ブドウ糖液の血管外漏出により皮膚壊死を生じた 2 例と、当院における血管外漏出時の対応について
   福井 季代子、福井 季代子、今村 禎伸、田崎 幸博、神薗 淳司、古川 恵子
   創傷 6（1）；36 − 40：2015

学会・研究会

1. 片側口唇裂手術においてサブユニットごとに立体を構築するデザインと手技
   田崎 幸博、福井 季代子、今村 禎伸
   第 97 回 九州沖縄形成外科学会　2 月 28 日　長崎市
2. 片側口唇裂手術においてサブユニットごとに立体を構築する手法と成果
   田崎 幸博
   第 39 回 日本口蓋裂学会学術集会　5 月 21 日　東京都
3. 片側口唇裂手術における筋層分離の位置や範囲の指標
   田崎 幸博、今村 禎伸、諸岡 真
   第 33 回 日本頭蓋顎顔面外科学会　11 月 13 日　宝塚市

講演

1. 注射点滴時のトラブル神経損傷・点滴漏れとその対策
   田崎 幸博
   第 14 回 北九州西部地区医療安全研修会　3 月 16 日　北九州市
2. あなたを支える足をいたわる　爪と皮膚のケア
   田崎 幸博
   健康みんなの広場　6 月 17 日　北九州市
3. あなたを支える足をいたわる　爪と皮膚のケア
   田崎 幸博
   健康講話　6 月 30 日　北九州市
4. 末梢静脈路確保手技と合併症回避のポイント
   田崎 幸博
   救急救命士処置拡大に係る講習　7 月 9 日　北九州市
5. きずを早くきれいに治す
   田崎 幸博
   八幡臨床外科医会　7 月 15 日　北九州市
6. 多職種で関わる口唇口蓋裂の治療と形成外科の役割
   田崎 幸博
   第 4 回 日本小児診療多職種研究会　7 月 19 日　北九州市
7. 縫合セミナー
   田崎 幸博
   第 4 回 日本小児診療多職種研究会　7 月 19 日　北九州市
8. あなたを支える足をいたわる　爪と皮膚のケア
   田崎 幸博
   しらがね福祉講座　9 月 28 日　北九州市
9. あなたを支える足をいたわる　爪と皮膚のケア
   田崎 幸博
   新虹の会八幡西昼間部　10 月 5 日　北九州市

著書

1. 顎裂部骨移植
   田崎 幸博（共著）
   形成外科診療ガイドライン 4　頭蓋顎顔面疾患（主に先天性）60 − 67 金原出版　2015

麻酔科

講演

1. AED（自動体外式除細動器）を用いた心肺蘇生法について
   金色 正広
   北九州市教育委員会　AED 講習会　10 月 13 日　北九州市

著書

1. 分担翻訳／監修協力
   金色 正広
   PEARS（小児救急 評価・認識・病態安定化）プロバイダーマニュアル G2010 日本語版 − American Heart Association　2015

その他

1. 金色 正広

AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース	2 月 7 日　市立八幡病院
AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース	2 月 8 日　市立八幡病院
AHA − PALS プロバイダーコース	2 月 28 日− 3 月 1 日　市立八幡病院
AHA − PEARS プロバイダーコース	3 月 1 日　市立八幡病院
AHA − ACLS プロバイダーコース	3 月 21 日− 22 日　九州大学病院
AHA − PALS プロバイダーコース	6 月 6 日− 7 日　市立八幡病院
AHA − PEARS プロバイダーコース	6 月 20 日　熊本赤十字病院
AHA − PEARS プロバイダーコース	6 月 21 日　熊本赤十字病院
AHA − ACLS プロバイダーコース	6 月 27 日− 28 日　九州大学病院
インストラクター参加	
AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース	2 月 7 日　北九州市
北九州 AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース	2 月 8 日　北九州市
AHA − PALS プロバイダーコース	2 月 28 日、3 月 1 日　北九州市
AHA − PEARS プロバイダーコース	3 月 1 日　北九州市
AHA − ACLS プロバイダーコース	3 月 21 日、22 日　福岡市
AHA − PALS プロバイダーコース	6 月 6 日、7 日　北九州市
AHA − PEARS プロバイダーコース	6 月 20 日　熊本市
AHA − PEARS プロバイダーコース	6 月 21 日　熊本
市 AHA − ACLS プロバイダーコース	6 月 27 日、28 日　福岡市
AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース	8 月 8 日　北九州市
AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース	8 月 9 日　北九州市

AHA − PALS プロバイダーコース　8月22日、23日　北九州市
福岡県医師会 ACLS 講習会　9月27日　福岡市
AHA − PALS プロバイダーコース　11月14日、15日　北九州市
AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース　11月21日　北九州市
AHA − BLS ヘルスケアプロバイダーコース　11月22日　北九州市
AHA − ACLS プロバイダーコース　12月26日、27日　福岡市

救急科

学会・研究会

1. 地域における DMAT 研修はいかにあるべきか?
   田口 健蔵
   第 20 回 日本集団災害医学会総会・学術集会　2月27日　東京都
2. 救急ワークステーション医師同乗指導の現状
   田口 健蔵
   第 8 回 プレホス・インホスセミナー　5月28日　北九州市
3. 北九州市消防局の救急隊員に対する BLS 効果測定の比較
   井上 征雄、田口 健蔵、伊藤 重彦
   第 18 回 日本臨床救急医学会総会　6月4日　富山市
4. 医師同乗指導における指導医師が行った処置に関する検討
   田口 健蔵
   第 43 回 日本救急医学会総会・学術集会　10月22日　東京都

座長・司会

1. 井上 征雄
   通信指令
   第 23 回 全国救急隊シンポジウム　1月29日　相模原市
2. 井上 征雄
   救急資機材Ⅱ
   第 24 回 全国救急隊シンポジウム　12月4日　札幌市

講演

1. 医師同乗指導による救急隊員教育
   田口 健蔵
   第 3 回 大阪蘇生アカデミー　11月28日　大阪市

その他

1. 井上 征雄
   平成 27 年 1 月;　エルスタ九州　講師
   平成 27 年 2 月;　MCLS 佐賀　世話人参加、日本集団災害学会参加　東京、福岡県医師会災害研修会講師、遠賀・中間事後検証会委員、CT 肺癌学会認定講習会参加　大阪

平成 27 年 3 月；北九州市医師会災害研修会　講師、北九州 ER セミナー　世話人参加、北九州市事後検証会　委員参加
平成 27 年 4 月；エルスタ九州　講師
平成 27 年 5 月；日本呼吸器外科学会総会参加　高松、 MCLS 佐賀　世話人参加、北九州市事後検討会　委員参加、遠賀・中間事後検証会　委員参加、エルスタ九州　講師
平成 27 年 6 月；エルスタ　講師参加、日本 DMAT ブラッシュアップ研修会　講師参加、北九州 ER セミナー　世話人参加
平成 27 年 7 月；北九州市事後検証会　委員参加、ここが知りたいフォーラム　世話人参加、エルスタ　講師
平成 27 年 8 月；エルスタ　講師
平成 27 年 9 月；大規模地震時広域医療搬送訓練　神奈川、福岡救急医学会参加　福岡市、北九州市事後検証会　委員参加
平成 27 年 10 月；MCLS 飯塚　世話人参加、エルスタ　講師参加、八幡病院 CPCR セミナー開催、日本 DMAT ブラッシュアップ研修会　講師参加
平成 27 年 11 月；メディカルラリー福岡　運営スタッフ参加、日本病院前診療救急医学会　世話人参加、MCLS 北九州コース　管理世話人参加

2. 田口 健蔵
救急救命九州研修所 シミュレーション　講師
1 月 8 日－ 9 日、4 月 27 日、7 月 14 日、7 月 17 日、8 月 17 日、12 月 1 日、12 月 28 日　北九州市

3. 田口 健蔵
救急救命九州研修所 指導救命士 シミュレーション　講師
6 月 8 日、7 月 3 日、7 月 6 日　北九州市

4. 田口 健蔵
日本 DMAT 隊員養成研修　講師　1 月 21 日－ 23 日、5 月 13 日－ 14 日、6 月 24 日－ 26 日、7 月 29 日－ 31 日、9 月 16 日－ 18 日、10 月 28 日－ 30 日、12 月 16 日－ 18 日　神戸市

5. 田口 健蔵
北九州地域 DMAT ブラッシュアップ研修　講師　2 月 12 日、6 月 13 日、10 月 2 日　北九州市

6. 田口 健蔵
MCLS 標準コース　講師　2 月 14 日　佐賀市
11 月 29 日　北九州市

7. 田口 健蔵
DMAT 技能維持研修　講師　2 月 15 日－ 16 日　沖縄県
5 月 16 日－ 17 日　佐賀市
9 月 12 日－ 13 日　熊本市
12 月 21 日－ 22 日　大分市

8. 田口 健蔵
福岡県 DMAT 隊員養成研修　講師　3 月 21 日－ 22 日、11 月 22 日－ 23 日　福津市

9. 田口 健蔵
福岡県医師会災害時医療救護訓練　講師　2 月 22 日　福岡市

10. 田口 健蔵
北九州市医師会災害医療研修　講師　3 月 7 日　北九州市

11. 田口 健蔵
佐賀県災害医療従事者研修　講師　3月8日　佐賀市
12. 田口 健蔵
JATEC 大分コース　講師　4月25日　別府市
13. 田口 健蔵
産業医科大学 ICLS コース　講師　5月30日　北九州市
14. 田口 健蔵
JATEC 山梨コース　講師　6月20日　甲府市
15. 田口 健蔵
北九州市消防局 処置拡大シミュレーション　講師　7月10日　北九州市
16. 田口 健蔵
第4回 小児診療多職種研修会 DMAT セミナー　講師　7月19日　北九州市
17. 田口 健蔵
JPTEC インストラクターコース　講師　8月9日　北九州市
18. 田口 健蔵
平成27年度 内閣府　大規模地震時医療搬送訓練　9月1日　神奈川県厚木市
19. 田口 健蔵
平成27年度 北九州空港航空機事故対応訓練　講師　9月28日　北九州市
20. 田口 健蔵
平成27年度 北九州市特殊災害訓練　10月9日　北九州市
21. 田口 健蔵
北九州 CPCR セミナー　講師　10月19日　北九州市
22. 田口 健蔵
平成27年度 北九州市総合防災訓練　10月25日　北九州市
23. 田口 健蔵
平成27年度 DMAT 九州ブロック実働訓練　講師　11月7日　大分市
24. 田口 健蔵
平成27年度 中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練　講師　11月14日　鳥取市
25. 田口 健蔵
平成27年度 八幡東区防災訓練　11月21日　北九州市

精神科

講演

1. 潜在する認知症患者の治療導入 当院における治療困難例
白石 康子
認知症カンファレンス　3月20日　北九州市
2. レビー小体型認知症と BPSD の治療について
白石 康子
あつまろ会　4月1日　北九州市

3. 教職員のメンタルヘルス
白石 康子
北九州私立学校養護教諭研究会　8月20日　北九州市

眼科

学会・研究会

1. 北九州エリアにおける高齢糖尿病患者の治療の現状及び今後について
板家 佳子
第20回 日本糖尿病眼学会総会　3月8日　東京都
2. 今年調査概要報告
板家 佳子
第20回 響内科眼科糖尿病心隆連携の会　3月12日　北九州市
3. 八幡病院眼科紹介
板家 佳子
北九州眼科病診連携の会　6月27日　北九州市

泌尿器科

学会・研究会

1. 進行性尿路上皮癌に対するPaclitaxel + Gemcitabine併用療法の経験
松本 博臣
第103回 日本泌尿器科学会総会　4月19日　金沢市
2. 排尿障害と排尿日誌の重要性
松本 博臣
第9回 排泄ケアを考える会　10月14日　北九州市

薬剤課

学会・研究会

1. 漢方相談の一つの方法
福永 竜一
平成27年度 戸畑漢方研修会　2月18日　北九州市
2. 一過性健忘に苓桂味甘湯を用いた治験例の検討（文献的考察）
福永 竜一
平成27年度 第5回 戸畑漢方研修会　5月13日　北九州市
3. 柴胡剤の運用についての文献的考察
福永 竜一
平成27年度 第7回 戸畑漢方研修会　7月8日　北九州市

4. ムチウチの症状に柴胡桂枝湯加葛根と桂枝茯苓丸の兼用による治験例の検討（文献的考察）
福永 竜一
平成 27 年度 第 10 回 戸畑漢方研修会　10 月 14 日　北九州市

5. 肝動脈化学塞栓療法（TACE）施行時の有害事象の発現状況と不安・抑うつの評価
原田 桂作、末吉 宏成、山本 朗子、坂本 佳子、野口 純也、木戸川 秀生、岡本 好司、村本 眞由美、名倉 弘哲
第 25 回 医療薬学会年会　11 月 23 日　横浜市

6. 不安 + うつ病の一症例に用いた薬方（梔子豉湯）の検討（文献的考察）
福永 竜一
平成 27 年度 第 12 回 戸畑漢方研修会　12 月 9 日　北九州市

座長・司会

1. 村本 眞由美
インフルエンザおよびノロウイルス感染症対策を考える
洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会）12 月度学術講演会　12 月 3 日　北九州市

2. 原田 桂作
第 6 回 北九州市立八幡病院薬薬連携講習会
北九州市立八幡病院薬薬連携講習会　9 月 3 日　北九州市

講演

1. 薬剤管理指導対象患者の不安・抑うつに対する薬剤管理指導の効果について
原田 桂作
岡山大学薬学部救急薬学セミナー　5 月 26 日　岡山市

2. 乳がんの薬物療法
末吉 宏成
第 6 回 北九州市立八幡病院薬薬連携講習会　9 月 3 日　北九州市

著書

1. 薬と検査 2015　循環器系の疾患（肺血栓塞栓症）
原田 桂作、原田 敬
薬局 570 − 585 南山堂　2015

その他

1. 末吉 宏成
日本集団災害医学会、PhDLS コース、グループディスカッション（CSCA）　9 月 12 日　大阪市

放射線技術課

学会・研究会

1. 造影 CT 検査における血管外漏出の防止および早期発見を目的とした取り組みについて
   満園 裕樹、宗吉 佑樹、入江 佳世、九町 章博、入部 勝博、山下 三樹
   第 10 回 医療の質・安全学会学術集会　11 月 23 日　千葉市

座長・司会

1. 満園 裕樹
   RSNA Report 2014
   第 49 回 北九州 CT 勉強会　3 月 24 日　北九州市
2. 満園 裕樹
   腹部 CT ②
   第 50 回 北九州 CT 勉強会　11 月 7 日　北九州市

講演

1. 医療におけるヒューマンエラー
   満園 裕樹
   第 5 回 医療放射線セーフティーマネジメントセミナー　1 月 31 日　福岡市
2. CT 装置の故障事例データベース構築およびその活用について
   満園 裕樹
   第 9 回 大分県 CT 研究会　8 月 22 日　大分市
3. 検査データと主訴から推測する疾患と適切な検査法
   入部 勝博
   北九州 CT 勉強会　11 月 7 日　北九州市

臨床検査技術課

学会・研究会

1. 虫垂炎 病理と比較検討し得た 3 例
   近藤 嗣通
   第 1 回 さらくら画症　11 月 19 日　北九州市

座長・司会

1. 近藤 嗣通
   第 4 回 日本小児診療他職種研究会　7 月 19 日　北九州市
2. 荒木 猛
   どこまで出来る？感染対策
   第 7 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　9 月 29 日　北九州市

講演

1. 尿の検査のお話
   荒木 猛
   第 5 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　2 月 24 日　北九州市

リハビリテーション技術課

学会・研究会

1. 基礎疾患のある小児科患者の急性肺炎に対し早期介入を行った 1 症例
   高橋 倍美
   第 50 回 日本理学療法学術大会　6 月 5 日　東京都
2. 超高齢者の慢性心不全増悪に対するリハビリテーションの 1 例 施設復帰を目指して
   高橋 倍美
   第 32 回 北九州心臓リハビリテーションセミナー　11 月 12 日　北九州市

栄養管理課

講演

1. 八幡病院における食事指導の取り組みについて
   梅木 加寿子
   生活習慣病　勉強会　5 月 11 日　北九州市

看護部

学会・研究会

1. ICU 患者における便秘発生リスクの検討
   山下 亮、井筒 隆博
   第 42 回 日本集中治療医学会　2 月 10 日　東京都
2. 訪問看護ステーション職員の感染対策の現状と意識調査
   中川 祐子、三井 あゆみ、伊藤 重彦
   第 30 回 日本環境感染学会学術集会　2 月 20 日　神戸市
3. 1 枚のワイプによる消毒距離と消毒効果、および 1 日 1 回の消毒が病棟ベッド策表面の細菌量に及ぼす影響
   中川 祐子、三井 あゆみ、伊藤 重彦
   第 30 回 日本環境感染学会学術集会　2 月 20 日　神戸市
4. 光触媒シリコンシートが介護施設トイレ手すりの生菌数に及ぼす影響について
   焼山 なつみ、山本 清司、坂口 昇平、中川 祐子、伊藤 重彦
   第 30 回 日本環境感染学会　2 月 20 日　神戸市
5. 延命治療を望まない高齢者搬送の 1 事例を振り返る
   橋本 真美、伊藤 重彦
   第 19 回 日本救急医学会九州地方会　5 月 16 日　佐賀市

6. 所要時間 10 分以上を要した小児救急医療電話相談事業 #8000 事例の要因と課題
西田 ゆかり、梶原 多恵、勝元 美佳、塩田 美樹、兼田 朋子
第 29 回 日本小児救急医学会学術集会　6 月 12 日　さいたま市
7. ひき逃げで搬送後に死亡した患者家族の心理変化の一分析
小野 早央理、井筒 隆博、渡辺 恭子、橋本 真美、兼田 朋子、伊藤 重彦
第 34 回 福岡救急医学会　9 月 5 日　大牟田市
8. 北九州市立八幡病院における NST 介入の現状について
山下 亮
九州臨床栄養懇話会　10 月 10 日　福岡市
9. 小児救急医療相談電話 2 症例の報告
植田 啓子、高田 久子、山下 奈緒、梶原 多恵、兼田 朋子
福岡小児救急電話相談事業研修会　10 月 15 日　福岡市

座長・司会

1. 山下 亮
急性期から終末期に移行した患者の・家族の心のケア
第 5 回 九州クリティカル研究会　3 月 7 日　北九州市
2. 永井 文恵
周術期体温管理
第 25 回 日本手術看護学会北九州地区研修会　3 月 7 日　北九州市
3. 中川 祐子
適正な CV 管理のために
第 5 回 北九州 ER Critical Care Conference　3 月 12 日　北九州市
4. 永井 文恵
手術室での災害訓練について
日本手術看護学会北九州分会研修会　7 月 11 日　北九州市
5. 永井 文恵
下腹部手術の体位について
第 17 回 北九州内視鏡外科（KES）セミナー　8 月 28 日　北九州市
6. 橋本 真美
医療安全
第 34 回 福岡救急医学会　9 月 5 日　大牟田市

講演

1. 子育て勉強会
梶原 多恵、橋本 優子、光吉 久美子
北九州市立子どもの館子育て勉強会　1 月 7 日　北九州市
2. 吐物処理の手順と感染対策のポイント
中川 祐子
平成 26 年度 医療安全対策研修会　2 月 3 日　朝倉市

3. 子育て勉強会
梶原 多恵、橋本 優子
北九州市立子どもの館子育て勉強会　2月12日　北九州市

4. 子どもの安全を考えよう
梶原 多恵
男2代の子育て講座 目指せソフリエ・パパシエ　2月15日　北九州市

5. 小児のフィジカルアセスメント
梶原 多恵
山口県看護協会研修会　2月18日　山口県

6. Q&Aコーナー　尿路感染対策
中川 祐子
第5回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　2月24日　北九州市

7. 子育て勉強会
梶原 多恵、橋本 優子
北九州市立子どもの館子育て勉強会　3月12日　北九州市

8. 地域で取り組む感染対策
中川 祐子
島根感染対策セミナー　3月22日　出雲市

9. 子育て勉強会
橋本 優子、光吉 久美子
北九州市立子どもの館子育て勉強会　4月10日　北九州市

10. 子育て勉強会
橋本 優子、光吉 久美子
北九州市立子どもの館　5月14日　北九州市

11. Q&Aコーナー　空気・飛沫感染対策
中川 祐子
第6回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　5月25日　北九州市

12. 子育て勉強会
橋本 優子
光吉 久美子
北九州市立子どもの館子育て勉強会　6月11日　北九州市

13. 子育て勉強会
橋本 優子
北九州市立子どもの館子育て勉強会　7月9日　北九州市

14. 疾患別感染対策
中川 祐子
平成27年度 感染症対策研修会　7月11日　北九州市

15. 小児看護における救命救急技術
梶原 多恵
産業医科大学産業保健学部研修会　7月15日　北九州市

16. 手洗い、防護用具の着脱、吐物処理
    中川 祐子
    平成 27 年度 感染症対策研修会　7 月 18 日　北九州市
17. オーラルマネジメント 知っていてほしい肺炎予防
    山下 亮
    看護協会 5 地区研修会　7 月 22 日　北九州市八幡東区
18. 施設内流行の早期把握と報告体制 インフルエンザ・ノロウイルス
    中川 祐子
    第 1 回 北九州市職員のための感染対策研修会　8 月 6 日　北九州市
19. 子育て勉強会
    橋本 優子、光吉 久美子
    北九州市立子どもの館　9 月 10 日　北九州市
20. Q&A コーナー　保菌と感染
    中川 祐子
    第 7 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　9 月 29 日　北九州市
21. 子育て勉強会
    橋本 優子、光吉 久美子
    北九州市立子どもの館子育て勉強会　10 月 8 日　北九州市
22. エボラ出血熱・MERS の現状と擬似患者来院時の対応について
    中川 祐子
    平成 27 年度 第 1 回 門司区医師会医療安全研修会　10 月 13 日　北九州市
23. 在宅における急変時の対応
    橋本 真美、井筒 隆博、山下 亮
    第 17 回 日本救急看護学会　10 月 17 日　佐賀市
24. インフルエンザ・ノロウイルス対策
    中川 祐子
    北九州市立八幡病院地域医療従事者研修　10 月 28 日　北九州市
25. 集団赤痢 受け入れ医療機関の対応
    中川 祐子
    第 3 回 北九州市職員のための感染対策研修会　11 月 6 日　北九州市
26. 小児のフィジカルアセスメント
    梶原 多恵
    福岡県看護協会研修会　11 月 10 日　福岡市
27. 子育て勉強会
    橋本 優子、光吉 久美子
    北九州市立子どもの館子育て勉強会　11 月 12 日　北九州市
28. 保育園における感染対策
    三井 あゆみ
    熊西保育園保育士研修会　11 月 20 日　北九州市

29. 擬似患者（エボラ・MERS 等）対応シミュレーション
　　中川 祐子
　　第 16 回 北九州西部地区医療安全研修会　　11 月 24 日　北九州市
30. インフルエンザと感染性胃腸炎
　　三井 あゆみ
　　第 2 回 北九州市立八幡病院市民公開講座　　11 月 28 日　北九州市
31. 感染予防のための手洗い
　　中川 祐子
　　第 2 回 北九州市立八幡病院市民公開講座　　11 月 28 日　北九州市
32. 急変時の対応
　　橋本 真美
　　地域医療従事者研修　　12 月 9 日　北九州市
33. 子育て勉強会
　　橋本 優子、光吉 久美子
　　北九州市立子どもの館子育て勉強会　　12 月 10 日　北九州市
34. 特殊な細菌感染症の経験「集団赤痢」
　　中川 祐子
　　第 6 回 福岡感染制御研究会　　12 月 12 日　福岡市

著書

1. 看護技術　小児看護
　　橋本 真美
　　メヂカルフレンド社　2015
2. 小児看護師のための小児虐待の知識と対応
　　梶原 多恵
　　こどもケア 2015 vol.10 no.3　日総研出版　2015
3. アセスメントの見える化　急性膵炎
　　山下 亮
　　重症集中ケア 84 － 90　日総研　2015
4. 呼吸器の解剖・生理・疾患を徹底マスター！試験対策 50 問
　　阿部 麻奈美、山下 亮
　　呼吸ケア 890 － 894　メディカ出版　2015
5. 使いやすい人工呼吸管理中の鎮痛・鎮静評価スケールは？
　　山下 亮
　　ICNR 15 － 17　学研メディカル秀潤社　2015
6. 重症敗血症患者の自験例（救急）　時間との勝負！初期管理の大切さ！
　　山下 亮
　　重症患者ケア 812 － 822　総合医学者　2015
7. 集中ケア認定看護師を目指そう
　　川 久美子
　　重症集中ケア　日総研　2015

8. 小児救急トリアージの実際
橋本 優子
小児看護 12 月号　へるす出版　2015

看護科研修

1. 看護倫理・個人情報保護、接遇、医療安全
山本 智美、朝久 清美、原田 かをる、古川 恵子、橋本 真美、大塚 由美子、中川 祐子、吉國 佐和子
平成 27 年度 新規採用者入職時研修（4 月 1 日付採用者）　4 月 2 日
2. 接遇
原田 かをる
新規採用者看護補助者研修　4 月 2 日
3. 災害看護、看護記録、感染管理 , 電子カルテ操作
橋本 真美、大塚 由美子、中川 祐子、林 和子
平成 27 年度 新規採用者入職時研修（4 月 1 日付採用者）　4 月 3 日
4. 医療安全、感染対策、基礎看護技術
朝久 清美、中川 祐子、吉國 佐和子
新規採用者看護補助者研修　4 月 6 日
5. 基礎看護技術
塩田 美樹、永井 文恵、吉武 知美
平成 27 年度 新規採用者技術研修　4 月 24 日
6. 後輩指導
佐藤 奈々絵
看護部リフレッシュ研修　5 月 20 日
7. ME 機器の取り扱い、薬剤の基礎知識、フィジカルアセスメントⅠ、重症度・医療・看護必要度
伊香 元裕、村本 眞由美、末吉 宏成、山下 亮、立石 美枝子
平成 27 年度 新規採用者 1 ヶ月目研修　5 月 21 日
8. 退院支援
波多野 妙
看護部リフレッシュ研修　6 月 4 日
9. 災害看護（1 回目）
橋本 真美、井筒 隆博
看護部トピックス研修　6 月 11 日
10. 褥瘡予防、メンバーシップ、メンタルヘルス・ストレスマネジメント
福永 晶子、吉武 知美、白石 康子
平成 27 年度 新規採用者 2 ヶ月目研修　6 月 18 日
11. 医療安全（KYT）, 看護技術
澤 浩美、川崎 久美子、小林 和枝、吉竹 洋子、佐藤 奈々絵、勝元 美佳、杉田 奈都子
看護補助者研修　6 月 24 日、25 日、26 日　6 月 24 日
12. 接遇、感染管理、医療安全、電子カルテ操作
兼田 朋子、中川 祐子、古川 恵子、林 和子
平成 27 年度 新規採用者入職時研修（7 月 1 日付採用者）　7 月 3 日

13. 急変時の対応、気管内挿管の介助、コミュニケーションスキル
橋本 真美、梶原 多恵、井筒 隆博
平成 27 年度 新規採用者 3 ヶ月目研修　7月 16 日

14. 嚥下のリスク評価
波多野 妙
看護部トピックス研修　8月 12 日

15. 急変時の看護（SBAR）
橋本 優子、井筒 隆博
看護部リフレッシュ研修　8月 27 日

16. プレゼンテーション
橋本 優子
看護部役割別研修　9月 3 日

17. 災害看護
橋本 真美、井筒 隆博
看護部リフレッシュ研修　9月 11 日

18. プリセプターフォローアップ研修
佐名木 里英
看護部役割別研修　9月 17 日

19. 医療・看護の動向、看護過程、リーダーシップ、フィジカルアセスメントⅡ
山本 智美、山下 奈緒、澤 浩美、山下 亮
平成 27 年度 2 年目研修　10月 2 日

20. 守秘義務、倫理、接遇
吉國 佐和子、植田 啓子、原田 かをる、米澤 美穂子
看護補助者研修　10月 7 日、8 日、9 日　10月 7 日

21. 感染管理Ⅱ（経路別）、エンゼルケア、多重課題
中川 祐子、橋本 真美、谷石 香津代
平成 27 年度 新規採用者 6 ヶ月目研修　10月 15 日

22. 救急・災害看護Ⅱ、後輩指導・プリセプター、看護研究
橋本 真美、井筒 隆博、永井 文恵、井生 恭子
平成 27 年度 3 年目研修　11月 5 日

23. 災害看護（2 回目）
橋本 真美、井筒 隆博
看護部トピックス研修　11月 10 日

24. チーム医療と看護補助者の役割、感染防止
山本 智美、中川 祐子
看護補助者研修　11月 18 日、19 日、20 日　11月 18 日

25. 災害看護・臓器移植
橋本 真美、井筒 隆博、川崎 久美子
看護部リフレッシュ研修　11月 26 日

26. 平成 27 年度 看護研究発表会　11 月 27 日

1. 消化器外科手術における保温部位の検討
   手術室　田中 愛美
2. 深部静脈血栓症に対する予防看護向上に向けての取り組み
   集中治療室　渡邊 紘子
3. 救急病棟における褥瘡発生予防のための取り組み
   病棟スタッフのポジショニングに対する知識、技術の向上を目指して
   東 6 階病棟　古川 美穂
4. 小児ベッドからの転落防止への取り組み
   過去 3 年間の転落事故分析と実態調査を通して
   東 4 階病棟　魚住 久美子
5. 退院支援の取り組みによる看護師の意識変化
   東 5 階病棟　山口 敦子

院内研究会

ICT 講習会

1. 平成 27 年度 第 1 回 ICT 講習会
   平成 26 年度 ICT 活動報告
   臨床検査技術課　荒木 猛、米倉 紀子、中川 祐子　5 月 19 日
2. 平成 27 年度 第 3 回 ICT 講習会
   公務災害としての職業感染対策　とくに呼吸器感染予防と曝露後の対応
   外科・呼吸器外科　伊藤 重彦　9 月 15 日
3. 平成 27 年度 第 5 回 ICT 講習会
   インフルエンザ・ノロウイルス対策　症候群サーベイランスと報告体制
   看護部　中川 祐子　11 月 17 日

医療安全管理研修会

1. 第 1 回 医療安全管理研修会
   『Oral Management って?』これだけは知ってほしい口腔ケア
   看護部　山下 亮　5 月 12 日
2. 第 2 回 医療安全管理研修会
   注射・点滴時のトラブルとその対策
   形成外科　田崎 幸博　6 月 10 日
3. 第 2 回 医療安全管理研修会
   医療機器の安全管理のための体制確保（研修、保守点検等）に関するマニュアルについて
   臨床工学課　伊香 元裕　6 月 10 日
4. 第 4 回 医療安全管理研修会
   DVD 予防リスク評価について
   看護部　高森 雅子　8 月 4 日

5. 第 5 回 医療安全管理研修会
公務災害としての職業感染対策　とくに呼吸器感染予防と曝露後の対応
外科呼吸器外科　伊藤 重彦

6. 第 6 回 医療安全管理研修会
知っておきたい医療事故調査制度
循環器内科　原田 敬　10 月 9 日

7. 第 6 回 医療安全管理研修会
知っておきたい　医療事故調査制度
循環器内科　原田 敬　10 月 9 日

8. 第 6 回 医療安全管理研修会
『平成 26 年度 リスクマネジメント部会報告会』医療安全　活動報告
医療安全管理室　古川恵子　10 月 9 日

9. 第 6 回 医療安全管理研修会
『平成 26 年度 リスクマネジメント部会報告会』薬剤課からの情報発信
薬剤課　末吉 宏成　10 月 9 日

10. 第 6 回 医療安全管理研修会
『平成 26 年度 リスクマネジメント部会報告会』患者誤認事例の検討
看護部　高澤 浩美　10 月 9 日

11. 第 7 回 医療安全管理研修会
深部静脈血栓症・肺塞栓症の予防対策
循環器内科　原田 敬　11 月 11 日、12 月 7 日

12. 第 8 回 医療安全管理研修会
医薬品安全とプレアボイド
薬剤課　原田 桂作　11 月 11 日、12 月 7 日

糖尿病教室

1. 糖尿病とは
内科　中村 寛
1 月 6 日、1 月 20 日、2 月 3 日、2 月 17 日、3 月 3 日、3 月 17 日、4 月 7 日、4 月 21 日、5 月 12 日、
5 月 26 日、6 月 9 日、6 月 23 日、7 月 7 日、7 月 21 日、8 月 4 日、9 月 1 日、9 月 15 日、9 月 29 日、
10 月 13 日、10 月 27 日、11 月 10 日、11 月 24 日、12 月 8 日

2. 運動療法、フットケア
内科　高澤 浩美、大塚 由美子、永松 真由美、久家 憲子、上岡 由美、矢野 美佑紀、青木 悦子、
木崎 早苗、吉田 愛、上村 亜希子、篠原 吉宏
1 月 6 日、1 月 20 日、2 月 3 日、2 月 17 日、3 月 3 日、3 月 17 日、4 月 7 日、4 月 21 日、5 月 12 日、
5 月 26 日、6 月 9 日、6 月 23 日、7 月 7 日、7 月 21 日、8 月 4 日、9 月 1 日、9 月 15 日、9 月 29 日、
10 月 13 日、10 月 27 日、11 月 10 日、11 月 24 日、12 月 8 日

3. 合併症と治療
内科　中村 寛
1月7日、1月21日、2月4日、2月18日、3月4日、3月18日、4月8日、4月22日、5月13日、
5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、7月22日、8月5日、9月2日、9月16日、9月30日、
10月14日、10月28日、11月11日、11月25日、12月9日

4. 低血糖・シックディ
看護部　高澤 浩美、大塚 由美子、永松 真由美、篠原 吉宏、上村 亜希子、矢野 美佑紀、青木 悦子、
木崎 早苗、久家 憲子、上岡 由美、吉田 愛
1月7日、1月21日、2月4日、2月18日、2月4日、2月18日、4月8日、4月22日、5月13日、
5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、7月22日、8月5日、9月2日、9月16日、9月30日、
10月14日、10月28日、11月11日、11月25日、12月9日

5. 糖尿病薬について
薬剤課　中村 祥子、山本 朗子、宮野 佳子、田﨑 奈緒子、原田 桂作、姫野 英二、福永 竜一、
毛利 由佳、久保地 倫子、米倉 紀子
1月8日、1月22日、2月5日、2月19日、3月5日、3月19日、4月9日、4月23日、5月14日、
5月28日、6月11日、6月25日、7月9日、7月23日、8月6日、9月3日、9月17日、10月1日、
10月15日、10月29日、11月12日、11月26日、12月10日

6. 食事療法について
栄養管理課　石田 綾子、中尾 明奈、奥田 亜古、阿南 有香、梅木 加寿子
1月8日、1月22日、2月5日、2月19日、3月5日、3月19日、4月9日、4月23日、5月14日、
5月28日、6月11日、6月25日、7月9日、7月23日、8月6日、9月3日、9月17日、10月1日、
10月15日、10月29日、11月12日、11月26日、12月10日

糖尿病栄養教室

1. 糖尿病栄養教室
1型糖尿病のサマーキャンプについて
看護部　松永 真由美　5月27日

アレルギー教室

1. 食事相談
栄養管理課　中尾 明奈　3月26日、11月19日

2. 生活指導
看護部　本 汐莉、武谷 貴代美、魚住 久美子、井生 恭子、野上 久美子、光吉 久美子、山田 友美、
森重 優真、杉田 奈都子　3月19日、3月26日、11月12日、11月19日

NST ランチタイムミーティング

1. お正月だから・・・・お酒の雑学
麻酔科　金色 正広　1月7日

2. 小児経管栄養
看護部　寺地 亜希　1月14日

3. 第 30 回 日本静脈経腸栄養学会　学術集会報告
　麻酔科　金色 正広　2月18日
4. 第 30 回 日本静脈経腸栄養学会　学術集会報告
　薬剤課　坂本 佳子　3月18日
5. 市立八幡病院　NST 活動の紹介
　麻酔科　金色 正広　4月8日、4月15日
6. 市立八幡病院の食事について
　栄養管理課　梅木 加寿子　4月22日、5月13日
7. その嚥下食、医師のせい?
　麻酔科　金色 正広　5月20日、5月27日
8. 誤嚥性肺炎を減らすには
　麻酔科　金色 正広　6月3日、6月10日
9. 摂食嚥下障害患者への対応「先行期、準備期の障害への食事支援」
　麻酔科　金色 正広　6月27日、6月24日、7月1日
10. 小児のおやつ
　看護部　齋藤 明子　7月8日
11. オイルについて
　看護部　深田 智美　7月22日、6月24日、7月1日
12. 摂食・嚥下障害患者への対応「口腔期、咽頭期、食道期の障害への食事支援」
　麻酔科　金色 正広　7月29日、8月5日
13. 骨粗鬆症について
　看護部　矢野 美佑紀　8月12日
14. 摂食・嚥下障害患者への対応「完結編?」
　麻酔科　金色 正広　8月19日、9月2日
15. 嚥下、ポジショニングについて
　リハビリテーション技術課　武田 優子　9月9日
16. 静脈経腸栄養ガイドラインを見てみよう「病態別栄養管理（成人編①）
　麻酔科　金色 正広　9月16日
17. 静脈経腸栄養ガイドラインを見てみよう「病態別栄養管理（成人編②）
　麻酔科　金色 正広　9月30日
18. 静脈経腸栄養ガイドラインを見てみよう「病態別栄養管理（成人編③」
　麻酔科　金色 正広　10月7日
19. 末梢静脈栄養輸液製剤について（新規採用輸液を中心に）
　薬剤課　坂本 佳子　10月14日
20. 経腸ポンプ使用で注入トラブルが改善された事例について
　看護部　岡本 美沙　10月28日
21. 当院外来患者さんにおける乳癌患者さんへの栄養サポートの取り組み
　看護部　佐々木 知子　11月11日
22. 褥瘡患者の栄養管理
　循環器内科　松岡 フミ　11月25日

23. 小児病棟における SGA 評価について
看護部　今城 美雪　12 月 9 日
24. 第 25 回 北部福岡 NST 研究会報告
麻酔科　金色 正広　12 月 16 日

第 8 回 クリニカルパス大会

司会 : 林 和子、木戸川 秀生　2 月 20 日　大会議室

1. 電子カルテ導入とクリニカルパスマニュアル改訂について
外科・呼吸器外科　木戸川 秀生
2. 形成外科電子カルテ移行後のパス運用
形成外科　福井 季代子
3. 小児科病棟における電子カルテ導入前後のアンケート結果
看護部東 4 階病棟　木下 章子
4. 西 3 階病棟におけるクリニカルパス電子化以降の現状と問題点
看護部西 3 階病棟　福永 聡

その他

1. CPC セミナー
CPA で搬送された 2 ヶ月乳児の一例
小児科　増井 美苗　6 月 24 日
2. 院内勉強会
脳卒中とは
脳神経外科　福田 修志　6 月 19 日
3. 院内勉強会
脳梗塞
脳神経外科　福田 修志　8 月 26 日
4. 八幡病院 Interventon Workshop
ビデオライブ : 心房心室中隔ペーシングの実際
循環器内科　原田 敬　7 月 24 日
5. 八幡病院心エコーカンファレンス
症例検討、司会
循環器内科　原田 敬　1 月 14 日
6. 八幡病院心エコーカンファレンス
症例検討、司会
循環器内科　原田 敬　3 月 10 日
7. 平成 27 年度 新規採用者 1 ヶ月目研修
ME 機器の取り扱い、薬剤の基礎知識、フィジカルアセスメントⅠ、重症度・医療・看護必要度
臨床工学課　伊香 元裕、村本 眞由美、末吉 宏成、山下 亮、立石 美枝子　5 月 21 日
8. 北九州市立八幡病院新人看護師研修
抗がん剤と糖尿病治療薬の知識
薬剤課　末吉 宏成　5 月 21 日

6

委員会報告

災害対策チーム委員会

委員長：災害医療研修センター長　伊藤 重彦

1. はじめに

災害対策チーム委員会は伊藤副院長を筆頭に各部署からメンバーが集まり、院内の災害対策全般に関わる活動を行っています。2015年は委員会の定期開催化とDMAT隊員の増員、院内災害対策訓練の実施など、良い意味で変化の多い年になりました。

2. DMATについて

3月の福岡県DMAT隊員養成研修を修了した松島（小児科）、篠原（西6病棟）、末吉（薬剤課）、山本（薬剤課）の4名と11月の同研修を修了した岡畠（小児科）、大原（集中治療室）、木村（東6病棟）、吉田（臨床検査技術課）の4名、計8名が新たに福岡県DMAT隊員として登録されました。また、以前より県DMAT隊員として登録されていた山吉（外科）と篠原、末吉、山本の4名で7月に兵庫県災害医療センターで開催された日本DMAT隊員養成研修を修了し、こちらも日本DMAT隊員として新たに登録されました。6月から毎月第2水曜日に定期開催化された委員会と様々な背景を持ったDMAT隊員の増員により、新病院に向け活動を強化しているところです。

3. 訓練について

1）院内訓練

10月に行った多数傷病者受け入れ訓練は、初めての災害カルテの使用と現行の災害対策マニュアルの検証を目的としました。訓練後の検討会では多くの課題が挙げられたため、各部署と改善点の協議を行い、現在、マニュアル改訂に向けて取り組んでいる最中です。

2）院外訓練

院外の活動では、内閣府・大規模地震時医療活動訓練（9月）のような全国規模のものから、北九州市総合防災訓練（10月）、北九州市特殊災害訓練（10月）、八幡東区防災訓練（11月）など、地域の訓練まで幅広くDMATを派遣しました。

3）各種訓練の講師派遣

昨年に引き続き、研修・訓練の運営スタッフ（講師）も積極的に派遣しており、地区・市・県医師会主催の災害医療研修会、福岡県や厚生労働省主催のDMAT隊員養成研修だけでなく、他県の災害医療研修、DMATの九州ブロック訓練・技能維持研修、中国ブロック実動訓練等、講師の派遣依頼は年々増えております。北九州地域のDMAT研修の取り組みについては日本集団災害医学会・学術集会でも発表し、県内のみならず全国に「災害医療の八幡病院」をアピールしています。

4. 平成28年度に向けて

～災害医療作戦指令センター（DMOC）について～

平成28年度より北九州市医師会災害医療救護計画が一新され、災害時に八幡病院内に災害医療作戦指令センター（DMOC：Disaster Medical Operation Center）が設置されることになりました。全国に先駆けたシステムで、運用を担う八幡病院の災害医療研修センターメンバーの役割が増えそうです。詳細については別頁「DMOCについて」をご覧下さい。

新病院に向けた政策医療の柱の一つとして、八幡病院の災害医療をさらに発展させるべくチーム一丸となって活動してまいりますので、今後ともご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

（救急科・災害医療研修センター　副センター長
田口 健蔵）

ICT委員会・感染制御室

委員長：室長　伊藤 重彦

1．院内感染対策委員会組織

院内感染対策組織は、院内感染対策委員会、ICT委員会、リンクナース会と委員会から独立した感染制御室の4部門が連携して活動しています。ICT委員会は医師（ICD）、看護師、コメディカル代表に委託業者を加え、おもにサーベイランス分析、感染対策ラウンド、マニュアル作成などの実務を行っています。耐性菌分離状況や抗菌薬使用状況などをICTニュースとして毎月1回、また、感染情報などを感染制御室通信として適宜発行しています。

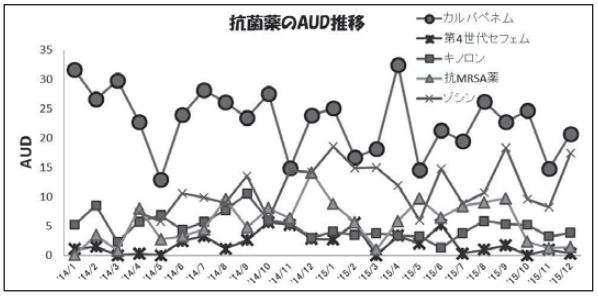
2．平成27年ICT・感染制御室活動報告

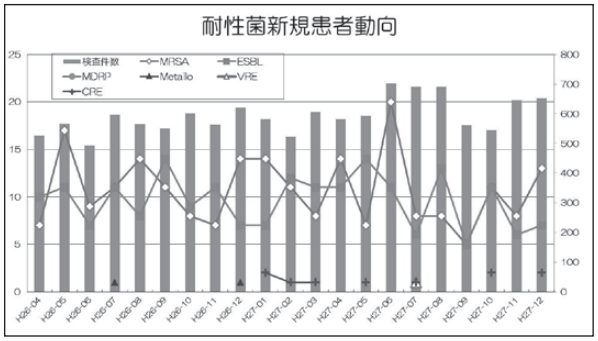
1）インフルエンザアウトブレイクへの対応

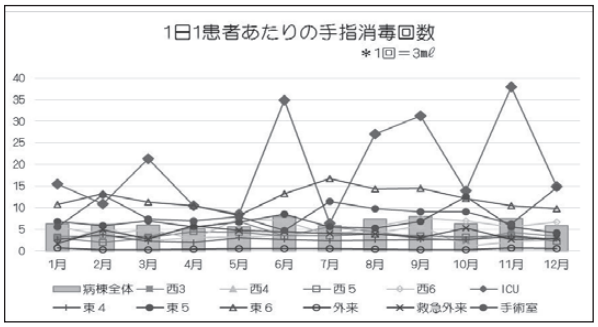
インフルエンザアウトブレイクを経験しました。1月15日に1病棟、その4日後19日にさらに1病棟のアウトブレイク宣言を行いました。直ちに飛沫感染対策、面会制限、予防投与の強化対策を実施し、1月26日（アウトブレイク宣言から11日目）に院内流行は終息しました。

2）各種サーベイランス（図参照）

抗菌薬のAUDの推移、耐性菌検出状況については図をご参照ください。10月以降、抗MRSA薬の使用が減少していますが、他の薬剤については、例年と大きく変化はありません。耐性菌の検出についても例年と大きく変化はありませんが、今年よりCREの調査も開始しました。引き続き抗菌薬AUDと耐性菌検出状況、手指消毒回数の推移を監視していきます。







3）市職員のための感染対策研修会（事務局 八幡病院感染制御室）

北九州市職員を対象として感染対策研修会を4回シリーズで開催しました。400名を超える職員の参加がありました。講演だけでなく、手洗いや吐物処理などの演習も行い、とても有意義な研修会となりました。講演内容は八幡病院ICTホームページに掲載しています。

4）院内感染対策研修会

5回開催しました。そのうち2回は院外講師による研修でした。お昼の時間帯を利用してビデオ講習会を開催して研修参加率アップを図っています（平成26年は3回開催）。

3．2016年度の活動目標

1）感染対策研修会を開催し、現場で感染対策の実践と指導ができる人材を育成します。

2）手洗いキャンペーンや地域連携活動を通して、院内職員および患者家族、地域住民へと対象を広げ、感染予防対策の啓発に努めていきます。

院内感染対策研修会の様子

臨床検査部門委員会

委員長：越智 章

1、臨床検査部門委員会の紹介

臨床検査部門委員会は当院の臨床検査部門の向上に係る事項等について審議するため、2ヶ月に1回のペースで会議を開き活動しています。

・臨床検査部門委員会のメンバー

委員長	副院長・診療支援部長	越智　章
委　員	内科　部長	中村　寛
	循環器科　部長	小住　清志
	小児科　部長	石橋　紳作
	外科　部長	野口　純也
	脳神経外科　部長	福田　修志
	泌尿器科　主任部長	松本　博臣
	看護部　副看護部長	吉國佐和子
	看護部　看護師長	米澤美穂子
	看護部　看護師長	佐藤奈々絵
	医事係長	白谷　和生
	臨床検査技術課長	宮本　征美
	臨床検査技師長	中村　尚子
	臨床検査技師長	久野　淳二
	臨床検査技師長	荒木　猛

順不同

2、活動状況

【第73回検査部門委員会　平成27年2月4日】

1）検査集約体制見直しへ向けて
- ・平成27年1月23日（金）より感染症（HBs抗原・抗体、HCV抗体、梅毒検査）を院内化。

2）検査値の「基準範囲」の見直しについて

3）電子カルテ導入後の諸課題
- ・患者プロファイルで血液型の未確定（1回）確定（2回）の区別について（開発中）
- ・急患室の採血ラベルに赤いラインを付け、見分けがつくよう改善した。

4）新病院ワーキンググループの取り組みについて

5）血球数自動計数装置の更新

6）その他
- ・血中薬物濃度の測定日変更（毎日実施へ）

【第74回検査部門委員会　平成27年4月8日】

1）新年度のメンバー紹介

2）救急セット検査について
- ・救急セットにALP、γ-GTPを組み込み「救急成人セット」、従来のものを「救急小児セット」とした。

3）電子カルテ導入後の諸課題について
- ・尿中微量アルブミン、尿中β2マイクログロブリンのオーダを随時尿と蓄尿それぞれで出来る様にマスターを変更する事とした。

4）血清クレアチニン値の結果表示について（小数点2ケタまで表示するよう変更する）

5）基準範囲の見直しについて
- ・日本臨床検査標準化協議会が推奨する全国的な共通基準に合わせて見直しを進める。

6）PTINRの現状について（国際感度指数法に変更する事とした）

【第75回検査部門委員会　平成27年6月3日】

1）電子カルテバージョンアップ時の検査対応について

2）検査集約項目であるLEテスト、寒冷凝集検査について（集約から外注へ）

3）その他
- ・T&Sオーダ時の輸血予定日と採血日時について
- ・CBCの採血量は最低0.5mlを採血していただく様お願いした。

【第76回検査部門委員会　平成27年8月5日】

1）パニック値の報告ついて（ドクターコール）
- ・運用開始後3年経過したため内容の再確認を行った。

2）検尿（病棟）の検体量について

3）寒冷凝集反応、LEテストについて（8月1日より医療センター測定項目からSRL外注に変更した）

4）NCC-ST-439　について（8月1日より医療センターでの測定を再開した）

【第 77 回検査部門委員会　平成 27 年 10 月 7 日】
1）パニック値の報告ついて（ドクターコール）
・PT のオーダーを PT と PT【治療中】を作成しパニック値を区別する事とした。PT → INR　2.0 以上、PT【治療中】→ INR　3.0 以上
・乳酸のパニック値について（成人 5.0 以上、小児 3.0 以上）

【第 78 回検査部門委員会　平成 27 年 12 月 2 日】
1）検査のキャンセルについて
2）血液ガス検査の体温補正について
3）その他
・プレーン採血管（主に髄液検査に使用）の製造中止に伴う容器変更について報告した。
・SRL 外注検査、クオンティーフェロンについて
・PT（治療中とそうでない患者）のオーダーを分ける運用を 12 月 1 日より開始している事を報告した。

3、今後の方向性
　臨床検査技術課に係わる業務について各委員と意見交換し、今まで以上に必要とされる臨床検査技術課を目指していく。

（臨床検査技術課　荒木 猛）

輸血療法委員会

委員長：越智 章

1、輸血療法委員会の紹介

輸血療法委員会は規約により、「血液製剤の安全かつ適性な運用」「血液製剤の管理」「血液製剤使用による事故防止」等について審議するため、2ヶ月に1回のペースで会議を開き活動しています。

・輸血療法委員会のメンバー

委員長	副院長・診療支援部長	越智　章
副委員長	麻酔科　主任部長	金色　正広
委　員	内科　部長	川口浩太郎
	小児科　主任部長	神薗　淳司
	外科　部長	野口　純也
	整形外科　主任部長	辻　正二
	脳神経外科　主任部長	岩永　充人
	薬剤課	姫野　英二
	看護部　副看護部長	朝久　清美
	看護部　看護師長	川崎久美子
	看護部　看護師長	永井　文恵
	医療安全管理担当課長	古川　恵子
	事務局　管理課長	高橋　浩
	臨床検査技術課長	宮本　征美
	臨床検査技師	實藤　清美

順不同

2、活動状況

【平成26年度第6回輸血療法委員会(2015/1/9金)】

1）輸血用血液製剤使用実績

2）緊急Ⅳ輸血について

3）電子カルテ患者プロファイル画面について

・患者プロファイル画面にて血液型検査の状況を確認できないかとの要望があり、東芝に申し入れた。→パッケージの改修では不可能。開発要望として挙げているが時間がかかる予定。

【平成26年度第7回輸血療法委員会(2015/3/6金)】

1）輸血用血液製剤使用実績

2）緊急Ⅳ輸血について

3）輸血インシデント発生について

・RBC-LR-2を8時間かけて輸血した事例が発生、輸血オーダ時に輸血実施時間をメッセージとして表示する様、東芝に申し入れることとした。

【平成27年度第1回輸血療法委員会(2015/5/1金)】

1）2014年度輸血用血液製剤使用実績

2）輸血管理料について

・厚生労働省が定める施設基準を一部満たしていないため､2015年4月より「輸血管理料Ⅱ」にて加算することに決定した。

3）緊急輸血

4）その他

・患者プロファイルにて血液型確定か未確定か表示できるか？→パッケージの改修では不可能。開発要望として挙げているが時間がかかる予定。

【平成27年度第2回輸血療法委員会(2015/7/3金)】

1）輸血用血液製剤使用実績

2）T&Sオーダ時の採血日時に関するメッセージについて

3）その他

【平成27年度第3回輸血療法委員会(2015/9/4金)】

1）輸血用血液製剤使用実績

2）緊急輸血症例報告

3）アルブミン製剤使用実態の検討

4）その他

【平成27年度第4回輸血療法委員会(2015/11/6金)】

1）輸血用血液製剤使用実績

2）緊急輸血症例報告（2015年9月～10月）

3）2015年3、4月分高張アルブミン製剤使用実態の検討

4）その他

【輸血製剤の使用状況と廃血率】

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
IrRCC-LR1	5	5	10	29	16
IrRCC-LR2	552	581	497	593	679
FFP-LR120	25	7	23	8	1
FFP-LR240	92	44	132	69	67
FFP-LR480	51	49	98	37	66
IrPC-10	117	120	83	155	167
IrPC-5	2	1	0	0	2
Ir-FTRC-LR2	0	0	0	0	3
自己血	6	2	0	0	4
廃血率	7.3	8.2	6.7	7.4	4.7

３、今後の方向性

適正な輸血療法を行うために各部署と協力し、必要な事項を審議しながら、今まで以上に安全かつ適正な運用が出来るように取り組んでいく。

（臨床検査技術課　荒木 猛）

広報委員会

委員長：伊藤 重彦

1. 委員会紹介

広報委員会は、広報誌「さらくら」及び「やはた病院ニュース」の発行、そしてホームページ更新、「診療年報」発行を大きな柱として活動しています。

広報誌「さらくら」は、主に連携医療機関さまへ向けて発行しています。開業医の先生やスタッフの方々などに読んでいただくので、当院の医師などスタッフの紹介、診療や手術の内容、新たに導入した機器の紹介など、医療関係者に興味を持っていただけるように専門的な内容を掲載しています。また、連携医療機関さまをご紹介させていただく内容を掲載しています。原稿執筆の依頼に伺っても、開業医の先生方はご多忙にもかかわらず快く対応していただき、たいへん助かっております。

広報誌「やはた病院ニュース」は、主に患者さまやご家族の方々など、当院にお越しの皆さまへ向けて発行しています。当院のスタッフの紹介、診療の内容などを掲載しています。また、例えばインフルエンザなどの病気についても掲載しています。医療関係者ではなく一般の方々に読んでいただくので、興味を持っていただけるように身近な問題を取り上げています。内容を理解していただけるように専門的になり過ぎないことを心がけています。

ホームページは、広く一般の方々へ向けて発信しています。皆さまに閲覧していただくので、医療関係者に向けては専門的な内容を、一般の方々に向けては実用的な内容を分かりやすく掲載しています。見やすく必要な情報が得やすいように配慮しています。また、情報が古くならないように頻繁な更新を心がけています。

（放射線技術課　樽林 斉）

2. 広報誌「さらくら」班

「さらくら第20号」2015年5月15日発行
- 総理大臣表彰を受賞して　副院長　伊藤 重彦
- 内科、新体制！
- やわらか食感　ソフト食
- 放射線検査予約の土曜受付開始について
- 診療科紹介　整形外科
- 医療連携室のご紹介

「さらくら第21号」2015年12月発行
- 連携医療機関のご紹介　みやけクリニック
- 新任副院長＆新任部長医師のご紹介
- 患者満足度調査（入院）の結果
- 認定看護師

3. 広報誌「やはた病院ニュース」班

「やはた病院ニュース第38号」2015年1月27日発行
- 小児の鼠径ヘルニア
- ヘルニアの手術を受けて
- 知っておきたい感染症･感染対策のはなし：犬や猫に咬まれた時の対処法
- NST委員会の取り組み

「やはた病院ニュース第39号」2015年4月16日発行
- 新任医師のご紹介
- 喘息の話
- 肺癌について
- 知っておきたい感染症･感染対策：風疹ワクチン接種は受けていますか?
- 呼吸ケアサポートチームの取り組み

「やはた病院ニュース第40号」2015年7月21日発行
- 汗疹
- ダニアレルギーについて
- スズメバチに注意
- 知っておきたい感染症･感染対策：結核
- 災害医療研修センターの役割と活動について

「やはた病院ニュース第41号」2015年10月28日発行
- 内視鏡下手術ってなんだ?
- ジェネリックって何?
- 知っておきたい感染症･感染対策：インフルエンザワクチンについて
- 看護部接遇委員会の取り組み

（看護部　小玉 久美、林 和子）

4. WEB／年報 班

A. 病院ホームページ更新

八幡病院ホームページ：http://www.yahatahp.jp/
以下、2015年における当院ホームページ主な更新について記す。

1. 外来担当表更新：随時
2. 患者さんの声更新：毎月
3. 広報誌（八幡病院ニュース、さらくら）のPDFファイルを掲載：随時
4. 職員採用募集：随時
5. 診療支援部等の名称変更に伴うHP上の変更
   7月
6. 学校における熱中症予防対策キャンペーン事業
   8月10日
7. エボラ出血熱に対する一般病院・診療所における対応マニュアル
   中東呼吸器症候群（MERS）に対する感染対策
   精神科患者の救急搬送に関する研究
   掲載 8月21日
8. 各診療科・部門のスタッフ・掲載内容の更新：
   春、秋 2回

B. 診療年報発刊

診療年報第4号（2014年）は2015年3月初旬に発刊となった。前号の第3号（2013年）は年末までに発刊していたため今回は2か月弱遅くなってしまった。おそくなった原因は、各診療科・委員会の原稿の集まりが悪いこと、また校正作業に時間がかかっていることが考えられる。今年はふたたび年末までの発刊を目標としたい。

（外科　木戸川 秀生）

リスクマネジメント部会

リスクマネジメント部会長：原田　敬
医療安全管理担当課長：古川 恵子

リスクマネジメント部会の2015年の実績を紹介する。毎月、インシデント・アクシデント報告の検討や医療安全に関する改善事項の検討、医療安全情報の発信などを行っている。

インシデント・アクシデント報告件数は年間809件で月平均約67件であった。

内訳は看護部78％、薬剤課8％、放射線技術課4％、医局・栄養管理係3％、臨床検査技術課・事務局2％、リハビリテーション技術課・臨床工学課は1％以下であった。このデータは年1回病院局の包括公表時に報告されている。

院内でも毎年報告会を開催し、各部門がインシデント・アクシデント報告の原因分析・改善策を提示、情報の共有は勿論、再発防止に取り組んでいる。

部会の下部組織として医療安全ワーキンググループ活動を行っており、医師をリーダーとして、看護師・コメディカルが招集、患者誤認防止チームと転倒転落防止チームに分かれて活動している。9月～10月患者誤認防止強化として、患者確認の徹底に取り組んだ。期間中、患者さんやご家族にアンケート調査を実施、貴重なご意見をいただき、職員の行動を振り返る機会となった。今後も継続した活動を行っていく重要性を痛感した。

また､ＤＶＴ／ＶＴ予防対策ワーキンググループを発足し、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症のリスク評価・予防対策を行うため、マニュアル作成と院内周知に取り組んだ。

その他､呼吸ケアチーム活動は､医師を中心に､呼吸療法認定士として看護師や理学療法士、臨床工学技士で結成、人工呼吸器の離脱を目的とした呼吸ケアラウンドを実施している。研修会の開催やコンサルテーションなど呼吸ケアに関する知識と技術の向上に取り組んでいる。

昨年と同様、多職種による院内ラウンドを毎月実施している。インシデント・アクシデント報告内容、各部署の問題点の抽出、改善策の実施状況を確認している。

患者さんが安全で安心な入院生活がおくれるよう､組織全体で継続した取り組みが必要と考える。

今後も、患者・家族及び職員の皆様の期待に応えられるよう、部会としての活動を通じて、医療安全の推進・医療安全の醸成に向かって取り組んで行きたい。

医療連携室運営委員会

委員長：太﨑 博美
副委員長：﨑田 幾子

1 委員会の概要

当委員会は、医療連携室長である副院長を委員長とし、医師、診療放射線技師、理学療法士、看護師、社会福祉士、事務職員の総勢22名で構成され、地域医療機関および関係機関との連携に関する事項を審議しています。

2 活動状況および実績

平成27年度は地域医療支援病院の取得を目指した紹介率の向上を目標に、地域医療機関との連携強化に努めました。

1）医療機関訪問

医療連携室担当官や医師が定期的に地域の医療機関を訪問し、当院の診療情報を積極的に発信しています。また地域の先生方の意見や要望を伺い、自院の改善にも努めています。平成27年度の訪問件数は1470件、うち院長はじめ新任医師による訪問が28件でした。

2）診療案内の発行

地域の先生方に安心して患者さんをご紹介いただけるように、今年度初めて「診療案内」を作成し、地域の医療機関に配布いたしました。今後、構成や記載内容について各部門からの意見をいただき、次年度に向けた改訂を予定しています。

3）地域医療機関への紹介状依頼

症状に応じたより適切な医療の提供を目的とし、紹介状を持参されていない初診患者さんを対象に、患者さんの承諾のもと、医療連携室を通じてかかりつけ医療機関に紹介状をご依頼しています。H27年は229件の紹介状を頂いており、地域の先生方のご支援ご協力に感謝しております。

4）登録医

平成25年より地域の医療機関の先生方に登録申請をいただいております。平成27年は新規に73名の先生方にご登録いただき、現在の登録医数は202名となりました。今後も積極的に登録医を募集するとともに、開放病床をご利用いただき連携をさらに深めたいと考えています。

5）在宅療養後方支援病院

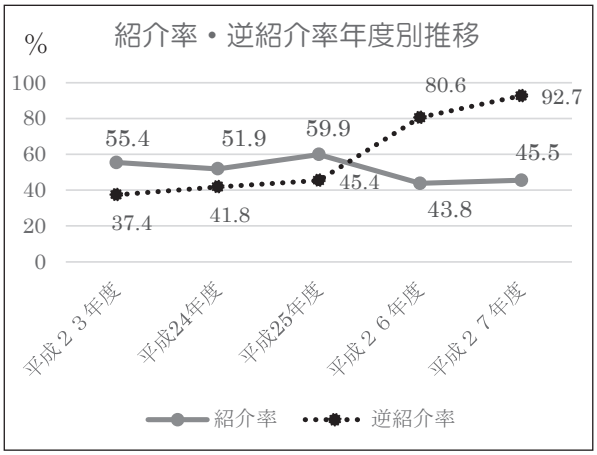
平成26年10月に在宅療養後方支援病院を取得し、在宅医療を支援しています。現在、連携医療機関６件、入院希望登録患者9名、うち3名が緊急入院されました。

6）紹介率・逆紹介率

平成27年度は紹介率45.5％（平成26年度43.8％）、逆紹介率92.7％（平成26年度80.6％）でした。紹介率については、地域医療支援病院の取得要件である50％以上を目標にさらに努力が必要です。

3 今後の課題

紹介率向上を目指し、外来患者の逆紹介の促進方法の検討や医師による医療機関訪問を推進します。また一人でも多くの地域住民の方に当院を選んでいただけるよう、市民公開講座や健康教室の開催など積極的な広報活動に努めます。



＊平成 26 年 4 月より算定要件が変更

リハビリテーション部門委員会

委員長：越智 章

当委員会は、リハビリテーション室の円滑な運営を協議するため設置されました。

その目的は、

(1) リハビリテーション部門体制の確立。

(2) リハビリテーション部門を担当する医師、専門職種間の連携と協力体制の整備。

(3) リハビリテーション部門の業務改善。

です。

これまで、病院機能評価を見据えての改善を行なってきました。

越智副院長（診療支援部長）を委員長とし、構成員は、辻整形外科主任部長（リハビリテーション技術課部長）、末永内科主任部長、田中循環器内科主任部長、山吉外科部長、岡上歯科主任部長、八坂小児科部長、津田東5病棟看護師長、大塚西5病棟看護師長、高澤西6病棟看護師長、秋月庶務係員、井上理学療法士長、須崎理学療法士主査の13名で、その他委員長が必要と認める者。

2015年は3回開催しました。

以下にその主な議題を箇条書きにします。

1）年末年始など、長期休暇期間のリハ対応について

実施前に説明を行い、実施後の反省をおこなった。対象患者の増加に伴い、対応するリハスタッフを増やすことを考慮することとなった

2）リハビリ室のインフルエンザ対策についての報告

アウトブレーク宣言を受け、リハビリ室の使用を中止し、全患者ベッドサイド訓練とした。アウトブレーク終息後は、時間帯を区切ることにより入院患者と外来患者の接触をなくす、外来患者に体温測定などのチェックを行う、全患者マスクの着用、器具及び周囲環境消毒の徹底などで対応した。

その後通常の体制となってからも、感染対策には常に注意を払っている。

3）新病院リハビリテーション室について

決定事項などの報告を行い、意見を求めた。

4）がん患者リハビリテーションについて

当委員会にて研修会参加の必要性を検討し、申し込みを決定した。

11月14日（土）15日（日）東京清瀬での「がんのリハビリテーション研修会」へ整形外科医師辻、西3病棟看護師野村、理学療法士須崎、砂山が参加した。

12月より「がんのリハビリテーション料」算定が可能となったが、研修を受けたPT2名のみしか算定できないため、今後対応患者数をみて、第2陣以降の検討を行う。

5）呼吸器リハビリテーションについて報告

呼吸器内科医師の退職によりH27年10月「呼吸器リハビリテーション料Ⅱ」となった（175点→85点/単位）。

呼吸器外科医師の登録により、11月に「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」へ戻すことができた。

6）西3病棟・西6病棟回診参加について

2016年1月より西3病棟・西6病棟の回診参加を決定した。今後リハビリが必要な患者の掘り起こしにつなげたい。

7）その他

・「リハビリテーション総合実施計画書」は患者へ渡す書類なので、それをふまえての記入をするよう主治医へアナウンスをお願いした。

リハビリへの指示は「リハビリテーション依頼書」へ記入をお願いする。

・次年度のST（言語聴覚士）の採用に伴い、言語訓練室（8㎡以上の個室）が必要となるため、事務局へ対応を依頼した。

・リハビリを実施している整形外科と形成外科入院患者が引き続き外来でリハビリを実施する場合、リハビリテーション依頼書の内容をそのまま引き継ぐこととする。

スムースに対応できるよう、内容変更の有無や受診予定日およびリハ実施頻度など、退院前にリハ担当者から直接主治医へ確認する。

・現在リハ外来患者の予約は、担当によって実施していないこともある。他部署との整合性が取れないとの指摘あり、必ず予約を入れることとした。

今後の方向

6階で実施されている心大血管リハへの適応拡大や、言語聴覚士による業務拡大など、リハビリテーション部門のさらなる充実を図るため、諸問題を検討し改善していく予定です。

（リハビリテーション技術課　井上 裕子）

クリニカルパス委員会

委員長：木戸川 秀生

1年を振り返って

2015年は電子カルテ導入から半年経ち新たに8つの電子パスが委員会にて承認された。また2月には4年ぶりにパス大会を開催することができた。さらに6月には東芝電子カルテユーザーのパス講演会が戸畑共立病院にて開催され長野市民病院の講師2名による講演が行われた。同病院のパスマニュアルを後日いただいたが、非常によくまとまっており電子カルテの共有フォルダにPDF化して掲載している。

クリニカルパスの作成・導入を普及目的に5月と6月にクリニカルパス操作説明会を開催したが、いまだにパスを使用している診療科は4つに限られている。今後は泌尿器科（作成中）や内科・循環器科にもパス作成を期待したい。

筆者は第16回日本クリニカルパス学会へ参加した。非常に興味深い演題が並んでおり今後の当院のパスにも適応できると思われるものが多くあった。平成28年は参加するだけではなく演題を発表することを目標としたい。

年間活動記録

平成27年2月16日　北九州市立八幡病院クリニカルパスマニュアル　改訂

平成27年2月20日　第4回クリニカルパス大会開催

1.「電子カルテ導入とクリニカルパスマニュアル改定について」 外科　木戸川秀生

2.「電子カルテ移行後のパス運用」 形成外科　福井季代子

3.「小児科病棟における電子カルテ導入前後のアンケート結果」 看護部　東4階病棟　木下章子

4.「西3階病棟におけるクリニカルパス電子化以降の現状と問題点」 看護部　西3階病棟　福永　聡

平成27年3月13日　平成26年度　第3回クリニカルパス委員会

眼科：硝子体手術（K-002）承認

外科：ERCP／EST　（D-021）　承認

平成27年5月22日・6月26日　クリニカルパスメンテナンス操作説明会開催

平成27年6月1日　平成27年度第1回クリニカルパス委員会

外科：CDDP／TS-1　2泊3日　（D-023）　承認

平成27年6月4日　HAPPY ACTIS九州・山口地区ユーザー会（於　戸畑共立病院）　参加

平成27年月31日　平成27年度第2回クリニカルパス委員会

外科：鼠径ヘルニア（前方アプローチ）　（D-003）　承認

外科：XELOX／XELIRI（1泊2日）　（D-025）　承認

平成27年12月15日　平成27年度第3回クリニカルパス委員会

外科：FOLFOX・FOLFIRI導入（3泊4日）（D-024）　承認

外科：S1+CDDP療法（1泊2日）　（D-026）　承認

外科：軽症虫垂炎手術（外来手術出し）　（D-004）　承認

2015年末現在　電子化パス一覧

診療科	番　号	パス名	監査日
外　科	D-001	腹腔鏡下胆嚢摘出術（前日入院）	
呼吸器外科	D-002	大腸内視鏡・ポリープ切除	
	D-003	鼠径ヘルニア根治術（前方アプローチ）	2015/10/23
	D-004	軽症虫垂炎手術（外来手術出し）	2015/12/17
	D-008	痔核根治術	2015/3/16
	D-009	結腸切除術	2015/2/6
	D-010	肝動脈塞栓化学療法	
	D-011	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術（3日前入院）	
	D-012	胸腔鏡下交感神経切除術	
	D-013	幽門側胃切除	2015/12/4
	D-014	腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア根治術（前日入院）	
	D-015	胸部大手術	
	D-016	胸部小手術	
	D-017	腹腔鏡下胆嚢摘出術（3日前入院）	
	D-018	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術（前日入院）	
	D-020	腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア根治術（3日前入院）	
	D-021	ERCP/EST	2015/3/24
	D-022	胸腔鏡下交感神経切除術（午後）	
	D-023	CDDP/TS-1　2泊3日	2015/6/24
	D-024	FOLFOX・FOLFIRI導入（3泊4日）	2015/12/17
	D-025	XELOX・XELIRI（1泊2日）	
	D-026	S1+CDDP療法（1泊2日）	2015/12/17
形成外科	G-001	顎裂	
	G-002	口蓋裂（Push Back法）	
	G-003	片側口唇裂	
	G-004	両側口唇裂	
	G-005	副耳（2泊3日）	
	G-006	副耳（1泊2日）	
	G-007	口蓋裂（Furlow法）	
	G-008	顎裂（金曜日入院）	
	G-009	口蓋裂（Push Back法）金曜日入院	
	G-010	片側口唇裂（金曜日入院）	
	G-011	両側口唇裂(金曜日入院）	
	G-012	口蓋裂（Furlow法）金曜日入院	
	G-013	口蓋裂（Push Back法）2日前入院	
小児科	C-004	低身長性差クリニカルパス	
眼科	K-001	白内障手術クリニカルパス（3泊4日）	
	K-002	硝子体手術クリニカルパス	
	K-003	白内障手術クリニカルパス（2泊3日）	

（文責　木戸川 秀生）

褥瘡対策委員会

委員長：田崎 幸博

１．褥瘡対策委員会について

八幡病院褥瘡対策委員会は、院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図る目的で、形成外科主任部長を委員長とし、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務局のメンバーで構成されている。月２回のラウンドや年３回の褥瘡ニュースの発行、褥瘡対策セミナーを開催し、褥瘡予防対策の指導や啓発活動を行った。

２．活動について

褥瘡発生状況のデータ収集を行い、褥瘡有病率や褥瘡推定発生率・褥瘡発生者リストをもとに褥瘡対策に関する検討を行った。また、定期ラウンドを通して、褥瘡ケアや予防対策の実施状況の確認および指導を実施した。褥瘡ニュースを３回発行し、エアーマットレスや静止型マットレスに関する情報提供を行った。

３．平成 27 年の褥瘡発生状況

褥瘡推定発生率については年間平均 1.9％（平成 26 年：2.9％）であり、ガイドラインの標準値 0.60 ～ 1.76％に近づいてきている（図１）。新規褥瘡発生部位については、手関節や鼻、頬、耳など、止血帯や酸素マスクや栄養チューブなどが原因とみられる医療関連機器圧迫創傷が多く見られていた（図２）。新規褥瘡発生時の NPUAP 分類では、ステージⅡでの発見が 62％を占めており、ステージⅢで発見される例も見られた（図３）。

４．今後の方向性

本年度より、医療関連機器圧迫創傷を褥瘡と捉え、褥瘡対策委員会で報告し経過を追っている。今後は、医療関連機器圧迫創傷に対する効果的な予防方法などを検討し、褥瘡発生の低減に努めていきたい。

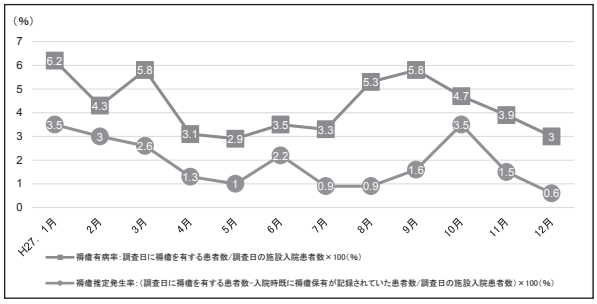


図１：褥瘡有病率と褥瘡推定発生率
（2015 年１月～ 12 月）

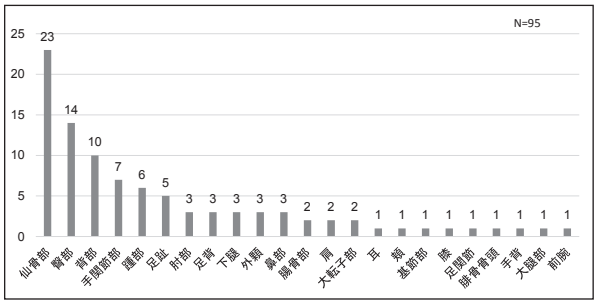


図２：新規褥瘡発生部位（2015 年１月～ 12 月）

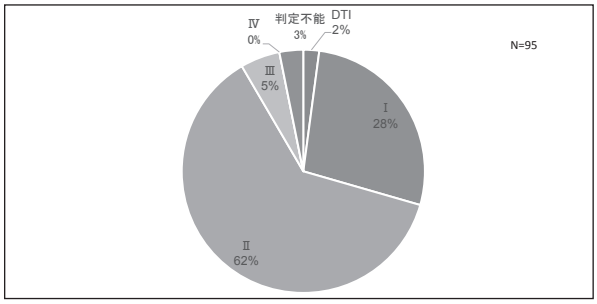


図３：新規褥瘡発見時の NPUAP 分類
（2015 年１月～ 12 月）

臨床研修管理委員会

委員長：岡本 好司

1　はじめに

医師法により、診療に従事しようとする全ての医師は、臨床研修を受けることが義務付けられています。当院では、プライマリ・ケアに対処しうる第一線の臨床医、あるいは高度の専門医を目指す臨床医にとって必要な基礎的知識、技能及び態度を実地に習得させることを目的とし、また、患者の問題を医学的のみならず、心理的、社会的に捉え、正しい人間関係のもとに医師としての倫理・責任感を養うことを目標としています。

当院の臨床研修管理委員会は、研修の進捗状況を把握・評価するため、委員長以下、18 診療科全主任部長と他職種、外部委員により構成されています。全診療科が関わることで診療科の垣根を越えた指導を行うことができ、また、研修医が気軽に上級医に相談しやすい環境を整えています。

2　活動状況

⑴ 初期研修医の受入れ再開に向けた取組み

昨年9月、基幹型臨床研修病院の再指定を受け、初期研修医の受入れ（定員2名）を再開することになりました。

2016年度は、2名の初期研修医が当院で初期研修を受けることになりました。

⑵ 研修医の指導

2015年度は、協力型臨床研修病院として、市立医療センター、産業医科大学病院など7病院の初期研修医10名を受け入れ、小児科、救急科などで研修を行いました。

また、後期研修医は小児科を中心に13名受け入れました。

⑶ 研修医確保に向けた取組み

初期・後期研修医確保のため、様々な事業者が開催する臨床研修合同説明会に参加し、当院のPR活動を行いました。

＜ 2016 年 2 月 13 日開催：

九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会＞

参加者：岡本副院長、天本統括部長、神薗小児科主任部長、事務局

＜ 2016 年 3 月 6 日開催：

レジナビフェア 2016 福岡＞

参加者：太﨑副院長、岡本副院長、天本統括部長、神薗小児科主任部長、小児科後期研修医（青砥医師、平田医師）、事務局

臨床研修管理委員長　岡本 好司

事務局　増谷 倫典

センター連絡会議

議長：伊藤 重彦

八幡病院センター連絡会議は、毎週火曜日朝に開催され、院内および地域の救急医療システム全般に関する協議を行う会議である。院長を除く幹部、各部署実務責任者が参加し、救命センター、小児救急センター受診、入院状況などに関する週間報告を行っている。また、5月連休、シルバーウィーク、年末年始明けには、拡大センター連絡会議を3回開催した。

（救急科　井上 征雄）

週間報告

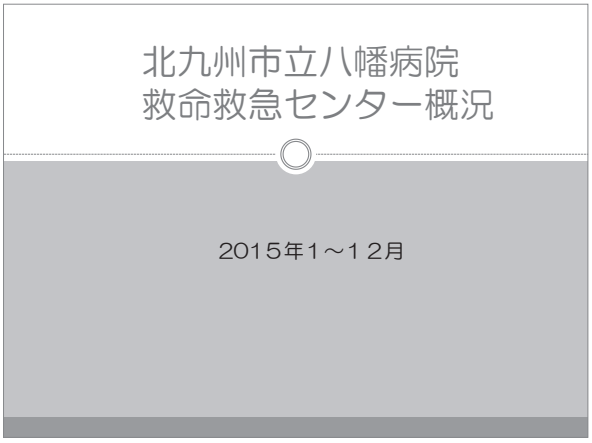
1. 救急外来受診患者、入院患者動向
2. 第2夜間休日急患センター、輪番日紹介患者
3. 救急車受入状況と救急車応需率
4. ICU、小児、救急病棟の入退室状況
5. ドクターカー出動事案、警察対応事案
6. CPA患者の概要

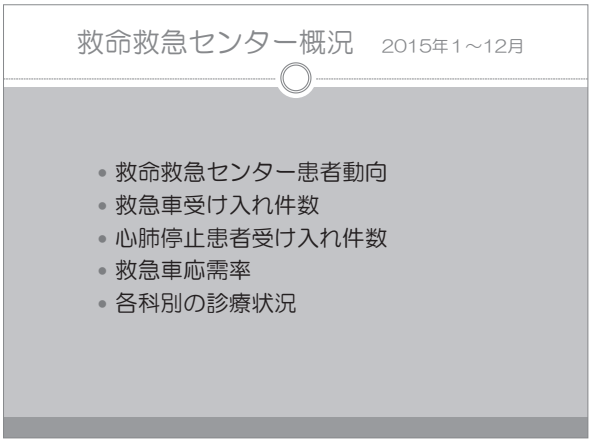
協議事項

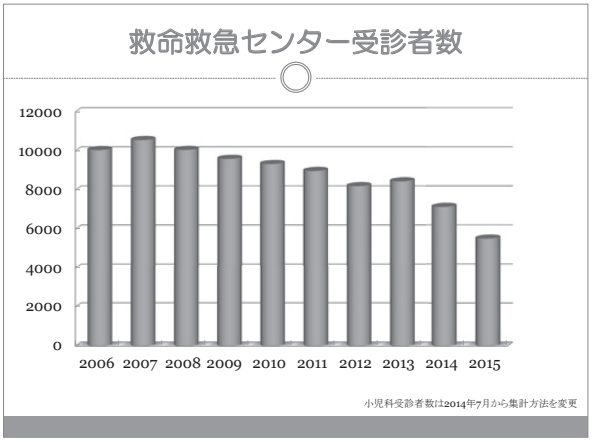
1月：院内ABCコール、インフルエンザ対応
2月：インフルエンザ対応、輸血システム、西棟CT故障
3月：災害マニュアル改訂、精神科救急
4月：院内の無断外出、外泊、かかりつけ患者の電話相談、検査値表示の変更
5月：直接来院患者の対応、薬物中毒患者の対応
6月：骨折患者の対応、直接来院患者の対応、患者受入停止
7月：VRE持ち込み、災害訓練の予定
8月：CPA患者の警察対応
9月：開業医からの患者紹介、救急外来の不応需事案
10月：転送事例、夜間･休日急患センターの電話相談、不応需事案
11月：緊急輸血の運用体制、呼吸器疾患の患者受入
12月：福岡医療情報ネット、直接来院患者対応、呼吸不全患者の受入

2015年救急概要

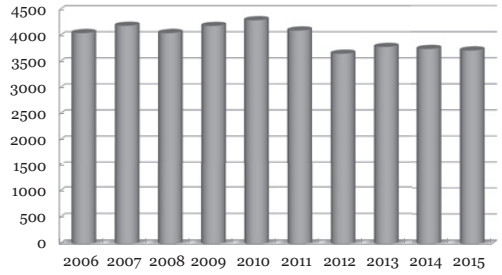
2015年1月から12月までの救急概要を表にて提示



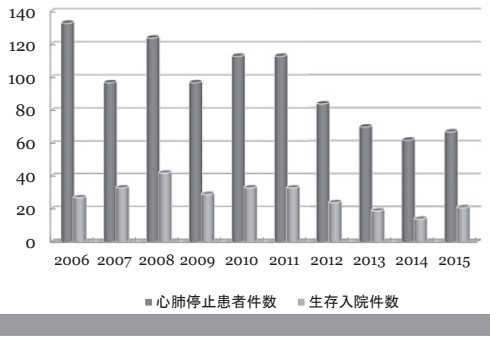




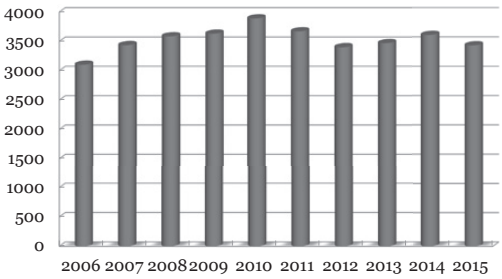
救命救急センター入院者数



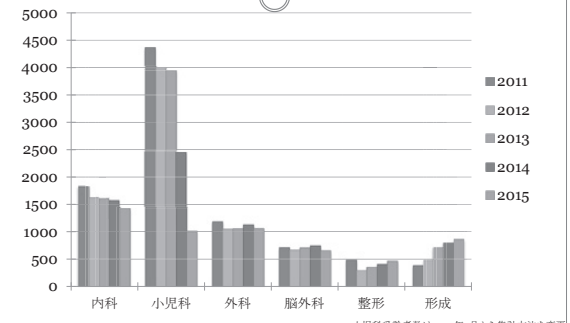
心肺停止患者搬入件数



救急車搬入件数

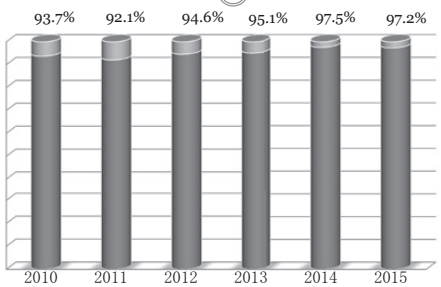


各科別受診者数



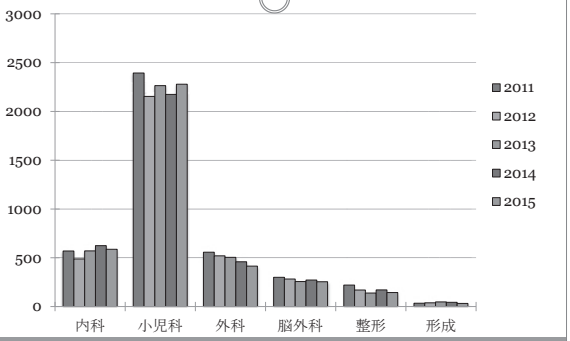
小児科受診者数は2014年7月から集計方法を変更

救急車応需率



2015年は1~9月まで

各科別入院者数



電子カルテ委員会

委員長：太﨑 博美

電子カルテ委員会は、電子カルテ導入とその経時的な維持を行ってきました。電子カルテ導入は、ハード面の導入が目立ちますが、実際にはむしろソフト面の組み立てが重要でした。実際には、初期の導入検討、病棟・外来運用の整備、各部門別の運用検討とそれらの調整を経てハードの導入が行われました。平成26年6月末からの導入後は、ハード運用は東芝医療システムズにお願いして行われています。本委員会は、平成27年は、ハード面の問題はなく、ソフト面の変更を行ってきました。また、本委員会の下部組織として部門検討委員会（委員長　田崎幸博形成外科主任部長）を設置して、実務的な問題はこの委員会で対処することにしています。本会は、これまでの電子カルテ委員会に相当する機能にうち、病院全体に影響する決済を必要とする者を主に担当することにしました。

電子カルテ導入一年目に当たる平成２７年６月２０日午前１時３０分からシステムバージョンアップを行いました。各部門システムも同時に停止しますので、救急受け入れ停止など病院全体の協力の下、行いました。特に小児救急は受け入れ停止を行わず紙カルテ～伝票運用を併用する事にしましたので、運用に緊張感がありました。後々のアンケートでは、「小児科では入院が重なって大変だった」「放射線科では、件数が少なかったこともあり、事後オーダや紐付けまで科内で行った。予定されていた医師が行う手間を省けた」「薬剤科では、システム停止開始直前まで処方オーダが入ったため電子カルテ停止がやや遅れた。システム連携の不具合が他部門よりの指摘で判明した」など予想よりもうまく進行したところとだいぶ工夫して乗り切って頂いた所があったようでした。幸いいずれの部署も大きなトラブルなく終了していたのは、企画係や各部署の担当の方の協力のお陰と思います。その後、部門検討会にて、どのバージョンアップしたソフトを実際に稼働させるかを話合い、各部署へアンケートを行って導入しています。機能的には大きな変化のものはないのですが、少しずつ“良くなった”ことを実感出来るような有意義なバージョンアップとなっていました。ついで、１１月１４日13～１７時に停電に伴う電子カルテシステム停止を行っています。これは、昨年度に一度経験していることもあり比較的問題なく終了しまた。

部門委員会では、実際の運用面での不具合や新たに生じた問題点の検討を行っています。これらの問題点は、東芝側と“issue log”として共有して解決することになっています。例えば、「研修医の実施した処方に対する認証機能」「細菌検査報告の迅速な周知方法」「深部静脈血栓症～急性肺動脈塞栓の危険性評価の表示場所」など多くの具体的な要望に対して、東芝側と折衝し解決してきています。

今後は、DPC病院としてさらに電子カルテの重要性が増してきます。これからも病院機能の中心に位置する電子カルテを円滑に運営するために委員会として活動していきたいと思います。

内視鏡委員会

委員長：木戸川 秀生

1．2015 年を振り返って

現在内視鏡技師の資格を持つ看護師は 8 名で、そのうち松永、足立の 2 人が主に内視鏡室を担当している。また原則として 24 時間の緊急内視鏡処置（特に止血処置）に対応している。

2．2015 年内視鏡件数

上部消化管 993 件、下部消化管 662 件、ERCP 59 件、気管支鏡 48 例と前年度と比較して約 1 割強増加した。また ESD は 14 件で徐々に増加している。

2015 年の時間外内視鏡検査の件数は 55 件で上部消化管内視鏡検査全体の 5.5％であった。時間外の場合は救命救急センター準夜・深夜勤務の看護師が対応しているが特に問題なく緊急処置も可能である。

3．2015 年に新しく導入した機器

OLYMPUS EVIS LUCERA ELITE が導入されることとなった。同シリーズは従来のハイビジョン画質を大幅に上回る高精細画像と、2 段階フォーカス切り替えの機能が搭載されている。がんなどの微細病変の早期発見に貢献する NBI も、観察性能が一段と向上している。

4．新病院へ向けて

数年後の新病院移転へ向けて内視鏡室の配置等について担当事務・スタッフで検討を行った。現在のところ、上部用に 1 室、下部用に 1 室、透視室併用が 1 室の 3 部屋で運用する計画である。また、前処置室・回復室・患者説明室を設ける予定である。

5．今後の課題

現在の電子カルテシステムと内視鏡システムの DATA 受け渡しがいまだにスムーズではない。特に手術室にある内視鏡システムにて行った検査の画像が電子カルテへ取り込めないという状況であり改善が望まれる。

がん化学療法委員会

委員長：岡本 好司

今年度は念願だった小児科のレジメン登録を開始することができました。総件数も飛躍的に上昇しています。委員会メンバーが力をあわせ、当院のがん化学療法体制もますます充実してきました。

抗がん剤は副作用が強いため、治療効果と安全性が確認された治療を行う必要があり、医師、薬剤師、看護師など様々な職種が集まり、専門知識を出し合って、患者さんが安心して、安全な治療を受けていただけるよう、チームで診療に取り組んでいます。

■医師の役割

各診療科の医師は、科学的根拠に基づいた治療を選択し、患者さん・ご家族に説明します。近年、様々な癌腫の診療ガイドラインが作成・改訂され、化学療法も推奨レジメンが癌腫の状態などで設定されており、新規の化学療法も迅速に多く取り入れられます。これらの情報を下に医師は診療を行っています。化学療法当日は、患者さんの体調を確認し、採血検査等で前療法の副作用の程度を把握した上で、投与実施の可否を総合的に判断し実行します。また、治療薬の増減、補助療法の追加、レジメンの変更などを行い、治療を継続していきます。2015 年度は 2014 年度に引き続き、病院全体での癌腫の増加、手術数の増加とともに、外来癌化学療法患者数の増加も益々認められており、2016 年度に向け、さらなる発展を目指し、改善事項や新規に話し合う事例、新規レジメン追加などを委員会として継続的に取り上げていく予定です。

■看護師の役割

看護師は、患者さんが安全・安楽・確実に化学療法を受けられるように、抗がん剤の投与管理と有害事象のマネジメントを行います。現在では、分子標的薬や、さまざまな毒性の異なる抗がん剤を使用するため、患者さん一人ひとりの状態や使用される抗がん剤の特徴を把握した上で看護を実践しています。また、最近では外来化学療法を受ける患者さんが増加しているため、副作用により QOL を低下させることなく化学療法が継続できるように、患者さん自身で副作用を自己管理していくための相談やアドバイスを行うなど、患者さんの能力に合わせたセルフケア支援を行っています。

がん治療では、がんの告知や治療法の選択・変更など意思決定の場面が多く、そのような患者さんに対して精神的な支援や十分な情報提供を行い、患者さん自身が意思決定を行えるように努めています。

無菌調製加算；50点(A)40点(B)（Aの中で揮発性高い薬剤に閉鎖器具を使用150点、それ以外に使用100点）

外来化学療法加算2－A（15歳以上450点 15歳未満700点） 外来化学療法加算2－B（15歳以上350点 15歳未満600点） がん患者指導管理料3 200点

平成27(2015)年度 診療報酬点数

	外来件数	外来剤数	入院件数	入院剤数	無菌調製加算	外来化学療法加算2-A 15歳以上	外来化学療法加算2-A 15歳未満	外来化学療法加算2-B 15歳以上	外来化学療法加算2-B 15歳未満	がん患者管理指導料3	合計点数
2015年4月	29	50	20	45	2420	11700		1050		200	15370
2015年5月	35	59	18	50	2600	13950		1400		400	18350
2015年6月	33	64	22	61	2810	13050		1400		800	18060
2015年7月	27	59	29	44	2970	12150		1050		400	16570
2015年8月	27	56	44	86	3560	10350		1400		600	15910
2015年9月	22	44	22	47	2230	8550		700		200	11680
2015年10月	27	58	24	58	2510	10800		1050		600	14960
2015年11月	27	59	34	71	3010	10350	0	1400	0	0	14760
2015年12月	23	48	28	57	2540	8550	2100	350	0	200	13740
2016年1月	31	57	41	40	4160	11700	700	1400	0	400	18360
2016年2月	29	72	52	93	4340	12600	0	350	0	400	17690
2016年3月	43	111	49	76	5060	15750	2800	1400	0	400	25410
合計	353	737	383	728	38210	139500	5600	12950	0	4600	196260

■薬剤師の役割

新規の抗がん剤や分子標的薬、治療法が増加していくなかで、レジメン登録の際にしっかり審査し、常に有効で安全な化学療法の標準化に努めています。抗がん薬治療を受けられる患者さんのお薬は原則として薬剤師が無菌混合調製しています。抗がん剤の調製には安全キャビネットと閉鎖式薬物混合システムを導入し薬剤師をはじめ医療スタッフ・周辺環境の安全対策に取り組み、正確に調製を行っています。

患者さん毎に別途ファイルにて管理し、投与量・投与間隔など、内服薬についても服用期間・休薬期間などの確認を行っています。副作用の状況等から主治医に必要なお薬を提案することなど、患者さんが安全・安心に治療が受けられるよう努めています。がん化学療法の処方は複雑で、がんの種類・臓器により投与方法が異なります。毒性も強く、薬の専門家として、レジメン審査から実際の投与に至るまでの各場面に携わることが求められます。副作用で苦しむ人がひとりでも出ないように、患者さんの助けになるために日々頑張っています。がん化学療法は院内だけでは完結しません。退院後のフォローを保険薬局薬剤師と共に行うために定期的に薬薬連携勉強会を開催しています。

（医師：日本癌治療認定医機構暫定教育医、消化器がん外科治療認定医、岡本好司、
看護部：がん化学療法看護認定看護師　福永聡、
薬剤課：がん薬物療法認定薬剤師　原田桂作）

ソフト･アップ委員会

委員長：伊藤 重彦

ソフト・アップ委員会は2014年秋に新設され、伊藤副院長の下、医局、診療支援部、看護部、医療安全管理室、感染管理室、事務局の代表から構成された動き出したばかりの新しい委員会です。

地域市民から信頼される病院、個々の患者に優しい、質の高い医療を提供できる病院を目標に、職員の倫理・接遇への意識を高め、円滑なチーム医療を行うことを目的に設置されました。

職員の倫理・接遇・奉仕の精神を根ざすこと、働きやすい環境作り、美化、イメージアップに関すること等を少しずつ始めています。

活動実績

1．飲酒運転撲滅活動：毎月25日を「飲酒運転撲滅の日」に定め情報提供を行い、平成27年12月16日には県より飲酒運転撲滅アドバイザーの佐藤宗利氏を招聘し講演会を開催いたしました。（参加者約100名）

飲酒運転撲滅講演会

2．接遇向上に向けて：平成28年1月26日にはスターフライヤー（株）運送客室部中島陽子部長を招聘し、おもてなしの心と伝え方のアドバイスを頂き大変好評でした。（参加者約100名）

接遇向上講演会

3．病院周辺清掃活動：平成27年1月6日より毎週水曜日朝8時より院長始めとする幹部職員がチーフとなり毎回15～20名の職員が病院周囲の清掃を行っています。実際に行っている職員にも概ね好評で朝の清掃は気持ちがすっきりする、連帯感が生まれるなどの前向きな発言を頂きました。

病院周辺清掃活動

4．患者満足度調査：平成28年2月15～19日外来、22日～26日病棟にて患者満足度調査を行いました。今までのアンケートとは内容を一新し各科別、各病棟別に結果を出し優れている科や病棟、お手本にすべき職員の公表など全体のモチベーション強化をはかる目的で開始されました。

まだ始まったばかりの委員会ですが新病院に向けて、より市民に愛され重宝され、救急医療、災害医療、小児医療における地域医療の核となり得る病院を目指し、また働く職員にとって暖かく、やりがいのある、働きやすい病院を目指し新しいことを見つけ出し、作り上げていく委員会活動を行って参ります。

（小児科　天本 正乃）

栄養管理委員会

委員長：天本 正乃

1．委員会紹介

栄養管理委員会は、栄養管理全般の改善及び業務運営の円滑化を図ることを目的として、3か月に1回、年に4回会議を開催し活動しています。

平成27年度メンバーは、天本統括部長を委員長とし、木戸川医局長、神薗小児科主任部長、中村内科部長、吉國副看護部長、立石病棟師長、井生病棟師長、髙橋栄養管理課長、梅木栄養管理係長、石田管理栄養士の10名で構成されています。

2．委員会活動状況

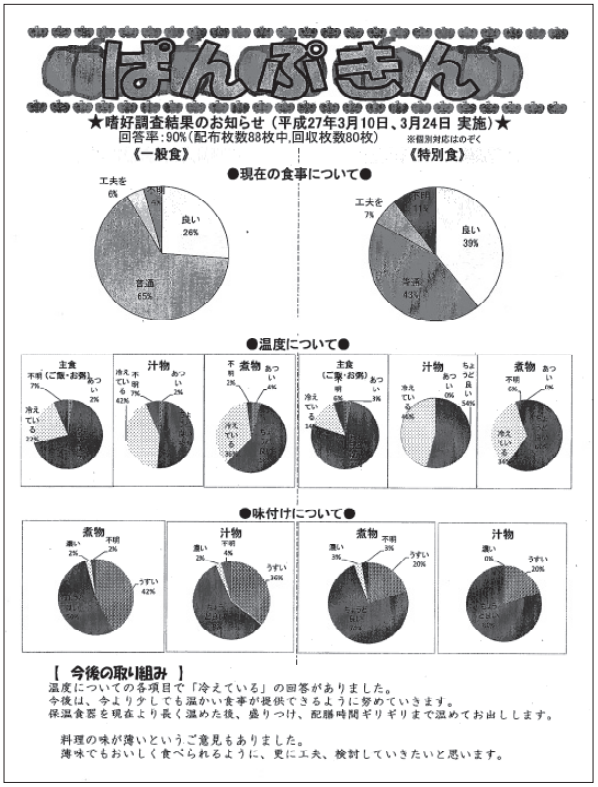
平成27年は例年の課題の他、約束食事箋の改定や電子カルテ導入後の諸問題の検討を主に取り組みました。

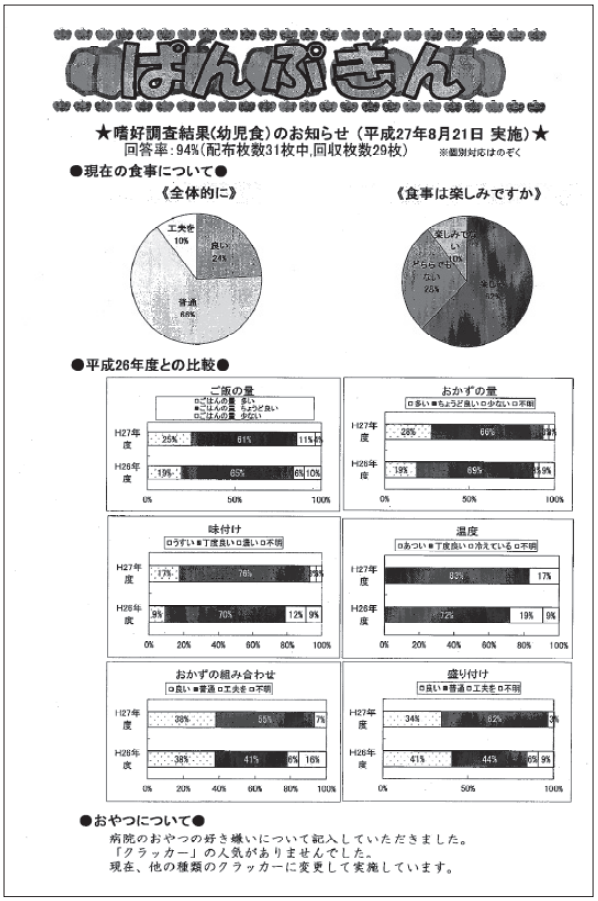
平成27年の主な議題

（1）約束食事箋の改定について
（2）電子カルテにおける栄養関係の入力方法について
（3）濃厚流動食の新規採用及び取り消しについて
（4）備蓄食品の使用について
（5）嗜好調査について
（6）平成26年度の実績について
　① 入院時食事療養費と食材料委託費との比較
　② インシデント件数
　③ 栄養指導件数　　他
（7）平成27年度の栄養関係事業について
（8）平成28年29年度の食事提供業務委託業者選定について
（9）その他、年末年始等栄養関係連絡・周知事項等について

3．今後の方向性

平成28年は、安全で安心な食事の提供はもとより、患者さんの栄養状態に適した濃厚流動食の選定やより有用な嗜好調査項目の検討など、栄養管理のさらなる向上に取り組んでいきます。

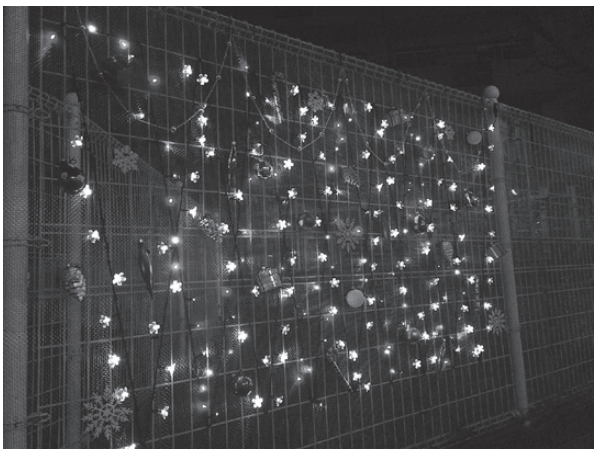




コミュニティアクション・ヘルスサポート委員会

委員長：伊藤 重彦

本委員会は平成27年4月にスタートした新しい委員会です。コミュニティアクションは、当院と関わりのある地域（とくに八幡地区）において、さまざまな活動をされている組織、団体と連携して、地域活性化に参画する活動です。昨年は、イルミネーション2016に参加し、病院の外壁にイルミネーションを設置、点灯させました。また、地域活動を知る機会として、院内研修会として地元代表企業であるTOTO総務部の中塚様にお話しをして頂きました。ヘルスサポートは、医療を通じて地域住民の健康サポートに貢献する活動です。八幡病院には、それぞれの専門分野で活動する多職種スタッフがいます。感染対策や疾病予防に関する講話、AEDの使い方から心肺蘇生法まで急変時対応の実習など、幅広い分野で市民の健康サポートに貢献できる活動を行っていきます。写真は、イルミネーション点灯の様子です。



（平成27年度の活動実績）

1．コミュニティーアクション事業

・八幡駅前イルミネーション2015　参加
八幡病院裏玄関保育所前の壁にイルミネーションを設置し、平成27年11月13日～平成28年1月15日の期間において日没点灯

2．ヘルスサポート事業

・AED使用法の講習会（小学校職員対象）
平成27年10月13日

・健康相談コーナー（八幡東区役所防災訓練会場）
平成27年11月21日

・PPE着脱講習会（八幡西区役所職員対象）
平成28年1月26日

・学校における熱中症対策研修会
①高須中学校（6月29日）
②本城中学校（7月6日）
③東谷中学校（7月7日）
④向洋中学校（7月13日）
⑤洞北中学校（7月13日）
※教育委員会・消防局・環境局・八幡病院コラボ企画

病床運営委員会

委員長：太﨑 博美

病床運営員会は、小児病症を含む一般病棟、ICU・東6病棟の二つの特殊病床の運営とこれからの病床運営の検討立案を行う委員会です。医師、看護部、事務方から構成されています。平成27年度は、その前年度から始まったICUの重症度評価（8床、救命救急加算II，A評価≧3点かつB評価≧3点）を満たす患者の割合を80%以上に保つことが求められています。当院は、救急型ICUを届けていますので、入室のルートも算定に加味されます。H27年度の平均入室者数は、4.9名／日でした。また、そのうち救命救急加算IIを算定した患者は、3.0名／日、重症度評価をみたした患者は、2.7名／日（90.0%）となりました。また、いずれの月も算定要件の80%以上を満たすことが出来ました。また、入室のルートが違うために算定できなかった患者（例えば、予定手術の後に、ICU入室する患者、一般病棟で状態悪化のためにICU入室する患者など）は、1.9名／日でした。これらの患者は、特定ICU（一般の病院で採用している）では、加算を得る可能性がありますが、当院では、救命センター標榜の関係で、救急型ICUを採用しています。また、ICU基準は満たさないが、より軽症のHCU基準なら満たす患者数は、約0.9名／日いました。この値が多ければ、HCU併設も考えることになりますが、他病棟のHCU相当患者さんを合わせても約3名／日であり、HCUを現在の病院で設置することは考えていません。次いで、東6（16床、救命救急加算I，疾病重症度による届け出）の状況ですが、H27年度の平均入室者数は、8.9名／日でした。また、そのうち救命救急加算Iを算定できた患者は、3.8名／日（42.7%）となりました。東6は、救命救急加算I相当患者（成人、小児）と時間外救急患者（成人）の受け入れ施設ですので、入院患者の中での救命救急加算Iの患者割合が少なくないのはある程度仕方のないことと考えています。むしろ、一般病棟への迅速な移動による準備空床の確保が順調に行えていることに感謝をしています。また、一般病棟の看護必要度は、4病棟平均で14.6%／月でした。基準の15%の90%に相当する13.5%未満になることなく経過してきました。いわゆる認可不可状態にはならずに経過してきています。

将来的な本院の病床について、“包括ケア病床”の導入を検討いたしました。DPC導入に伴い、長期化する入院患者については、次のステップ（転院、施設入所、自宅退院）への準備の場として“包括ケア病床”は、有効と考えられます。現在、地域医療ビジョンの構築が進行している関係で、迅速な導入は出来ない状態です。平成29年度以降の導入の検討になりますので、本院のDPCの経過を見ながら再検討を行う予定です。

本委員会は、平成28年度の診療報酬改定による新基準に合致する機能運営を迫られています。また、平成30年度移転を目指して新病院が動き始めています。新しい病院での病床割り当てや運用開始を本委員会で検討して行きたいと思います。

7

各種学会指導医・専門医・認定医一覧

（平成28年3月31日 現在）

認定修練施設

臨床研修指定病院
日本内科学会認定教育関連病院
日本循環器学会専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会研修関連施設
日本神経学会准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本外科学会専門医修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設（認定施設）
日本胸部外科学会認定施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設
日本小児科学会専門医研修施設
日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本眼科学会専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔指導病院
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本超音波医学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本プライマリケア学会認定研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本外傷学会外傷専門医研修施設
日本消化器病学会認定施設

各種学会指導医・専門医・認定医

日本内科学会

認定医　太﨑　博美、末永　章人、
吉田　有吾、田中　正哉、
小住　清志、佐貫　仁宣、
中村　寛、川口　浩太郎、
下野　淳哉

総合内科専門医
太﨑　博美、佐貫　仁宣

日本循環器学会

専門医　太﨑　博美、田中　正哉、
小住　清志、佐貫　仁宣

日本心血管インターベンション治療学会

認定医　原田　敬

日本神経学会

指導医　末永　章人
専門医　末永　章人

日本消化器病学会

指導医　岡本　好司
専門医　野口　純也、川口　浩太郎、
上原　智仁

日本肝臓学会

指導医　岡本　好司
専門医　野口　純也

日本外科学会

指導医　伊藤　重彦、岡本　好司、
野口　純也、木戸川　秀生、
山吉　隆友
専門医　伊藤　重彦、岡本　好司、
野口　純也、木戸川　秀生、
山吉　隆友、新山　新、井上　征雄、
上原　智仁

日本消化器外科学会

指導医　岡本　好司、木戸川　秀生、
山吉　隆友、野口　純也
専門医　岡本　好司、木戸川　秀生、
山吉　隆友、野口　純也
認定医　伊藤　重彦、岡本　好司
消化器がん外科治療認定医
岡本　好司、木戸川　秀生、
山吉　隆友、野口　純也

日本胸部外科学会

指導医　伊藤　重彦

日本糖尿病学会

指導医　中村　寛
専門医　中村　寛

日本呼吸器外科学会

認定登録医
井上　征雄
指導医　伊藤　重彦

日本肝胆膵外科学会

高度技能指導医
岡本　好司

日本内視鏡外科学会

技術認定医
木戸川　秀生

日本呼吸器内視鏡学会

指導医　伊藤　重彦
専門医　伊藤　重彦

日本消化器内視鏡学会

指導医　伊藤　重彦、岡本　好司、
川口　浩太郎、木戸川　秀生、
山吉　隆友
専門医　伊藤　重彦、岡本　好司、
川口　浩太郎、木戸川　秀生、
山吉　隆友、野口　純也

日本腹部救急医学会

腹部救急暫定教育医
伊藤　重彦、岡本　好司、
木戸川　秀生
腹部救急認定医
伊藤　重彦、岡本　好司、
木戸川　秀生

日本小児科学会

臨床研修指導医
市川　光太郎、天本　正乃、
神薗　淳司
専門医　市川　光太郎、天本　正乃、
神薗　淳司、石橋　紳作、
今村　徳夫、富田　一郎、
富田　芳江、小野　友輔、
小野　佳代、八坂　龍広、
川口　真澄、高野　健一、沖　剛

日本血液学会

専門医　神薗　淳司

日本小児血液がん学会

小児血液がん暫定指導医
神薗　淳司

日本小児外科学会

専門医　桝屋　隆太、新山　新

日本脳神経外科学会

専門医　越智　章、岩永　充人、福田　修志
指導医　越智　章、岩永　充人

日本脳卒中学会

専門医　岩永　充人

日本脳神経血管内治療学会

専門医　岩永　充人

日本整形外科学会

専門医　辻　正二、田中　尚洋

認定脊椎脊髄病医

辻　正二

日本形成外科学会

専門医　田崎　幸博、今村　禎仲

皮膚腫瘍外科指導専門医

田崎　幸博

日本熱傷学会

専門医　田崎　幸博

日本創傷外科学会

専門医　田崎　幸博

日本泌尿器科学会

指導医　松本　博臣

専門医　松本　博臣

日本耳鼻咽喉科学会

専門医　麻生　裕明

日本眼科学会

専門医　板家　佳子

日本麻酔科学会

指導医　金色　正広

専門医　石田　昌一

日本医学放射線学会

専門医　神崎　修一、今福　義博、今村　紹美

日本超音波医学会

指導医　神崎　修一

日本IVR学会

指導医　神崎　修一

肺がんCT検診認定機構

認定医　神崎　修一、井上　征雄

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

検診マンモグラフィ読影認定医

今福　義博、今村　紹美

日本救急医学会

専門医　伊藤　重彦、木戸川　秀生、

井上　征雄、田口　健蔵

日本精神神経学会

専門医　白石　康子

日本皮膚科学会

専門医　藤野　雅世

日本産婦人科学会

専門医　今福　雅子

日本乳癌学会

認定医　岡本　好司

日本がん治療認定医機構

暫定教育医

岡本　好司

認定医　山吉　隆友、今福　雅子

ICD制度協議会

インフェクションコントロールドクター認定医

伊藤　重彦、岡本　好司、

木戸川　秀生、山吉　隆友、

田口　健蔵

日本医療機器学会

認定MDIC

金色　正広

厚生労働省

麻酔科標榜医

金色　正広、石田　昌一

統括DMAT登録者

伊藤　重彦、井上　征雄、田口　健蔵

日本医師会

認定産業医

太﨑　博美、田中　正哉、
小住　清志、小住　乃理子、
白石　康子、金色　正広

日本外傷学会

専門医　　山吉　隆友

日本外科感染症学会

外科周術期感染管理教育医

伊藤　重彦、岡本　好司

外科周術期感染管理認定医

伊藤　重彦、岡本　好司

日本プライマリ・ケア連合学会

認定医　　下野　淳哉

指導医　　下野　淳哉

8

編集後記

編集後記

今年も残すところわずかとなりました。今回も例年と同じく前年の年報が年内に発行できるかの瀬戸際となってしまいました。業績集のDATA収集は前年同様に電子カルテサーバーを利用したファイルメーカーサーバーへの入力とし比較的良好に作業は進み、その他の原稿の集まりも昨年よりはよかったと思いきや・・・結局発行までに時間を要するのはなぜか？　真剣に考えないといけません。

新病院まであと残すところあと2年を切るところまで来ました。

「今年は昨年よりも早く発行を！」を毎年毎年合い言葉に編集委員一同頑張ってまいります。

（年報編集委員長　木戸川 秀生）

広報委員会委員長　伊藤　重彦（副院長）
年報編集委員長　木戸川秀生（外　科）
年報編集委員　富田　一郎（小児科）
中村　祥子（薬剤課）
兼田　朋子（看護部）
塩田　美樹（看護部）
岩下　律子（看護部）
秋月健一郎（庶務係）